

リアホナ

救い主がお教えになった
ように教える、
12ページ

新約聖書の時代を概観する、
8ページ

リアホナ



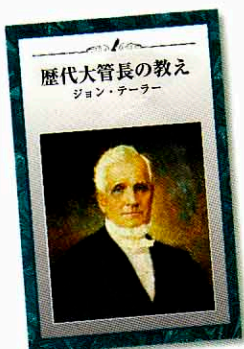
表紙

表紙—「ベテスタの池」カール・ヘンリック・ブロック画、© Brigham Young University Museum of Art (ブリガム・ヤング大学付属美術館) 版權所有。同美術館の厚意により掲載。裏表紙—「生ける水」サイモン・デュエイ画。ユタ州アメリカンフォークのアルタス・ファイン・アート社の厚意により掲載。



「フレンド」表紙

ブライアン・コール画 (6ページの「しんでんカード」を見ましょう)。



34ページ参照

一般

- 2 大管長会メッセージ—主の道
第一副管長 トーマス・S・モンソン
- 8 新約聖書の時代を概観する—
イエス・キリストの生涯—降誕から最後の週末まで
- 12 教え、宣べ伝え、癒す 十二使徒定員会 ジェフリー・R・ホランド
- 25 家庭訪問メッセージ—備えていれば恐れることはない
- 34 ジョン・テラー—真理の擁護者 カーラ・C・エリックソン
- 42 末日聖徒の声
まことの宝 ソフィア・コリーナ・リモンディ・デ・アグレダ
めいの証 イルマ・デ・マケナ
主にゆだねました グネル・タマズアン
- 48 「リアホナ」2003年1月号の活用法

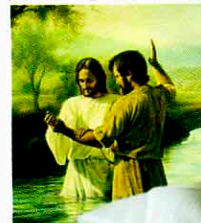
青少年

- 24 アイデアリスト—同世代の青少年を導く シャルロット・カチャペロ
- 26 地の果てまでも リチャード・M・ロムニー
- 32 奉仕の業に召され ローラリー・バセット・レビット
- 47 御存じでしたか？

フレンド

- 2 預言者の声—聖約
第二副管長 ジェームズ・E・ファウスト
- 4 分かち合いの時間—わたしはイエス・キリスト教会のかわいいんです
ビッキー・F・マツモリ
- 6 しんでんカード
- 7 全力をつくして
ピアン・プレストウィッチ
- 10 新約聖書ものがたり
—10人のおとめ/タラント
- 16 特別な証人—バプテスマ
十二使徒定員会
ロバート・D・ヘイルズ長老

「フレンド」16ページ参照



付録

- 分かち合いの時間ポスター—
わたしはまつじつせいとイエス・キリスト教会の
かわいいんです



本誌は、末日聖徒イエス・キリスト教会の国際機関誌で、以下の言語で出版されています。
アイスランド語、アルバニア語、アルメニア語、イタリア語、イロカノ語、インドネシア語、ウクライナ語、英語、オランダ語、韓国語、ギルバート語、サモア語、スウェーデン語、スペイン語、スロベニア語、セブアノ語、タイ語、タガログ語、チェコ語、中国語、デンマーク語、ドイツ語、トンガ語、日本語、ノルウェー語、ハンガリー語、ヒリガイノン語、フィジー語、フィンランド語、フランス語、ブルガリア語、ベトナム語、ポーランド語、ポルトガル語、マーシャル語、マダガスカル語、ルーマニア語、ロシア語。(五十音順—発行頻度は言語により異なります。)

大管長会: ゴードン・B・ヒンクレー、トーマス・S・モンソン、ジェームズ・E・ファウスト
十二使徒定員会: ボイド・K・バックナー、L・トム・ペリー、デビッド・B・ヘイト、ニール・A・マックスウェル、ラッセル・M・ネルソン、ダリン・H・オクス、M・ラッセル・バラード、ジョセフ・B・ワースリン、リチャード・G・スコット、ロバート・D・ヘイルズ、ジェフリー・R・ホランド、ヘンリー・B・アイリング
編集長: デニス・B・ノイエンスジュバダー
顧問: J・ケント・ジョリー、W・ロルフ・カー、スティーブン・A・ウェスト

教科課程管理部責任者
実務運営ディレクター: ロナルド・L・ナイトン
企画/編集ディレクター: プライアン・K・ケリー
グラフィックスディレクター: アラン・R・ロイボーク

国際機関誌スタッフ
編集主幹: マービン・K・ガードナー
編集主幹補佐: ジェニファー・L・グリーンウッド
編集副主幹: ロジャー・テリー
編集補助: スーザン・パレット
出版補佐: コレット・ネベカー・オウン

デザインスタッフ
機関誌グラフィックスマネージャー: M・M・カワサキ
アートディレクター: スコット・バン・カンペン
デザイナー主任: シェリー・クック
デザイナー: トーマス・S・チャイルド
制作主幹: ジェーン・アン・ピーターズ
制作: レジナルド・J・クリステンセン、デニス・カビー、ケリー・プラット、ローランド・F・スピークス、カリ・A・トッド、クラウド・E・ワーナー
デジタルプリプレス: ジェフ・マーティン

予約購読スタッフ
ディレクター: ケイ・W・ブリッグス
配送部長: クリス・クリステンセン
マーケティング部長: ジョイス・ハンセン
●定期購読は、「リアホナ」注文用紙でお申し込みになるか、郵便振替(口座名/末日聖徒イエス・キリスト教会 振替口座番号/00100-6-41512)にて教会管理本部配送センターへご送金いただければ、直接郵送いたします。●「リアホナ」のお申し込み・配送についてのお問い合わせ……〒133-0057東京都江戸川区西小岩5-8-6/末日聖徒イエス・キリスト教会 管理本部配送センター 電話 03-5668-3391

発行所 末日聖徒イエス・キリスト教会
〒106-0047東京都港区南麻布5-10-30
電話 03-3440-2351

印刷所 株式会社 明文社
定価 年間予約/海外予約2,400円(送料共)
半年予約1,200円(送料共)
普通号/大会号200円

英語版承認—1996年8月 翻訳承認—1996年8月
原題—International Magazines January 2003.
Japanese. 23981 300

For Readers in the United States and Canada:
January 2003 no. 1. LIAHONA (USPS 311-480) Japanese (ISSN 1344-8595) is published monthly by The Church of Jesus Christ of Latter-day Saints, 50 East North Temple, Salt Lake City, UT 84150. USA subscription price is \$10.00 per year; Canada, \$15.50 plus applicable taxes. Periodicals Postage Paid at Salt Lake City, Utah. Sixty days' notice required for change of address. Include address label from a recent issue; old and new address must be included. Send USA and Canadian subscriptions and queries to Salt Lake Distribution Center at address below. Subscription help line: 1-800-537-5971. Credit card orders (Visa, MasterCard, American Express) may be taken by phone.

POSTMASTER: Send address changes to Salt Lake Distribution Center, Church Magazines, PO Box 26368, Salt Lake City, UT 84126-0368.



良心の承認を得る

わたしの家には20年分以上の『リアホナ』(スペイン語版)を捨てずに取ってあります。神の御霊を必要としたときには、この『リアホナ』から真の慰めを得てきました。2001年9月号に掲載されたデビッド・O・マッケイ大管長の教えは、わたしたちの人生にとってすばらしいメッセージでした。マッケイ大管長の言葉は、良心の承認を得るように激励してくれました。良心の承認を得れば、一人で考え事をしているときに、真の友との交わりの中にあることができるのです(「人格を形作るもの—デビッド・O・マッケイ大管長による『靈感に満ちた教え』」40参照)。『リアホナ』から霊的な強さを得ることができ、家族全員で心から感謝しています。

チリ・アングルスステーキ、
エルミラドルワード
エルナン・トレド・マルティネス

『リアホナ』による改宗

『レトワール』(以前のフランス語版教会機関誌の名前)の最終号と『リアホナ』(現在のフランス語版教会機関誌の名前)

の最初の号は、回復された福音の道—何年もの間わたしが探し求めていたものです—を歩み出すのを助けてくれました。喜びと感謝の念でいっぱいです。

それまでの人生において、どこへ行っても間違った教えに遭遇し、落胆していました。それで、イエス・キリスト御自身が地上に戻って来て、これこそ御自分の福音であるとお知らせになるまでは、どんな種類の教会にも決して足を踏み入れまい、と心に決めていたのです。しかし、教会機関誌の記事の言葉遣いや内容により、ジョセフ・スミスが回復した真実にたどり着くことができました。わたしは再度教会に集っています。しかも今度はイエス・キリストの真実の教会にです。

コンゴ共和国キンシャサ伝道部、
ムブジマイイ支部
フィデル・キトゥマワタランザンビ

チャーチ・ニュースが大好きです

わたしは『リアホナ』(ポルトガル語版)を読むのが好きです。特にいちばん好きなのがチャーチ・ニュースです。チャーチ・ニュースを読むと、世界各地の教会でどのようなことが起きているのかが分かります。教会機関誌を購読していない人々は、すばらしいものを逃していると思います。

ブラジル・ポルトアレグレ南ステーキ、
ニロウルフワード
ロドリゴ・バロス・ソアレス



主の道

第一副管長

トーマス・S・モンソン

愛しなさい、という神聖な戒め

主のユダヤでの務めが終わりに近づいたころ、「ある律法学者が現れ、イエスを試みようとして言った、『先生、何をしたら永遠の生命が受けられましょうか。』」

彼に言われた、『律法にはなんと書いてあるか。あなたはどうか読むか。』

彼は答えて言った、『「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なるあなたの神を愛せよ。」また、「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」とあります。』

彼に言われた、『あなたの^{こたえ}答は正しい。そのとおりにいなさい。そうすれば、いのちが得られる。』

すると彼は自分の立場を弁護しようと思っ
て、イエスに言った、『では、わたしの隣り人とはだれのことですか。』

イエスが答えて言われた、『ある人がエルサレムからエリコに下って行く途中、強盗どもが彼を襲い、その着物をはぎ取り、傷を負わせ、半殺しにしたまま、逃げ去った。』

するとたまたま、ひとりの祭司がその道を下ってきたが、この人を見ると、向こう側を通って行った。

同様に、レビ人もこの場所にさしかかってきたが、彼を見ると向こう側を通って行った。

ところが、あるサマリア人が旅をしてこの人のところを通りかかり、彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリブ油とぶどう酒とを注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。

翌日、デナリ二つを取り出して宿屋の主人に手渡し、『この人を見てやってください。費用がよけいにかかったら、帰りがけに、わたしが支払います』と言った。

この3人のうち、だれが強盗に襲われた人の隣り人になったと思うか。』

彼が言った、『その人に慈悲深い行いをした人です。』そこでイエスは言われた、『あなたも行って同じようにいなさい。』¹

時代は変わり、歳月は流れ、人を取り巻く環境も変わっています。しかし、律法学者への主の勧告はわたしたちにもそのまま当てはまります。あたかも、直接わたしたちに語られる主の声を耳にしているかのようです。

戒めを守る方法

今年、新約聖書を学んでいて、こう自問することがあるかもしれません。「今日わたしたちは、『主なるあなたの神を愛せよ』という神聖な戒めをどれほど忠実に守っているだろうか。」

主は言われました。「わたしのいましめを心



律 法学者への主の勧告はわたしたちにもそのまま当てはまりません。あたかも、直接わたしたちに語られる主の声を耳にしているかのようです。

にいでこれを守る者は、わたしを愛する者である。」「わたしに従ってきなさい。」「わたしはあなたがたのために模範を示した。」「あなたがたの掲げる光とは、わたしである。すなわち、わたしが行うのをあなたがたが見た、その行いである。』²では、実際に主はどのような行いをされたのでしょうか。

主は、馬屋でお生まれになり、かいばおけに寝かされました。こうして遠い昔からの預言を成就されました。羊飼いたちは、急いで主をあがめに訪れました。東方からは博士たちが宝物を携えてやって来ました。こうして時の中間が始まったのです。

ベツレヘムでのこの^{おきなご}幼子の誕生により、一つの大きなエンダウメントが世に明らかにされました。それはどんな武器にも勝る力であり、カイザルの金貨よりも永続する富です。この幼子こそ、王の王、主の主、約束のメシヤとなる御方、つまりイエス・キリスト、神の御子だったのです。

聖文によると「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛され³ました。ヨハネからバプテスマをお受けになり、⁴「よい働きをしながら……巡回されました。』⁵ナインの町では、やもめの息子を蘇生させ、母親にお渡しになりました。⁶ベテスタでは、約束の池に入る望みを失っていた体の不自由な人を哀れまれました。主は手を差し伸べて立ち上がらせ、この人の病をお癒しになったのです。⁷

やがて、ゲツセマネの園での非常に苦しみの時が訪れました。主はすべての人の罪を御自身の身に引き受け、偉大な贖いの業をされました。わたしたちが自分では行えないことを、代わって行われたのです。

続いて、ゴルゴタでの残酷な十字架の時を迎えます。現世での最後の数時間、主は悪人に慰めの言葉を語られました。「あなたはきょう、わたしと一緒にパラダイスにいるであろう。』⁸さらに主は母マリヤのことを忘れることなく、その深い愛が伝わってくるような、感動的な言葉を語られました。「イエスは、その母と愛弟子とがそばに立っているのをごらんになって、母にいわれた、『婦人よ、ごらんください。これはあなたの子です。』それからこの弟子にいわれた、『ごらんください。これはあなたの母です。』その

とき以来、この弟子はイエスの母を自分の家に引きとった。』⁹こうして偉大な贖い主なる主は亡くなられました。

救い主のようになる

今、わたしたち一人一人の耳に、遠い昔に語られた二つの質問が、稲妻のように響き渡ります。「あなたがたはキリストをどう思うか」¹⁰と「イエス[をわたしたちは]どうしたらよいか」¹¹という質問です。ここで、次の3つの提案をしたいと思えます。

1. 主について学ぶ。「わたしに学びなさい」と主は言われました。「わたしは柔和で心のへりくだった者であるから……あなたがたの魂に休みが与えられるであろう。』¹²

2. 主を信じる。箴言の作者はこう勧めています。「心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。すべての道で主を認めよ、そうすれば、主はあなたの道をまっすぐにされる。』¹³主の名は天の下にあって、わたしたちを救い得る唯一の名です。

3. 主に従う。主は「哀れみ」という言葉を行い、表してくださいました。哀れみの気持ちを伝える方法を示し、わたしたちが従うべき道を明らかにされました。無私の奉仕は主の生涯を特徴づけるものでした。

主について学び、主を信じ、主に従うことにより、主のようになる力が得られます。表情が変わり、心が和らぎ、成長が速まり、視野が広がります。生活は、本来あるべき状態に高められます。変化は時として、目に見えないものです。しかし、確実に起きます。

隣人に対する救い主の愛

救い主の働きは終始、隣人愛を具現したものでした。けげんそうな律法学者に与えられたこの第2の教えは、「きわめて尊い律法」¹⁴と呼ばれています。

目の見えない人は癒され、ヤイロの娘は生き返り、らい病の人は癒されました。彼らは皆、イエスにとって隣人でした。井戸の傍らにいた女性も隣人でした。完全な御方である主は、罪を告白した罪人の前に立ち、手を差し伸べられました。この場合、彼女が「傷を負った旅人」で、主が「良いサマリヤ人」だったわけです。こうして、主から親切といたわりを受けた人々の数は増えていきました。



「ところが、あるサマリヤ人が……彼を見て気の毒に思い、近寄ってきてその傷にオリーブ油とぶどう酒を注いでほうたいをしてやり、自分の家畜に乗せ、宿屋に連れて行って介抱した。」

では、時と場所を今のわたしたちに移してみましよう。隣人は、わたしたちの愛と親切、助けを必要としていないでしょうか。

数年前、ロイター通信社の記事で、乗客150人を乗せたアラスカ航空のアンカレジとシアトルを結ぶ直行便の話を読みました。同機は、重傷を負った男の子を救助するため、進路からそれて遠隔地まで救急飛行したのです。2歳になるエルトン・ウィリアムズ3世君は、アンカレジの南方450マイル(約725キロ)にあるヤクタートの自宅近くで遊んでいて転び、ガラスの破片で腕の動脈を切ってしまいました。現場に駆けつけた医師たちは、航空会社に男の子の救助を要請しました。これを受けて、アンカレジ・シアトル便が進路を変更してヤクタートへ向かったのです。

医師たちは、男の子の出血がひどいので、シアトルまで飛んでいたら命がもたないだろうと言いました。そこで飛行機は、病院のある最寄りの都市、ジュノーまでの200マイル(約320キロ)を飛ぶことにしました。その後、飛行機はシアトルに向かいました。到着が2時間も遅れたうえ、ほとんどの乗客が乗り継ぎの飛行機に間に合いませんでした。しかし、だれも苦情を訴えません。それどころか全員が財布からお金を取り出し、男の子と家族のために募金を始めたのです。

やがて、飛行機がシアトルに着陸しようというころ、「エルトン君は快方に向かっている」という無線連絡があった旨をパイロットから聞き、乗客全員が大喜びしました。この話には、確かに隣人愛が見られます。

機会を逸する

ある日、一人の男性が、「あなたのお隣はどなたですか」と尋ねられました。

こう答えたそうです。「名前は知りませんが、お子さんたちはうちの芝生を駆け回り、その犬は、夜ごとわたしを起してくれますよ。」

しかし、別の男性は、前者とは違った気持ちを込めて、ある夜の日記に静かにこう書いています。「向かいの家は、昨日まで空き家だと思っていた。しかし、ドアにかけられた黒い喪中の印が、そこに人が住んでいたことを教えてくれた。」

機会を永遠に逸してしまうことの悲しさを、ある詩人はこうつぶっています。



イ エス・キリストは「哀れみ」という言葉を行いで表してくださいました。哀れみの気持ちを伝える方法を示し、わたしたちが従うべき道を明らかにされました。無私の奉仕は主の生涯を特徴づけるものでした。

「果てしないこの大きな町にも、
角を曲がったすぐそこに友達がいる。
日は過ぎ、月は走り去る。
知らぬ間に1年が過ぎる。
旧友の顔を一度も見ぬまま。
人生は恐ろしく速く、矢のように過ぎていく。
昔と変わらずわたしは彼が好きだ。
彼もそのことを知っているはずだ。
子どものころ、よく彼の家に遊びに行った。
彼もよくわたしの家の呼び鈴を鳴らした。
でも今や二人は忙しさに追われ、足取りも重い。
愚かなゲームに疲れ、
名を立てる努力に疲れた二人。
明日こそジムを訪ねよう、
わたしの心にはいつも彼がいることを知らせるために。
しかし明日が来て、またその日が過ぎていく。
二人を隔てる溝はますます広がる。
曲がり角のすぐそばなのに、まるで遠くの人ようだ。
そこへ1通の電報が舞い込んだ。
『ジム死す』と。

これが二人の最後に得たもの。
曲がり角の向こうのあの友達は、もう二度と戻って来ない。』¹⁵



主は偉大な医師です。しかし、医師以上の御方です。文字どおり、世の救い主、神の御子、平和の君、イスラエルの聖者、よみがえられた主です。

「番号案内さん」

昔、わたしはポールという名の幼い少年と電話交換手との間の隣人愛を描いた物語に感動を覚えました。二人は一度も顔を合わすことはありませんでした。それは、多くの人が懐かしく思い出すであろう時代の話ですが、若い世代には無縁の話かもしれません。

ポールはこう物語っています。「わたしがずっと若かったころ、父は近所でも真っ先に家に電話を引いた。輝く受話器が箱型電話の側面にかけられていたのをよく覚えている。わたしは小さかったので電話に手が届かなかったが、よく母が電話機に向かって話すのをうっとりして見ていたものだ。やがてわたしは、そのきれいな装置の中のどこかに、珍しい人物が住んでいるのだと思うようになった。彼女の名前は『番号案内さん』で、何でも知っているのだ。『番号案内さん』はだれの電話番号でも知っていて、正確な時刻まで教えてくれる。

やがてわたしは、いすの上に立てば電話に手が届くことに気づいた。以来、事あるごとに『番号案内さん』に電話をかけた。わたしは彼女に『地理を教えて』と言い、彼女はフィラデルフィアがどこにあるか教えてくれた。算数の勉強も手伝ってくれた。

そんなある日、飼っていたカナリア、『ペティー』が死んでしまった。わたしは『番号案内さん』に電話して、この悲しい出来事を伝えた。彼女はわたしの話を聞いた後、大人が子どもをなだめるのによく言うような言葉をかけてくれた。しかし、わたしの心は沈んだままだった。『鳥はあんなにきれいな声で歌って、家族みんなを喜ばせてくれるのに、どうして最後にはか

この底で羽根の塊になって死んじゃうの?』そう尋ねた。

きっと彼女はわたしの深い悲しみを察したのだろう。静かな口調でこう答えてくれた。『ポール、歌を歌える世界がほかにもあるってこと、いつまでも忘れないでね。』それで幾らかわたしの心は明るくなった。

これらはすべてシアトル近くの小さな町での出来事だった。後にわたしたち家族は大陸を横断してボストンに引っ越した。わたしはあの友達がいなくなり、寂しくてたまらなかった。『番号案内さん』は、前の家のあの古い木箱に住んでいる気がしていたのだ。どういうわけか『彼女に電話してみよう』という考えにはならなかった。しかし、子ども時代にそのような会話をしていた記憶は、いつも心に

残っていた。疑念や困惑のときには、よく、かつて自分が味わったあの安らかな気持ちを思い起こしたものだ。今や、彼女が幼い少年のために時間を割いてくれていたその忍耐と思いやり、親切に心から感謝するようになっていたのだ。

時は流れ、わたしは西部の大学に行くことになり、わたしの乗った飛行機は途中シアトルに寄った。『番号案内』に電話してみると、実に驚いたことに、あの懐かしい声を聞くことができた。わたしは言った。『当時のわたしにとって、あなたがどれほど大切な人だったかお分かりですか。』

すると彼女はこう言ってくれた。『こちらこそ、あなたからの電話がどんなに待ち遠しかったことでしょう。わたしには子どもがいないから、あなたの電話をととても楽しみにしていたのよ。』わたしは、この何年かの間、自分がどんなによく彼女に思いをはせていたかを告げた。そして、シアトルに来たらまた電話してもいいか、尋ねてみた。

『ぜひ、お願いするわ。』彼女は言った。『「サリーを」と言うてくれればいいから。』

わずか3か月後、わたしは再びシアトルを訪れた。電話すると、違う声が返ってきた。『番号案内です』と。『サリーさんをお願いします』と言うと、『ご友人ですか』と尋ねてきた。

『はい、とても古くからの友人です』と答えた。

『そうですか、申し上げますが、サリーは病気で、ここ数年はパートタイムで働いていたんです。5週間ほど前に亡くなりました。』わたしが電話を切ろうとすると彼女が言った。『ちょっと待ってください。あなた、ポールさんとおっしゃいましたよね。』

『はい、そうです。』

『実はサリーからあなたへの伝言を預かっているんです。彼女が書いたものです。手もとにあるので読みますね。「歌を歌える世界はほかにもあるって、わたしが今でも言っていたと、ポールに伝えてください。わたしの言いたいこと、彼には分かるはずです。』

わたしは礼を言うと、電話を切った。わたしにはサリーの言葉の意味がよく分かった。』¹⁶

電話交換手のサリーと、かつての少年で今は大人となったポールは、互いにまさに良いサマリヤ人と言えるでしょう。

「わたしに従ってきなさい」

確かに、歌を歌える世界はほかにもあります。主なる救い主は、この真理を現実のものとしてわたしたちにもたらしけてくださいました。

悲しむマルタを主はこう慰められました。「わたしはよみがりであり、命である。わたしを信じる者は、たとえ死んでも生きる。また、生きていて、わたしを信じる者は、いつまでも死なない。』¹⁷

主なる救い主を心から求めるなら、わたしたちは確かに主を見いだすでしょう。「主は、湖のほとりで主を知らなかった人々のところへおいでになったように、名前も分からない見知らぬ人としてわたしたちのところへ来られるかもしれません。そして、当時と同じように、『わたしに従ってきなさい』¹⁸と言われ、主がこの時代に成就させなければならない務めにわたしたちが取りかかれるよう導かれるのです。主は戒めを与えられ、賢い者であろうとなかろうと、主に従う者には、この世で経験する^{かつとう}労苦や葛藤、苦悩のときに御自身を現して、ともに歩んでくださいます。こうして、わたしたちは主がどのような御方であるかを自分自身の経験を通して学ぶのです。』¹⁹

世の救い主

主は、心と精神、力と思いを尽くして主なる神を愛し、自分自身を愛するように隣人を愛するように、とお教えになりました。主は真理の教師です。しかし教師以上の御方です。全き^{まった}生活の模範です。しかし模範以上の御方です。偉大な医師です。しかし、医師以上の御方です。文字どおり、世の救い主、神の御子、平和の君、イスラエルの聖者、よみがえられた主です。主は自らこう宣言されました。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、世に来ると預言者たちが証した者である。……わたしは世の光であり命である。』²⁰「わたしは最初であり、最後である。わたしは生きている者であり、殺された者である。わたしは父に対するあなたがたの弁護者である。』²¹

わたしは主の証人として、主が生きておられ、主のおかげでわたしたちも生きていけることを証いたします。■

注

1. ルカ10：25-37
2. ヨハネ14：21；ルカ18：22；3ニーファイ18：16, 24
3. ルカ2：52
4. マタイ3：13-16参照
5. 使徒10：38
6. ルカ7：11-15参照
7. ヨハネ5：2-9参照
8. ルカ23：43
9. ヨハネ19：26-27
10. マタイ22：42
11. マタイ27：22
12. マタイ11：29
13. 箴言3：5-6
14. ヤコブの手紙2：8
15. チャールズ・ハンソン・タウン "Around the Corner" in *Poems That Live Forever*, ヘイゼル・フェルマン選 (1965年), 128
16. ポール・ビラード "Information Please," *Reader's Digest*, 1966年6月号, 62-65を基に編集
17. ヨハネ11：25-26
18. ヨハネ21：22
19. アルバート・シュバイツァー, *The Quest of the Historical Jesus* (1948年), 401
20. 3ニーファイ11：10-11
21. 教義と聖約110：4

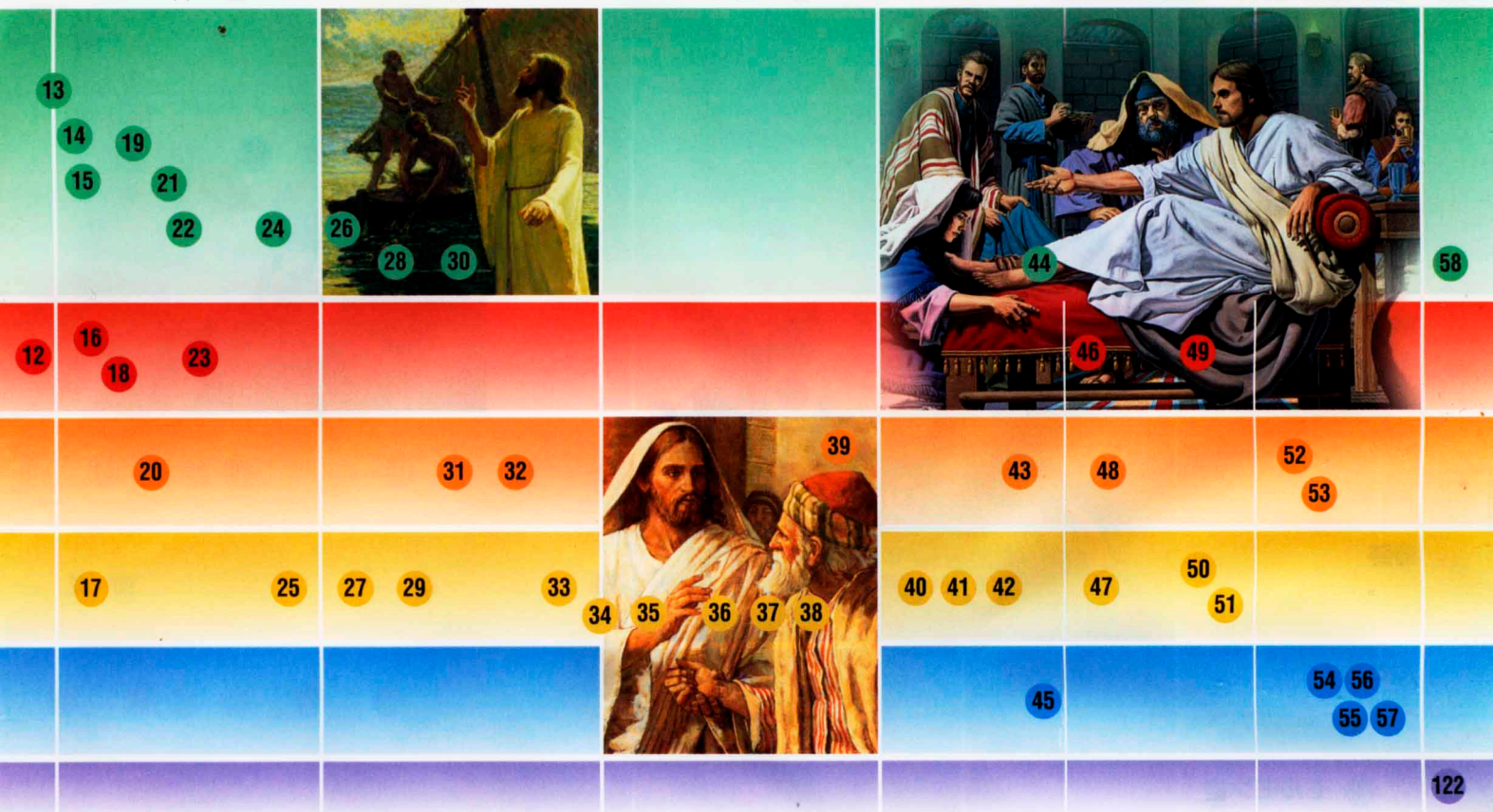
ホームティーチャーへの提案

よく祈って準備した後、教える人々の参加を促すような方法で、このメッセージを分かち合ってください。次に挙げるのはその一例です。

1. 家族に、近くに住んでいる人々の名前を挙げてもらう。わたしたちにとって「隣人」と考え得る人にはどのような人がいるだろうか。あなたの隣人は、あなたの愛と親切、助けを受けているだろうか。このメッセージの中から、現代の隣人愛の話を一つ以上読む。隣人から無私の奉仕を受けてどのように祝福されたかを、経験から話し合う。

2. 紙に大きな文字で次のように書く。「主について学ぶ。主を信じる。主に従う。」家族にその紙を見せる。それから、互いに愛し合いなさいという主の戒めを学び、信じ、従ううえで助けになった、イエス・キリストについての話を紹介するよう勧める。

3. 良いサマリヤ人のたとえを一緒に読み (ルカ10：30-35参照)、人々を愛することについてこのたとえから分かることを話し合う。話し合いを終えるに当たって、モンソン副管長のメッセージの最後にある証を声に出して読むとよい。



を宣べ伝えバプテスマを施された。ヨハネはイエスについて証した。

22.ルカ3：19-20 ヘロデがバプテスマのヨハネを投獄した。

23.ヨハネ4：1-3 イエスはエルサレムの地を去って、ガリラヤへ戻られた。

24.ヨハネ4：4-42 イエスはサマリヤのヤコブの井戸で一人のサマリヤ女性に教えられた。

25.ヨハネ4：46-54 イエスはガリラヤで役人の息子を癒された。

26.ルカ4：16-30 イエスはナザレでは受け入れられなかった。

27.マルコ1：21-28 イエスはカペナウムで汚れた霊につかれた男性を癒された。

28.マタイ4：18-22 イエスはペテロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネを呼び寄せ、御自分に従って来るよう招かれた。

29.マルコ1：40-45 イエスはらい病人を癒された。

30.マタイ10：1-4 イエスは十二使徒を召し、聖任された。

31.マタイ10：5-42 イエスは十二使徒にその務めについて教えられた。

32.マタイ5-7章 イエスは山上の垂訓を教えられた。

33.マタイ8：5-13 イエスはカペナウムで百卒長の僕を癒された。

34.ルカ7：11-17 イエスはナインで、やもめの息子を死からよみがえらせられた。

35.マタイ8：14-17 イエスはペテロのしゅうとめをはじめ大勢の人を癒された。

36.マタイ8：23-27 イエスはガリラヤの海で嵐を静められた。

37.マタイ8：28-34 イエスはおびただしい数の悪霊に出て行くよう命じられた。悪霊は豚の中へ入り込んだ。

38.マタイ9：1-8 イエスは中風の男性を癒された。

39.マタイ9：10-17 イエスは新しいぶどう酒と古い皮袋について教えられた。

40.マタイ9：18-26 一人の女性がイエスの衣に触れて癒された。イエスはヤイロの娘も死からよみがえらせられた。

41.マタイ9：27-31 イエスは二人の盲人を癒された。

42.マタイ9：32-34 イエスは、悪霊につかれ口の利けない人を癒された。

43.マタイ11：7-19 イエスはバプテスマのヨハネの偉大さについて証された。

44.ルカ7：36-50 一人の女性がパリサイ人シモンの家を訪れ、イエスの足を涙で洗った。

45.ルカ7：41-42 金を借りた二人のたとえ

46.ヨハネ5：1 イエスは過越の祭に再びエルサレムに上られた。

47.ヨハネ5：2-16 イエスは安息日にベテスダの池で一人の男性を癒された。

48.ヨハネ5：17-47 イエスは神殿で御自分と天の御父との関係について教えられた。

49.マタイ9：35-38 イエスはガリラヤに戻り、伝道と癒しの業を行われた。

50.マタイ12：1-21 安息日を破っているという理由でパリサイ人がイエスの弟子をとがめた。イエスは安息日に片手の不自由な男性を癒された。

51.マタイ12：22-23 イエスは悪霊につかれた男性を癒された。

52.マタイ12：24-45 イエスはパリサイ人に、サタン、聖霊を汚す言葉、しるしを求めることについて教えられた。

53.マタイ13：1-53 イエスは天国について教えるためにたとえを用いられた。

54.マタイ13：3-23；マルコ4：21-22 種をまく人とうろそくのたとえ

55.マタイ13：24-30, 36-43；マルコ4：26-29 麦と毒麦、人目につかず生長する麦のたとえ

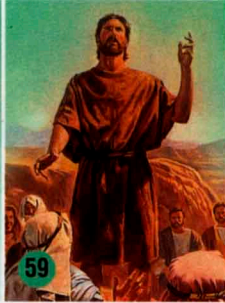
56.マタイ13：31-35 からし種とパン種のたとえ

57.マタイ13：44-52 隠れた宝、高価な真珠、福音の網、一家の主人のたとえ

58.マタイ13：54-58 ナザレの人々がイエスを再び拒絶した。

出来事

58



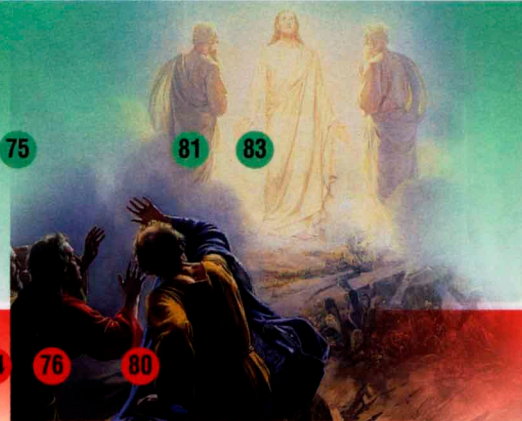
59

72

75

81

83



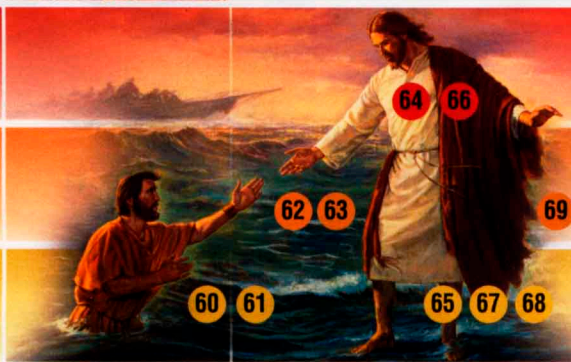
旅行

71

74

76

80



64

66

62

63

69

説教

73

78

84

86

88

91

奇跡

60

61

65

67

68

70

77

90

92

たとえ

79

82

85

87

89

93

122 モルモン書

- 59.マタイ14：1-12 領主ヘロデはイエスを、打ち首の後に死人の中からよみがえったパプテスマのヨハネではないかと恐れた。
- 60.ヨハネ6：1-15 過越の祭の少し前に、イエスはパン5つと、魚2匹で5,000人に食べさせられた。
- 61.ヨハネ6：16-21；マタイ14：22-33 イエスは海の上を歩かれた。ペテロも従おうとしたが、途中で動揺した。
- 62.ヨハネ6：22-66 イエスは御自身を命のパンであると宣言された。多くの弟子たちがイエスを拒んだ。
- 63.マルコ7：1-23 弟子たちが手を洗わずに食事をしたとき、イエスはパリサイ人に真の清さについて教えられた。
- 64.マルコ7：24 イエスは北方のツロとシドンへ行かれた。
- 65.マルコ7：24-30 イエスはあるカナン人の女性の娘を癒された。
- 66.マルコ7：31 イエスはガリラヤへ戻られた。
- 67.マルコ7：32-37 イエスは耳も口も不自由な人を癒された。
- 68.マルコ8：1-9 イエスは4,000人に食べさせられた。
- 69.マルコ8：10-21 イエスはマグダラでしるしを求めることについて教えられた。イエスは弟子たちにパリサイ人の「パン種」に警

- 戒するよう説かれた。
- 70.マルコ8：22-26 イエスはベツサイダで盲人を癒された。
- 71.マタイ16：13 イエスは弟子たちとピリポ・カイザリヤへ出かけられた。
- 72.マタイ16：13-20 ペテロがイエスはキリストであられると証した。
- 73.マタイ16：21-28 イエスは弟子たちに御自身の死と再臨、使徒のあるべき姿について教えられた。
- 74.マタイ17：1 イエスはペテロ、ヤコブ、ヨハネを連れて高い山に登られた。
- 75.マタイ17：2-13 イエスの御姿が変わり、ペテロ、ヤコブ、ヨハネは神権の鍵を授かった。
- 76.マタイ17：14, 22 イエスは弟子たちとガリラヤへ戻られた。
- 77.マタイ7：14-21 イエスは「てんかん」の子どもを癒された。
- 78.マタイ17：22-18：35 イエスは弟子たちに御自身の死、神殿の納入金、謙遜と奉仕、救しの原則について教えられた。
- 79.マタイ18：23-35 無慈悲な僕のたとえ
- 80.ルカ9：51-56 イエスはサマリヤ、ユダヤ、ペレアを経由し、エルサレムへと旅をされた。
- 81.ルカ10：1-24 イエスは七十人を任命し、伝道へとお遣わしになった。七十人が帰って

- 来て報告した。
- 82.ルカ10：25-37 良いサマリヤ人のたとえ
- 83.ルカ10：38-42 イエスはマルタとマリヤの家で休息を取り、彼らに教えられた。
- 84.ルカ11：1-13 イエスは祈りについて弟子たちに教えられた。
- 85.ルカ11：5-8 真夜中の友人のたとえ
- 86.ルカ11：14-12：12 イエスはしるしを求め偽善を行うパリサイ人を再び非難された。
- 87.ルカ12：13-21 愚かな金持ちのたとえ
- 88.ルカ12：22-13：9 イエスは弟子たちにまず神の国を求めることと再臨について教えられた。
- 89.ルカ12：35-48;13：6-9 目を覚ましている僕たちと実のならないいちじくの木のたとえ
- 90.ルカ13：10-17 イエスは安息日にある女性を癒された。
- 91.ルカ13：22-35 イエスは「狭い戸口」、神の国に入る条件について教えられた。イエスはエルサレムを嘆かれた。
- 92.ルカ14：1-6 イエスは安息日に水腫を患っている人を癒された。
- 93.ルカ14：7-24 婚宴と盛大な晩餐会のたとえ
- 94.ルカ14：25-35 イエスは大勢の群衆に弟子となる条件について教えられた。

左から—「荒野で福音を宣べ伝えるパプテスマのヨハネ」ロバート・T・バレット画。「水の上を歩かれるキリスト」ロバート・T・バレット画。「変説」カール・ヘンリック・フラスマの「ヨハネ」ロバート・T・バレット画。「テニマーク」ヒレレスの「エルサレム」ロバート・T・バレット画。「冒険」目を癒されるイエスの一部、ウォルター・レノン画。「死人の中からよみがえれるラザロ」R・ロール画。

			112
	101 105	108 110	114 116
94 96 99	102 104 106	109	
98	103	111 115	
95 97 100	107	113	
		123	



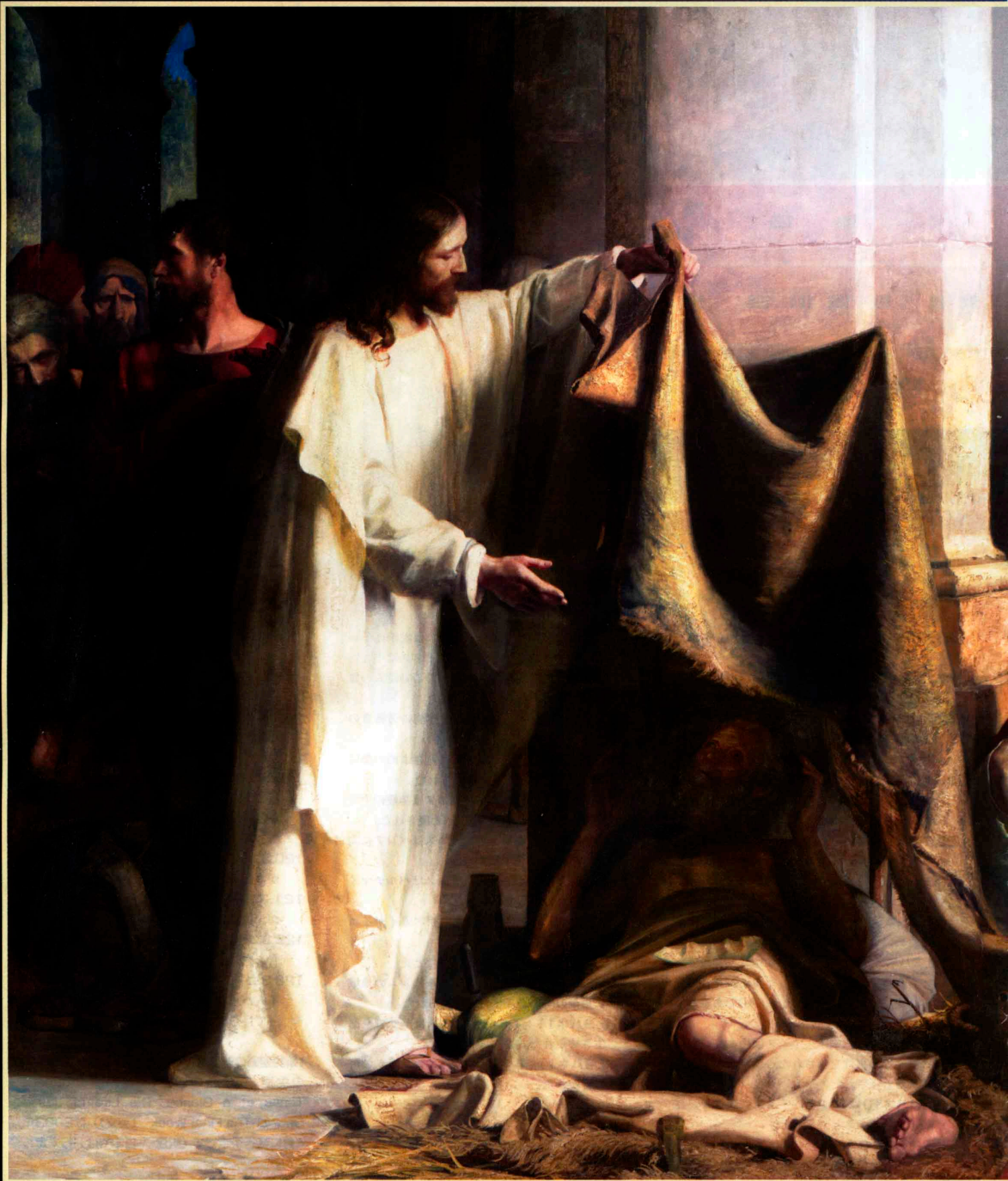
- 95.ルカ14：28-33 邸宅と無計画な王のたとえ
- 96.ルカ15章-16：31 イエスはパリサイ人の偽善について教え非難された。
- 97.ルカ15章-17：10 迷い出た羊，なくした銀貨，放蕩息子^{ほうとうしこ}のたとえ。不正な家令，金持ちとラザロ，ふつつかな僕のたとえ。
- 98.ルカ17：11-19 イエスは10人のらい病人を癒されたが，感謝するために帰って来たのは一人だけだった。
- 99.ルカ17：20-18：14 イエスはパリサイ人に再臨について教えられた。
- 100.ルカ18：1-14 不義な裁判官のたとえ，パリサイ人と取税人のたとえ。
- 101.ヨハネ7：2-13 イエスは仮庵^{かりいほ}の祭に出るためにエルサレムに來られた。
- 102.ヨハネ7：14-8：59 イエスは神殿で教えられた。姦淫^{かんいん}の罪を犯した女性が連れて來られた。イエスは御自身が救い主であると証された。
- 103.ヨハネ9：1-41 イエスは生まれつき目の見えない男性を癒された。御自身が世の光であると証された。
- 104.ヨハネ10：1-21 イエスは御自身が良い羊飼いでであると証された。
- 105.マルコ10：1 イエスはエルサレムを去り，ベレアで福音を宣べ伝えられた。

- 106.マルコ10：2-45 イエスは離婚についてパリサイ人と話をされた。イエスは小さい子どもたちを祝福し，金持ちの若い役人の質問に答え弟子たちを教えられた。
- 107.マタイ20：1-16 ぶどう園の労働者のたとえ
- 108.ヨハネ10：22 イエスは宮きよめの祭に出るためにエルサレムに戻られた。
- 109.ヨハネ10：23-39 イエスは神殿の中で「わたしと父とは一つである」と証された。
- 110.ヨハネ10：40-42 イエスはベレアに向けて出発された。
- 111.マルコ10：46-52 イエスはバルテマイという名の盲人を癒された。
- 112.ルカ19：1-10 取税人ザアカイがイエスを自宅でもてなした。
- 113.ルカ19：11-27 ミナのたとえ
- 114.ヨハネ11：7 イエスはエルサレムの地域に最後の時を過ごすために戻られた。
- 115.ヨハネ11：1-46 イエスはラザロを蘇生させられた。
- 116.ヨハネ11：54 イエスはエフライムの町に行かれた。

モルモン書

- 117.ヒラマン14-15章 アメリカでレーマン人サムエルがイエスの誕生と死のしるしに関して預言をした。
- 118.ヒラマン16：13-14 数々の大きなしるしと不思議が与えられ，預言が成就し始めた。
- 119.3ニーファイ1：15-26 (夜になっても暗くならないという) イエスの誕生のしるしが与えられ，多くの人が悔い改めてイエスを信じるようになった。
- 120.3ニーファイ3-4章 ニーファイ人の軍隊がガデアントンの強盗たちを打ち負かした。
- 121.3ニーファイ6章 ニーファイ人が栄えたが，後に高慢になり，預言者を殺した。
- 122.3ニーファイ7：15-26 ニーファイが福音を宣べ伝え，多くの人を悔い改めて導いた。
- 123.3ニーファイ8：3 義にかなったニーファイ人がイエスの死のしるしを大きな期待をもって待ち望むようになった。

『新約聖書の時代を概観する—イエス・キリストの生涯—最後の週』(“New Testament Times at a Glance: The Life of Jesus Christ—The Final Week” (英文))は2003年4月に発行予定です(訳注—日本では刊行未定)。



の 教え、宣べ伝え、癒す

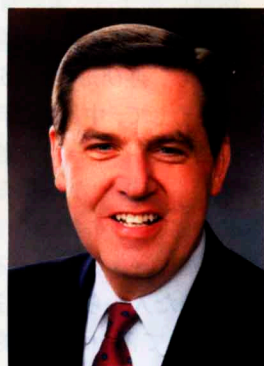
十二使徒定員会
ジェフリー・R・ホランド

わ たしたちはキリストを最高の教師と考
えています。これまでも、そして今後も、
キリストよりも偉大な教師は存在しないと
考えているのです。そのような考えはだれもが思い
つきますし、そう考えること自体間違いではありま
せん。新約聖書は、イエスの教えや言葉、説教、た
とえて満ちていますし、どのページにも教師として
のイエスの側面が描かれています。しかし主は、教
えることに加えて、あることを意識的に行われまし
た。教えたことが正しく理解されるように、あること
を行われたのです。

最初の弟子となる人々(まだ使徒ではありませ
んでした)に声をかけてから、主は御業をお始めにな
りました。マタイはその様子をこう記しています。
「イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で
教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病
気、あらゆるわずらいを^{いや}おいやしになった。」(マ
タイ4:23, 強調付加)

教え、宣べ伝える業が始まったことについては、
わたしたちがよく知り、理解しているとおりです。し
かし、癒しという業については、同列に理解されて
いないかもしれません。イエスの業の初めから、癒
すことは、教えることや宣べ伝えることとほとんど同
じ言葉として用いられています。少なくとも、この3
つが関連していることは確かです。事実、先ほど引
用したマタイの聖句の続きには、教えよりも癒しの方
が多く記述されているのです。

マタイはこう続けています。「そこで、その評判は
シリア全地にひろまり、人々があらゆる病にかかっ
ている者、すなわち、いろいろの病気と苦しみとに
悩んでいる者、悪霊につかれている者、てんかん、
中風の者などをイエスのところに連れてきたので、



キリストは、
わたしたちの教え
を通して生徒が靈
的に癒されること
を望んでおられる、
とわたしは信じて
います。

「神々の油」カール・ヘンリクス・ブロンマン画 © Brigham Young University Museum of Art / リリカム・ヤング大学付属美術館 著作権所有。同美術館の厚意による掲載。

これらの人々をおいやしになった。」(24節)

マタイの記録を読み進めると、山上の垂訓という見事な説教についての記述が続きます(これは〔英文聖書では〕6ページ半に及ぶ説教ですが、丁寧に教えようとするれば、6年半を要するのではないのでしょうか)。しかし救い主は、説教を終えるとすぐに山を降り、癒しをお続けになりました。らい病人、百卒長の僕、ペテロのしゅうとめ、それに「悪霊につかれた者」(マタイ8:16)とだけ記されている大勢の人々を次々と癒していかれたのです。この一連の出来事を、マタイはこう書いています。「〔救い主は〕病人をことごとくおいやしになった。」(16節)

周囲に集まって来た群衆を避けてガリラヤの海を渡られたイエスは、ガダラの墓から出て来た二人の男から悪霊を追い出し、再び舟で「自分の町」(マタイ9:1)に引き返されました。そして、中風で2年間寝たきりになっていた人や、12年間長血を患っていた女性が癒されます(これは新約聖書の中で最も感動的なすばらしい場面ではないかと思えます)。さらに、会堂司の娘が生き返ります。

次いで、イエスは目の不自由な二人の人を癒し、口の利けなくなった人から悪霊を追い出されます。イエス・キリストの業について書かれた新約聖書の最初の6章をざっとまとめると以上ようになります。そして次の言葉が続くのです。今この聖句を聞いて、どのような情景が浮かぶでしょうか。「イエスは、すべての町々村々を巡り歩いて、諸会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、あらゆる病氣、あらゆるわずらいをおいやしになった。」(マタイ9:35, 強調付加)

これは、多少の表現の違いはあっても、5章前に出てきた聖句とまったく同じです。そしてこの聖句の続きにはこうあります。



「また群衆が飼う者のない羊のように弱り果てて、倒れているのをごらんになって、彼らを深くあわれまれました。

そして弟子たちに言われた、『収穫は多いが、働き人が少ない。

だから、収穫の主^に願って、その収穫のために働き人を送り出すようにしてもらいなさい。』(36-38節)

主はこう言ってから十二使徒を召し、こうお命じになりました。「イスラエルの家の失われた羊のところに行け。

行って、『天国が近づいた』と宣べ伝えよ。

病人をいやし、死人をよみがえらせ、らい病人をきよめ、悪霊を追い出せ。ただで受けたのだから、ただで与えるがよい。」(マタイ10:6-8, 強調付加)

救い主は、教師の中の教師として知られています。確かにそれは正しいのですが、主はそれ以上の御方です。収穫は多いがそれに比べて働き人が少ないという主の言葉を聞くと、宣教師に召されたり、その他の責任を受けたりして教えることが頭に浮かびます。しかし主が求めておられるのは、ただ単に教える人ではありません。教えながら同時に癒すことのできる教師を必要とおられるのです。

ここで誤解のないように申し上げますが、わたしが述べている「癒し」は、神権を正式に用いて癒したり病人へ祝福を施したりするようなものを指すものではありません。それは教会の組織で教師として召されている人々の果たす役割には含まれていません。

しかしわたしは、教師たる者は霊的な癒しを施すことができると信じているのです。苦しみ、悩み、取り乱した人々への救い主の務めについて、マタイが意味もなくこれほど多く書き記したとは到底思えないからです。わたしたちも救い主に倣って、教えたことの成果を測るときに、相手が実際にどれだけ癒されたかを基準にするとよいのではないのでしょうか。

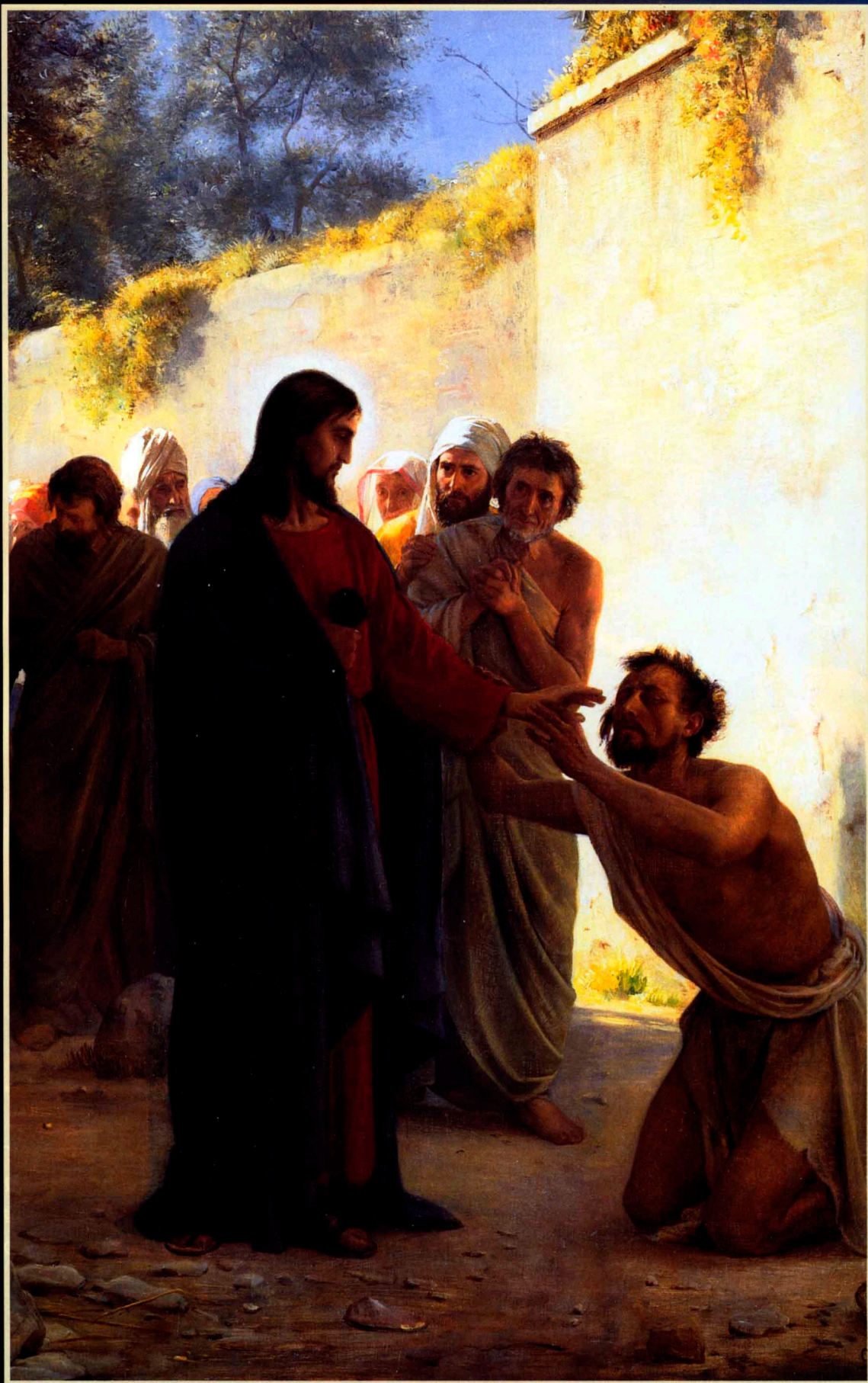
具体的に言えばこういうことです。単にレッスンを教えるだけでなく、真理が見えていないバスケットボール部のスタープレイヤーが見えるように、真理が聞こえていない学園祭のクイーンが聞こえるように、そして霊的な意味で足の不自由な生徒会長が歩けるように、もう少し教え方を工夫するのです。悪魔のいかなる誘惑にも耐え、悪に染まることのないように、もう少し努力して、生徒たちを強めようではありませんか。独りで歩んでいる人、独りで暮らしている人、夜の闇の中で涙を流している人を真に助けられるよう、もう少し努力して、力強く霊的に教えようではありませんか。



左端—「起きて歩け」サイモン・デューイ画、ミ州アメリカン・フォーク・アルタス・ファイン・アート社の厚意により掲載。左—「キリストと若い金持ちの俗人」ハインリッヒ・ホフマン画。

救い主は、教師の中の教師として知られています。確かにそれは正しいのですが、主はそれ以上の御方です。しかし主が求めておられるのは、ただ単に教える人ではありません。教えながら同時に癒すことのできる教師を必要としておられるのです。

わたしたちも救い
主に倣^{なら}って、教え
たことの成果を測
るときに、相手が
実際にどれだけ癒
されたかを基準に
するとよいのでは
ないでしょうか。



「それで、結局どうすればよいのですか」

十二使徒定員会会員としての経験から学んだあることを紹介すれば、恐らくわたしの言いたいことがよく分かるのではないかと思います。

十二使徒定員会会長代理であるボイド・K・パッカー長老は偉大な教師でもあります。十二使徒定員会の集会で使徒の一人が何かを発表したり、ある種の勧告をしたりするときに、パッカー長老がよく聞く言葉があります。まるで「もうお話は済みましたか」と聞くような目で発表を終えたばかりの使徒を見詰め、その使徒に(そして暗に使徒たち全員に)こう尋ねるのです。「それで、結局どうすればよいのですか。」

「それで、結局どうすればよいのですか。」——この問いかけに答えていくことこそ救い主の日々教え、宣べ伝える業に付随していたことではないかと思うのです。弟子たちの生活が実際に変わらなかったら、救い主の説教や訓戒は何の役にも立たないではありませんか。

「それで、結局どうすればよいのですか。」——御存じのように、信じていると公言しながら、その教えに実際には従っていない人々が大勢います。

皆さんが教えた結果、生徒が実際に変わるように祈ってください。皆さんが教えた結果、懐かしいあの歌の歌詞のように、生徒が「姿勢を正して、まっすぐに飛ぶ」(ナット・キング・コール, “Straighten Up and Fly Right” [1943年])ことができるように祈ってください。わたしたちは、生徒にまっすぐに正しい生活を送ってもらいたいと願っています。そして、この世では祝福と幸福を得、後の世では救いを得てほしいと願っているのです。

神が導かれる

使徒行伝は、新約聖書の中でイエスが復活された後の記述が始まる書です。この使徒行伝という表題には、「使徒たちの行動を記した書」という意味があります。この書の中で教会の組織上重要な意味を持っているのは、「使徒たちの行動」、つまり使徒たちが主イエス・キリストを代表する者として聖任され、主の名によって教会を導く権能を与えられたところからです。

ここで、当時の使徒たちが置かれた状況について思い出してみましょう。キリストが十字架におかかりになった後に、組織されて間もない小さな教会の会員たちが直面した苦しみ、恐れ、混乱、荒廃について考えてみてください。使徒たちは、状況を多少は把握していたかもしれませんが、すべてを理解していたわけではありませんでした。民は恐れ、混乱していたはずで、使徒たちは民を導くために非常に忙し



く働かなければならなかったことでしょう。

驚くことではありませんが、初めから(少なくとも使徒行伝の最初の節が記された時点から)、教会は今までどおり人の力ではなく神によって導かれると宣言されていました。ひどい恐怖と混乱に陥っていた民にとって、その宣言には重要な意味がありました。実際、使徒行伝という表題をもっとふさわしいものに変更するなら、「主に聖任された使徒たちの生活と務めの中に聖なる御霊によって表された、復活されたキリストの行い」とすべきなのです。あまりに長いので短い表題の方がいいと言う人もいることでしょう。でも、わたしが提案した表題の方が正確であることを示しましょう。ルカが使徒行伝の冒頭に書いた言葉を聞いてください。

「テオピロよ、わたしは先に第1巻を著わして、イエスが行い、また教えはじめてから、

お選びになった使徒たちに、聖霊によって命じたのち、天に上げられた日までのことを、ことごとくしるした。」(使徒1:1-2, 強調付加)

教会を管理する方法も同じでした。救い主は前と同じ場所におられませんでしたが、教会の管理と指導の原則はまったく変わりませんでした。このことを使徒行伝の最初の部分を読んでよく理解しておくこと、その後のページを読むときに、聖霊を通して主の力が示されたことがよく分かります。使徒行伝には、復活したキリストが使徒たちに最初に教えられたこととして、こうあります。「あなたがたは間もなく聖霊によって、バプテスマを授けられるであろう。」(使徒1:5)「聖霊があなたがたにくだる時、あなたがたは力を受け……るであろう。」(8節)

主が使徒たちの目の前で天に昇られた後、ペテロは教会の残された会員たちを集めました——総勢120人でした。(当時の苦難や迫害が会員数にどれほど打撃を与えたか想像できるでしょうか。)集まったのは120人です。彼らに向かってペテロはこう言いました。「兄弟たちよ、イエスを捕えた者たちの手びきになったユダについては、聖霊がダビデの口とおして預言したその言葉は、成就しなければならなかった。」(16節, 強調付加)十二使徒会の空席を満たすために、今日の十二使徒定員会や大管長会とまったく同じように使徒たちはこう祈りました。「すべての人の心をご存じである主よ。

……〔あなた(は)どちらを選〔ばれますか。お示してください。〕(24節、強調付加)こうしてマツテヤが選ばれました。

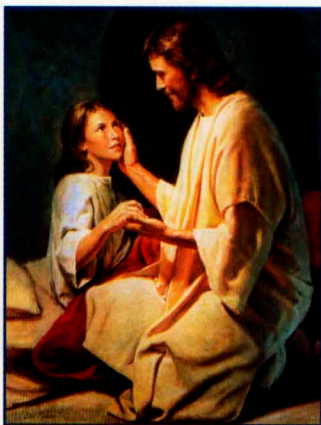
この使徒行伝第1章は皆の目を天に向けさせ、今後も教会が天から導かれることを非常に明確に示しました。しかしこの第1章は、単に第2章への布石にすぎません。この第2章での出来事以来、あの^{ごじゆんせつ}五旬節という言葉がキリスト教界で、「この上ない霊的な現れのととき」「天から聖霊が民に注がれるとき」という意味で使われるようになったのです。その日、啓示が「激しい風が吹いてきたような音が天から起ってきて、……家いっぱい響きわた」り(使徒2:2)、使徒たちを満たしました。「また、舌のようなものが、炎のように分かれて現れ……一同は聖霊に満たされ、御霊が語らせるままに……語り出し」たのです(3-4節)。

ペテロは、使徒の頭、すなわち大管長として立ち上がり、聖霊が降られたことを確認します。そしてヨエルの言葉を引用してこう言います。「終りの時には、わたしの霊をすべての人に注ごう。そして、あなたがたのむすこ娘は預言をし、若者たちは幻を見、老人たちは夢を見るであろう。

その時には、わたしの男女の僕たちにもわたしの霊を注ごう。そして彼らも預言をするであろう。」(17-18節)

ペテロはこう続けました。「イスラエルの人たちよ〔ペテロは、集まって来たさらに多くの人々に向けて語っていましたが、今わたしの語ることを聞きなさい。……ナザレ人イエスは……神からつかわされた……かたであった。……このイエスを、神はよみがえらせた。……イエスは神の右に上げられ、父から約束の聖霊を受けて、それをわたしたちに注がれたのである。このことは、あなたがたが現に見聞きしているとおりである。』(22, 32-33節、強調付加)

何と崇高なメッセージでしょう。まだバプテスマを受けていなかった人々は聖霊に心を動かされ、自分たちは何をすればよいのですか、と尋ねます。ペテロは罪の救しのためにバプテスマを受けなさい、そして「聖霊の賜物を受け」なさいと答えます(38節)。その日、3,000人がそれに従いました。後に、ペテロとヨハネが神殿の門の所に置かれていた足の不自由な男を癒したとき、群衆は見て、ペテロとヨハネの行為を不思議に思います。ペテロは群衆を責め、この人を歩かせたのは自分たちの力や信心ではなく、エルサレムの人々が「引き渡し」て「殺し」たイエスの力によるものだと語ります(使徒3:13, 15)。ペテロは続けて、イエスが聖なる御霊を通じて教会を導いておられ、「万物更新の時」までそのようにされると証するのです(21節)。



さらに5,000人の人々が教会に加わったとき、地元のパリサイ人やサドカイ人は驚きます。ユダヤ人の指導者である彼らはペテロに、何の権威によってこのようなことをしたのかと問いただします。これに対してペテロは、古くからあるあの言葉で答えます(それは、皆さんも常に人に伝えなくてはならない言葉です)。

「聖霊に満たされ」てペテロはこう宣言したのです。すべては「ナザレ人イエス・キリストの御名」によるものであると(使徒4:8, 10, 強調付加)。キリストは聖なる御霊を通して使徒たちを導かれただけではありませんでした。この御霊によって、主は使徒を通して語られたのです。このことから、イエス・キリスト教会をどう管理するかについて、古代にも現代にも当てはまる教えが学べます。

御父と御子が現在もこの業を導いておられます。御二方の影響力は、聖霊を通して、教会の指導者、教師、個人に及んでいるのです。わたしたちが教えるとき、まさにこの聖霊を通して人々に影響を与えなければなりません。

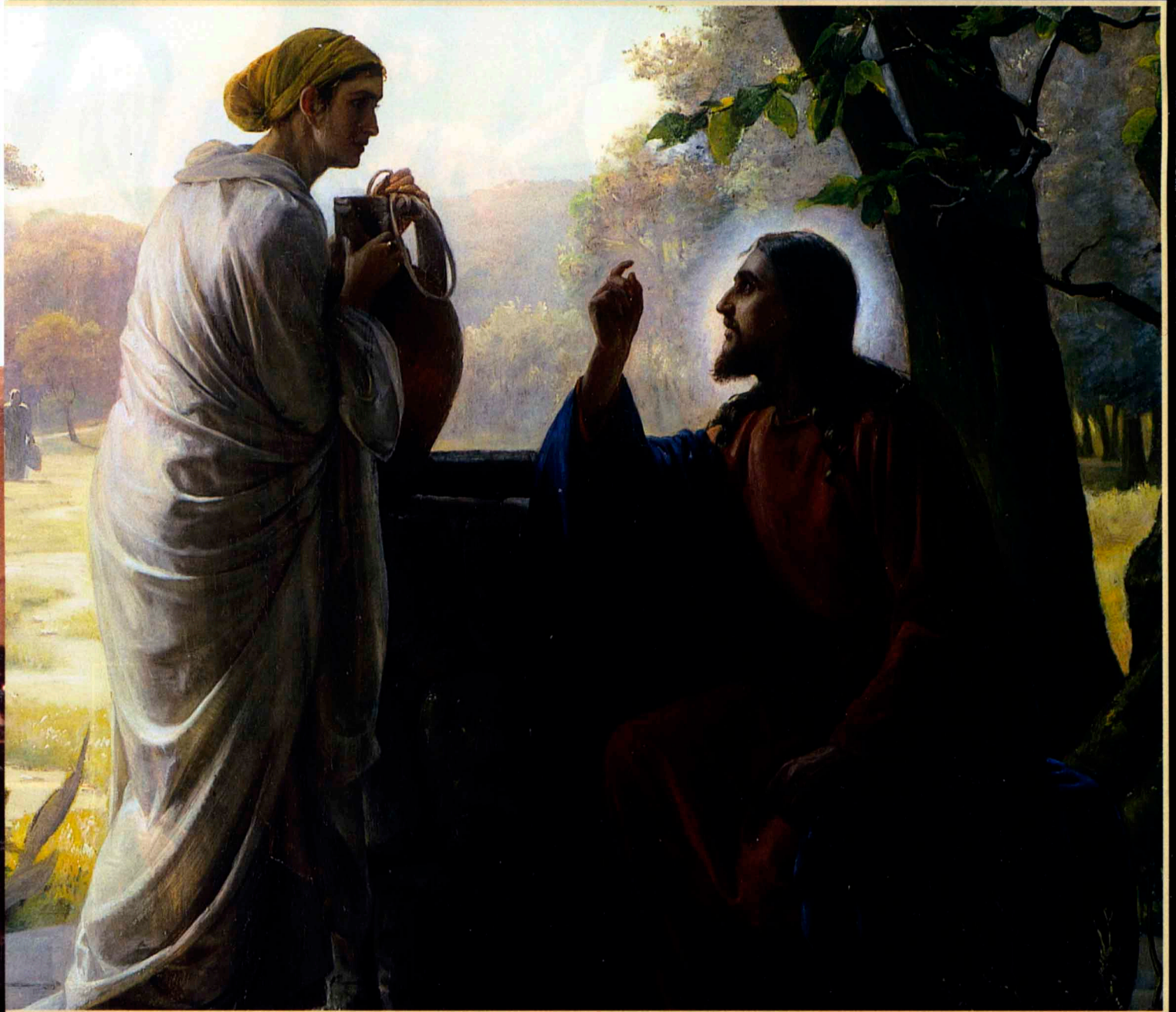
御霊によって教える

聖なる御霊によって教えましょう。聖霊によらない場合、聖文の言葉を用いれば「何かほかの方法」で教えるという過ちを犯しています(教義と聖約50:17)。その方法は「神から出て」いるものではありません(20節)。生徒に霊的な経験を与えるために、できる限りのことを行ってください。新約聖書は、そのことを皆さんに教えようとしているのです。これが四福音書のメッセージなのです。また使徒行伝のメッセージでもあります。これこそ、聖文全体のメッセージなのです。これらの神聖な記録にあるような霊的な経験を得るならば、ちょうど新約聖書の時代の教会員がそうであったように、今の時代の教会員も正しい道に、そしてこの教会にとどまることができるでしょう。

聖文にはこうあります。「御霊は信仰の祈りによってあなたがたに与えられるであろう。そして、御霊を受けなければ、あなたがたは教えるはならない。」(教義と聖約42:14)これは、教えることにはならないとか、教えることができないとか、教えても見かけ倒しになってしまうとか言っているのではありません。もっと強いものです。「教えるはならない」と、命令形の動詞で言い切っています。シナイ山で語られたのと同じ口調です。これは命令なのです。皆さんが教えている生徒は神の生徒なのです。神の教会がペテロやパウロ、ジョセフ、ブリガムの教会でないのとちょうど同じことです。

勇気を出してください。はっきりと理解できる形で与えら

独りで歩んでいる人、独りで暮らしている人、夜の闇^{やみ}の中で涙を流している人を真に助けられるよう、もう少し努力して、力強く靈的に教えようではありませんか。



左端——「マリアの涙」カール・ヘンツェル、1867年。右——「キリストとサマリアの女」カール・ヘンツェル、1867年。



右「わたしにあるものをあげよ」ウォルター・レーン画 挿入画「盲目の男を癒されるキリスト」デル・バリン画

ペテロとヨハネが神殿の門の所に置かれていた足の不自由な男を癒したとき、群衆は見て、ペテロとヨハネの行為を不思議に思います。ペテロは群衆を責め、この人を歩かせたのは自分たちの力や信心ではなく、エルサレムの人々が「引き渡し」て「殺し」たイエスの力によるものだと言います。



れないかもしれませんが、御霊の働きかけを受けられるように努力しましょう。正直な心で、できる限り清く生活すれば、思ってもみないことが起こるのです。いつか皆さんにも、ゲツセマネ、カルバリ、昇天という、とても教えることなどできないと思えるような、最も大切な事柄を教えなくてはならない時が来ることでしょう。そのようなときに皆さんに思い出し活用してほしいことを、特に二つお話します。

キリストは忠実であられた

一つ目は、たとえようのないほどつらく、大地が震え上がるような苦痛に遭っても、キリストは忠実であられたということです。

マタイはこう記しています。主は「悲しみを催した悩みはじめられた。……悲しみのあまり死ぬほどで〔あった。〕」(マタイ26:37-38)主は故意に弟子たちを残して、独りで園に入られました。それは主が御一人で成し遂げなければならないことだったのです。そしてひざまずき、「うつぶしに」なられたとマタイは記しています(39節)。ルカは、イエスが「苦しみもだえて」切に祈られ「汗が血のしたたりのように地に落ちた」と書いています(ルカ22:44)。マルコは、主がひれ伏して「アバ、父よ」と叫ばれたと語っています。これは神学の抽象的な理論などではありません。息子が父親に向かって実際にこう嘆願したのです。「あなたには、できないことはありません。どうか、この杯をわたしから取りのけてください。」(マルコ14:36)。

このような嘆願を無視できる親がどこにいるでしょう。ほかならぬ完全な御子がこう嘆願しておられるのです。「あなたは何でもおできになります。そのことをわたしは知っています。ですから、どうかこの杯を取りのけてください。」

マルコの記述によれば、御子はこの祈り全体を通して、もしできることなら救いの計画からこのひとときを取り去ってくださいと祈られたのでした。要するに主はこう言われたのです。「別の道があればわたしはその道を行います。別の方法があれば——何かほかの方法がありさえすれば——わたしは喜んでそれに従います。」マタイはこう記しました。「この杯をわたしから過ぎ去らせてください。」(マタイ26:39)ルカはこう書きました。「どうぞ、この杯をわたしから取りのけてください。」(ルカ22:42)しかし、結局それはかないませんでした。

最終的に、主は御自身の意志を御父の御心に従わせ、こう言われました。「しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください。」(ルカ22:42)イエスがこの地上で死すべき肉体をまとして過ごされた期間を通じて、事実上これが、御父と御子の最後の神聖な会話となりました。こうし

て賽は投げられ、主は何が何でも目的を完遂なさらねばならなくなったのです。

しかし、旧世界におけるこの最後の宣言があったからこそ、新世界でのあの最初の宣言があるのです。神殿に集まったニーファイ人々に主はこう言われます。「見よ、わたしはイエス・キリストであり、……世の光であり命である。わたしは、父がわたしに下さったあの苦い杯から飲み、……初めから、すべてのことについて父の御心に従ってきた。」(3ニーファイ11:10-11)この言葉によって主は御自分を紹介されました。この言葉こそ、民に御自分が何者であるかを最もよく知らしめることができると思われた宣言だったのです。

救い主は、わたしたちのために比類ない犠牲を払ってくださいました。わたしたちの背きのために代価を支払ってくださいました。わたしたちの罪のために悲しまれました。これらの恩にこたえるために、生徒たちに一つの大きな決意を促すとするならば、従順になるという決意を促してください。困難な状況に置かれたときにも、何が何でも「父の御心に従う」という決意です(11節)。もちろん生徒たちはいつもその決意を守れるとは限りませんし、教師である皆さんやわたしと同じようにはできないかもしれません。しかし、生徒たちはそれを目標にすべきです。それを目指すべきなのです。キリストが御自分の使命の中で最も強調なさったかったことは——一人としての徳や偉大な説教や癒しの業以上に、特に強調なさったかったことは——御自分の御心を御父の御心に従わせることだったからです。

わたしたちは皆、頑固であることが多すぎます。だからこそ救い主は、わたしたち一人一人へのメッセージとして、御自分に倣って、打ち砕かれた心と悔いる霊をささげなさいとおっしゃっているのです(3ニーファイ9:20;教義と聖約59:8参照)。わたしたちは小さな自己を打ち砕き、自分の罪と世の罪のために涙を流すようにならなければなりません。御父と御子と聖霊に従うように生徒たちに強く勧めなければなりません。ほかに方法はないのです。自分自身を主と同列に置くことなく(もしそうするなら冒瀆になってしまいます)、救い主と同じように、取り去ることのできない杯が自分の人生にもやって来るものだという事を知っておいてください。その杯の苦さは主が味わわれたものよりもはるかに軽いものです。しかしその杯は、何が何でも従わなければならないことをわたしたちに教えるために、度々やって来ます。

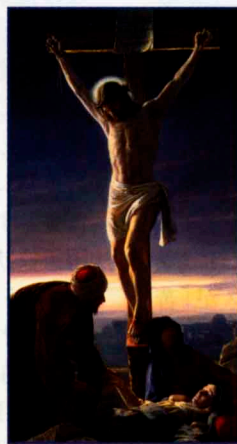
キリストは歩むべき道を知っておられる

教師の皆さんに覚えておいてもらいたい贖罪に関する二つ目の教えは、第一の教えと関連しています。もし皆さんの

教える生徒がすでに多くの過ちを犯してしまったと感じるのであれば、もし自分はキリストの輝かしい光を得るほどふさわしい生活をしていない、十分な努力を払っていないと感じるのであれば、このことを教えてください。神は「救いの心に満ちた御方で」あり、キリストは「慈悲と恵みに満ち、怒りに遅く、長く堪え忍び、慈しみ深い御方であられる」ということを教えるのです(Lectures on Faithy[1985年], 42)。憐れみ、悔い改め、救いという徳は、互いに強く結びついており、イエス・キリストの贖罪の中心にあります。福音の教えはすべて、こう教えているのです。心から望むなら変われます。誠実に求めれば助けが得られません。過去の問題がどうであれ、完全に元どおりにしていただくことができます。

人生には苦難が付き物ですが、すべての人に助けが与えられるのです。キリストは御父に従うようお教えになりましたが、その教えに従うためにどう助ければよいか御存じです。なにしろ主御自身がすでにその道を歩まれたのですから。そして御自分が歩まれた道を歩むようおっしゃっているのです。同じ道といっても、主はわたしたちのために、はるかに歩きやすい道にしてくださっています。主はとがった岩やつまづきの石がどこにあるか、とげやいばらがたくさんある所はどこか御存じです。どこが危険か御存じなのです。また、分岐点に差しかかったり日が暮れたりしたときにどちらに行けばよいか知っておられます。それは主が「あらゆる苦痛と苦難と試練を受け……御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを」すでに御存じだからです(アルマ7:11-12)。この聖句に出てくる「救う」という言葉(訳注——英語では“succor”)には「……に駆けつける」という意味があります。主の憐れみの腕にすがりさえすれば、主はわたしたちのところに駆けつけてくださること、そして現に今も駆けつけようとしてくださっていることを証します。

わたしたちがよろめいたり、つまづいたりしたとき、主はいつもそばにいてわたしたちを安定させ、力を与えてくださいます。結局のところ、救い主はわたしたちを救うためにおられるのです。そして、そのために主は命をささげられたのです。どんなに暗い日々を送っているように思えようと、世の救い主はそれよりもはるかに暗い日々を過ごされました。そ



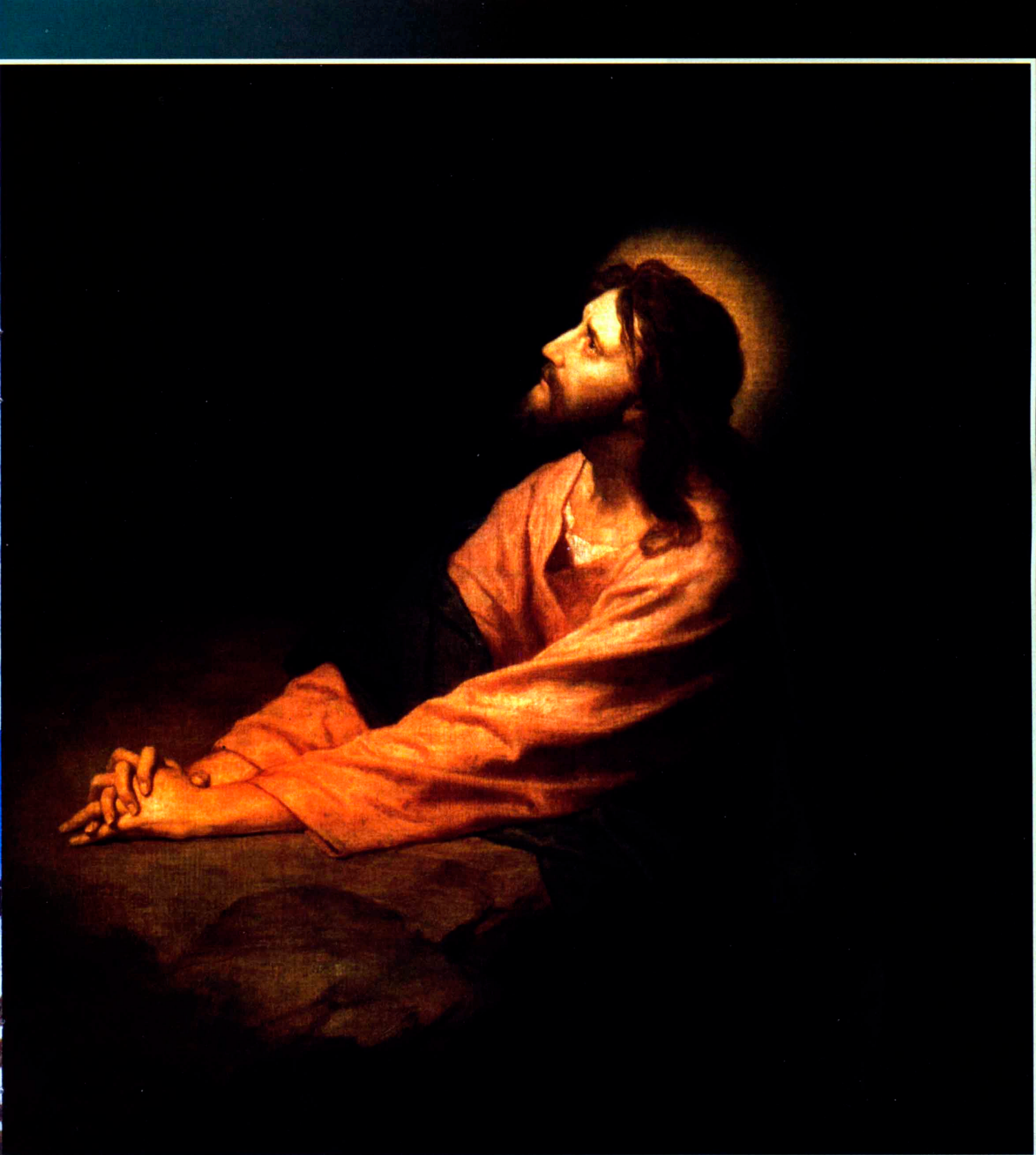
して復活されたときにも、その暗い日々を思い起こすしるしとして、弟子たちのために、御自分の選びによって、さもなければ完全に回復したはずの肉体から、手と足とわきの傷跡をそのままにしておかれたのです。その傷跡は、いわば、純粋で非の打ち所のない人々でも痛みを味わうことの象徴です。それはまた、この世で苦しみを受けても、神から愛されていないという意味ではないということの象徴とも言えます。あるいは、問題は必ず過ぎ去るものであり、幸せになることができるということの象徴とも言えるでしょう。わたしたちの人生という航海で舵を取ってくださる御方は傷跡をお持ちのキリストであることを生徒たちに思い出させてください。わたしたちを救済のための傷跡、愛と謙虚さを示す傷跡、従順と犠牲の傷跡を持っていらっしゃる御方です。

主が来られるとき、わたしたちはまずこの傷跡によって主を見分けます。主は過去にもそうされたように、わたしたちを招き、傷跡に触れてみるようにおっしゃるかもしれません。たとえそのときまで思い出さなかったとしても、少なくともそのときには必ず、イザヤが語った言葉のとおり、神であるキリストがあのようになさったのは、全部わたしたちのためだったと思い出すことでしょう。すなわち、「[神は]侮られて……捨てられ、

悲しみの人で、病を知っていた。……彼はわれわれのたがのために傷つけられ、われわれの不義のために碎かれたのだ。彼はみずから懲らしめをうけて、われわれに平安を与え、その打たれた傷によって、われわれはいやされたのだ。」(イザヤ53:3, 5)

わたしは、この業を愛しています。この1年、この偉大な新約聖書と、また新約聖書が証する救い主の生涯を熱心に研究できるこの機会を大切にしてください。この教会はキリストの教会です。わたしたちは偉大な業に携わっています。この業には、聖文を愛し聖文から学ぶという特権、そして聖文が真実であると互いに証し合う特権が付随しているのです。

この記事は、2000年8月8日にブリガム・ヤング大学で行われた教会教育システム宗教教育者大会での説教を基に書かれました。



左端——「十字架のはりし」ロバート・カール・ヘンリックソン、プロック画、デ・ハマーウ、フレドリスのフレドリス・スワネー城、内「58」の国立歴史博物館の厚層「58」の掲載、左——「マッセメのキリスト」ハインリッヒ・ホフマン画。

キリストが御自分の使命の中で最も強調なさりたかったことは——人としての徳や偉大な説教や癒しの業以上に、特に強調なさりたかったことは——御自分の御心を御父の御心みこころに従わせることだった〔の〕です。

同世代の青少年を導く

シャルロット・カチャペロ

次の提案は、わたしがフィリピンのワードで若い女性のクラス会長会の責任を果たしていたときに助けとなったものです。これらの原則は、皆さんが指導者としての召しを果たす際に役立つことでしょう。

＊時間をささげる。責任のために時間をささげてください。そうすれば、ほとんどのことを成し遂げられるでしょう。

＊親切にする。自分が周りの人に望むような態度で人に接してください。柔和で忍耐強くあってください。友情の精神をはぐくんでください。人のチャレンジや成功を理解しようと努めることで、相手が皆さんにとってかけがえのない人物であることを伝えてください。

＊尊敬する。皆さんが導く人々に敬意をもって接してください。一人一人が神の特別な子どもであり、神のようになる可能性を秘めているということを忘れないでください。

＊犠牲を払う。自分にとって最良なことだけを考えるのではなく、人々の必要や意見を考慮したうえで物事を決めるようにしてください。

＊学習する。福音を定期的に継続して学んでください。聖典やいろいろな良書は、皆さんが指導するように召された人々に、福音に対して理解している事柄を伝えるうえで助けとなります。

＊才能を使う。皆さんの光を升の下に隠さないでください(マタイ5:14-16参照)。皆さんの才能や能力を用いて、ほかの人がそれぞれの才能を発揮できるようにしてください。

＊助言を求める。皆さんが召しを果たせるよう、両親や成人の指導者と同様に会長会で一緒に働く人たち、そして特に天の御父に導きや助けを求めてください。

＊最善を尽くす。責任に圧倒されないでください。主が皆さんを召されたのです。主は皆さんが責任を成し遂げられるように助けてくださいます。最善を尽くし、主に頼るならば、失敗することはありません。■

シャルロット・カチャペロは、フィリピン・マロロスステーク、ブラリデル第2ワードの会員です。



備えていれば 恐れることはない

以下のメッセージから訪問先の姉妹たちの必要に合った聖句や教えを祈りの気持ちで選び、読んでください。自分の経験や証を分かち合い、あなたが教える人々も同様に行うよう勧めてください。

教義と聖約第38章30節——「備えていれば恐れることはない。」

十二使徒定員会 L・トム・ペリー——「わたしたちは何年も前から、将来に備えて少なくとも次の4つの必要に備えるように教えられてきました。第1に、適切な教育を受ける必要があります。……第2は、収入の範囲内で生活し、万に備えて貯蓄する必要があります。……第3に、過度の負債を避ける必要があります。……第4に、生命を維持するための食糧と日用品を入手し、貯蔵する必要があります。」(『備えていれば恐れることはない』『聖徒の道』1996年1月号, 40-41)

大管長会——「教会員は、ほかに食べる物がないうちに命を支えるうえで必要な基本食糧を備蓄することから家庭貯蔵を始めることができます。……」

中には貯蔵のためのお金や場所がない人、食糧品を年単位で貯蔵することが法律で禁じられている国に住んでいる人もいることでしょう。そのような人は、許される範囲でできるかぎり蓄えるようにしてください。経済的に1年分の備蓄が不可能な家族は、まず数か月分を蓄えるようにしましょう。この活動は分別をもって行い、パニックに陥ったり極端に走ったりしないようにしなければなりません。入念な計画を立てることにより、また時間をかけることにより、ほとんどの教会員は財政的な蓄えと必須食品の1年

分の備蓄を達成することができます。」(大管長会からの手紙, 2002年1月20日付)

第一副管長 マリオン・G・ロムニー (1897-1988年)——「わたしたち末日聖徒は、啓示の中で知らされているため、ほかのどの民よりも今日の様々な問題に対処する備えがよくできていると思います。……」

『賢くて、真理を受け入れ、自分の導き手として聖なる御霊を受け〔た者〕は切り倒されて火の中に投げ込まれることなく、その日に堪えるであろう。』(教義と聖約45:57)……

……教会の会員であるわたしたちはそれぞれ頭に手を置かれ、その儀式がもたらす範囲で聖霊の賜物を受けています。……わたしが聖霊を受け、その導きに従うならば、この混乱した時代にあって守られ、支えられる人々の中に加えられるでしょう。皆さんにも同じことが言えます。そして聖霊の導きに従った生活をす

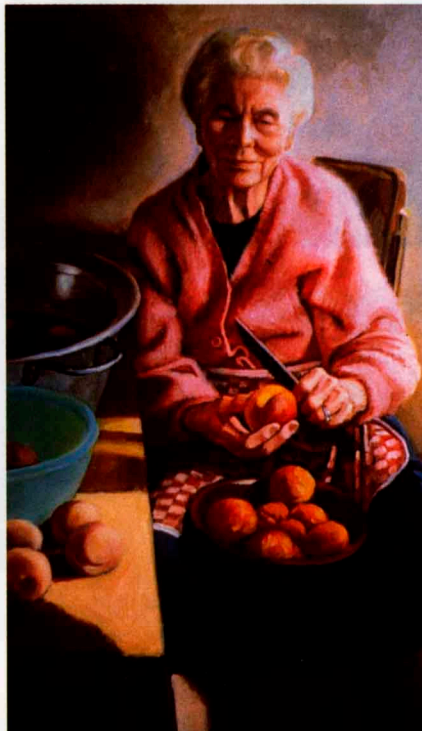
るすべての人がその中に加えられるのです。」「(もし汝らに備えあらば怖ることなからん)『聖徒の道』1982年1月号, 1, 5-6参照)

大管長 ブリガム・ヤング (1801-1877年)——「わたしたちが熱心に求めるべきことは一つ、すなわち、自分自身の心を聖め、思いを純化し、さらなる前進を強く促す様々な出来事の到来に、自分自身を備えることです。……主の時を忍耐強く待ち受け、来るべき時のために自らを備えられるよう、キリストの御霊を得ることを求めてください。」(Deseret News Weekly, 1861年5月1日付, 65)

教義と聖約第6章34節, 36節——「小さい群れよ、恐れてはならない。善を行いなさい。この世と地獄をあなたがたに対して連合させなさい。あなたがたがわたしの岩の上に建てられるならば、それらは打ち勝つことができなからぬからである。……あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」

■ 信仰と希望をもって将来を見据えるには、どうしたらよいでしょうか。

■ 物心両面でできる限りの備えをするうえで、妨げとなるのはどのようなことでしょうか。■



地の果てまでも

リチャード・M・ロムニー

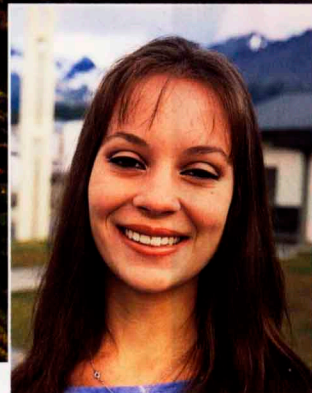
「神は……^{はて}地の果てもみそなわし、^{てん}天が下を見きわめられるからだ。」

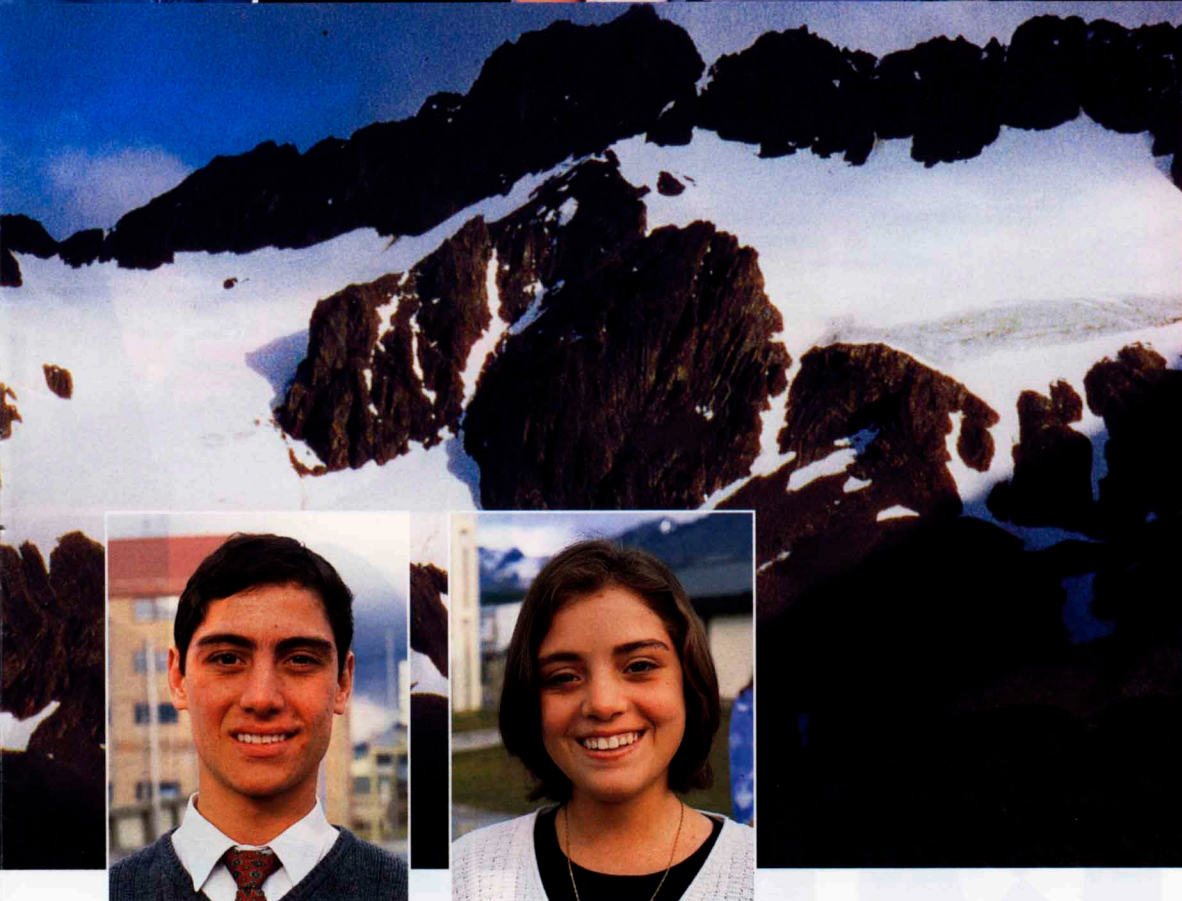
(ヨブ28:23-24)

アルゼンチンに行ってください。そこから進路を南に取り、そのまま進みます。ずっと進みます。陸地が尽きてマゼラン海峡に出たら、海を渡ってフエゴ島まで行きます。そのまま進みます。島のずっと端に行き着いたら止まってください。そこが世界の最南端の都市として知られているウスアイアです。あまりに南すぎて、島に住む人たちは皆「世界の果て」と呼んでいるくらいです。

ぎざぎざした氷の山が海に突き出している氷河の町も、毎年2、3か月は日も照り、温かいのですが、それ以外は寒く、荒れた暗い日々が続きます。

ウスアイアは若い末日聖徒の住む所として、真っ先に思い浮かぶ場所ではないかもしれませんが、教会はここに息づき、勢いを増しています。そして、ウスアイアに住む末日聖徒の青少年は、自分たちが預言の一端を成就して





ス サーナ・マルティネスとルベン・モレシ(上)が共通して持っていた福音のきずなが、二人と、二人の家族、マルティネス家のヒマーナ、ミカエラ、ゴンサロと、モレシ家のマヌエルとミカエラ(下、左から)を一つの愛ある家族に結びつけました。

キ

ロガ家の
マティア
ス、パト
リシア、パオラの3
人(下、左から)は、
遠隔の地で同年代
の青少年が薬物な
どの破壊的な行為
に走ってしまっ
ている中、教会で幸
福を見いだしまし
た。

いることを知っています。すなわち、福音は「地の果てまで転がり進むであろう」(教義と聖約65:2)という預言です。

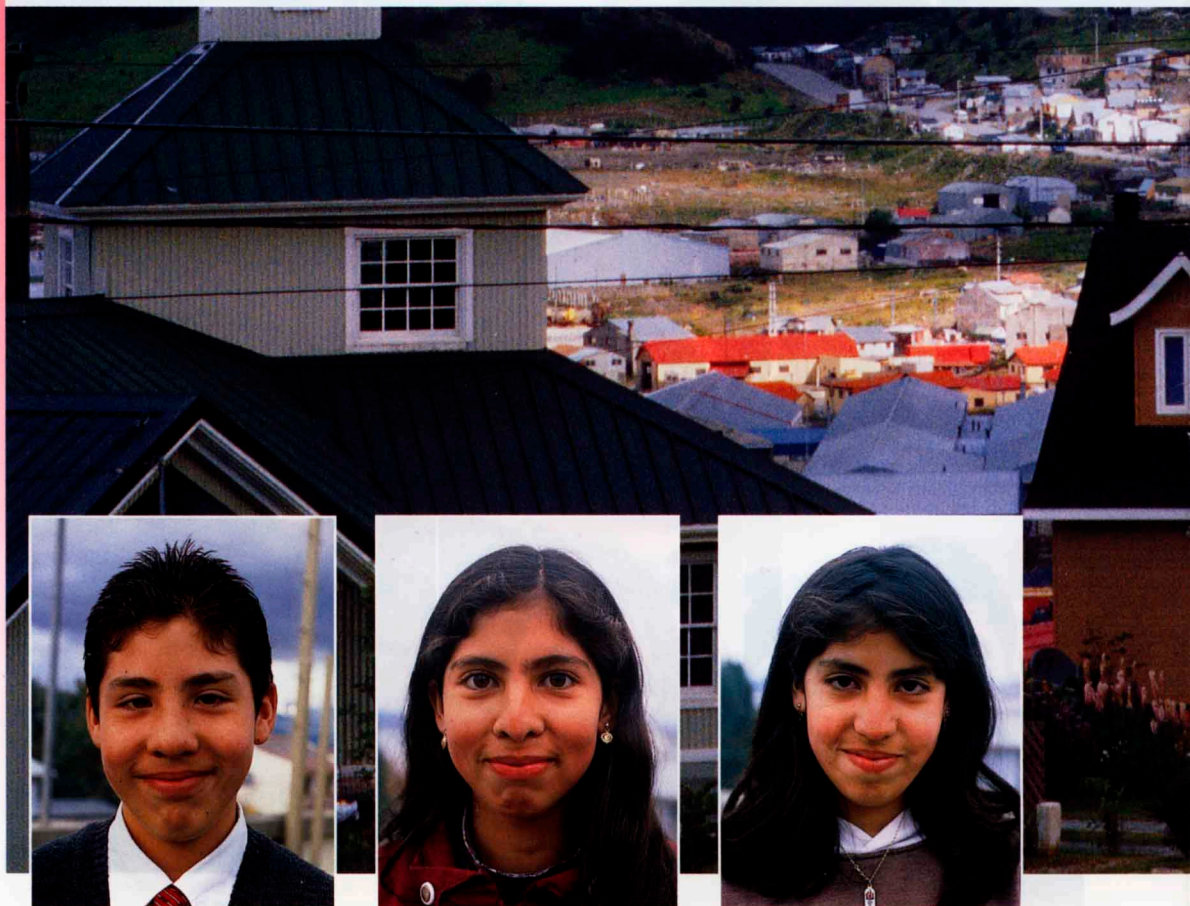
お母さんに結婚相手を見つけよう

ヒマーナ・マルティネスの話をしてしましよう。数年前まで、ヒマーナ、妹のミカエラ、弟のゴンサロは、離婚した母親とブエノスアイレスで暮らしていました。ヒマーナは当時15歳。庭の手入れが割り当てられていました。「でも、怠けてやっていなかったんです。そこへ、向かいの家に住む親切な隣人、ダニエル・ガリドが手伝ってあげようかと言ってくれました。2、3日してダニエルは、専任宣教師を連れてやって来たのです。彼らは一生懸命働いて、すっかりきれいにしてくれました。でも、これはほんの始まりでした。それから、ダニエルと奥さんのエリサベトはいつも誠実な友人でした。そして、宣教師はわたしたちに福音の回復について教えることを申

し出したのです。とても断ることなどできませんでした。」

それは理解への旅路の始まりでした。宣教師とともに勉強した後、ヒマーナのお母さんはバプテスマを受けました。すぐに、子どもたちも母親の模範に続きました。ヒマーナは言います。「わたしは生活を変え、キリストだけがお与えになれる自由を得ることを決心したのです。福音に従って生きたいという思いが次第に強くなっていきました。でも、足りないものがありました。わたしたちには父親が必要でした。神殿で結び固めを受けたいと思いました。

ある日、教会のダンスでマルティン・モレシという友達と話をしていたとき、マルティンは、父親が離婚していると言ったんです。「ねえ、母には夫が必要な。二人を会わせなきゃ」とわたしは冗談交じりに言いました。問題はただ一つ、マルティンのお父さんが2,000マイル〔約3,200キロ〕離れた所に住んでいた、ということでした。



心に大きな喜びを感じ

ウスアイアのような孤立した地域では、生きていくのは寂しく思えるものです。アルコールや薬物、また不道徳な行いに走り、絶望の淵に追い込まれる若者もいます。末日聖徒の若人は天の御父の導きに従うことに幸福を見いだしています。2年前にバプテスマを受けたキログ家族3人の話を聞いてみましょう。

「教会の会員でいられてとてもうれしいです」と14歳のマティアスは語ります。「天のお父様が一瞬一瞬を導いてくださる真の教会に自分が所属していることをしみじみ感じています。新しい会員としてたくさんのことを学びました。教師は多くのことを教えてくれました。会員の皆さんはとても親切にしてくれます。」

わたしは母に、『お母さんの結婚相手を見つけたわよ』とからかうようになりました。そんなとき、ステーキの聖歌隊の練習でマルティンが言いました。『父が今度ブエノスアイレスに来るんだ。そのとき、君のお母さんと食事でもどうか、って。』わたしは驚いて言葉もありませんでした。母の反応がどのようだったかはここで言いませんが、母は申し出を受けました。マルティンが父親のルベンに同伴し、わたしは母サーナと一緒に行って、すばらしい夜を過ごしました。ルベン・モレシは心配りのある、わたしたちを大切にしてくれる人でした。

彼の18歳になる姉のパトリシアも同様に感じています。こう語っています。「末日聖徒になってわたしの生活はあらゆる面で変わりました。いつも神様を信じてきました。でも、教会に入った今ほど、神様の存在を感じたことはありません。若い女性の一員であることをうれしく思います。個人の進歩プログラムも頑張って実行しています。」

「バプテスマを受ける前に、お祈りをして自分がしようとしていることは正しいかどうか尋ねました。」16歳のパオラは語ります。「わたしは心に大きな喜びを感じました。それからバプテスマを受け、御霊がわたしに注がれるのを感じました。この教会が真実であることを知っています。そのことについて何の疑いもありません。正しいことを行うとき、幸せを感じます。」

高潔で誠実な、神の人であることが分かりました。」

3か半月後、ルベンとサーナはアルゼンチン・ブエノスアイレス神殿で結婚しました。マルティネスの3きょうだい、ヒマーナ、ミカエラ、ゴンサロは二人と結び固められてウスアイアに移り、モレシ家のマヌエル、ミカエラとともに新しいきょうだいとして、一緒に住むようになったのです。(ほかの3人の子どもたちは離れて住んでいます。)

ヒマーナはこう言います。「今、わたしは地の果てに住んでいます。ここでシオンが発展するように全力で取り組んでい



一筋の光

ウ スアイアでは、10代の子どもが二人以上いる家庭はモレスニア、マルティネス家、そしてキログ家ではありません。カバニリエス家に4人いる10代の子どもたちは、それぞれに強い証あかしを持っています。

「8歳のときからずっと教会員です」と14歳のフロレンシア・カバニリエスは言います。「わたしはイエス・キリストが生きておられること、そして聖文が神の言葉であることを知っています。またジョセフ・スミスが預言者であることも知っています。生活の中に福音があるので、とても幸せです。また、家族が神殿で結び固めを受けるという目標を達成できてほんとうにうれしいです。」

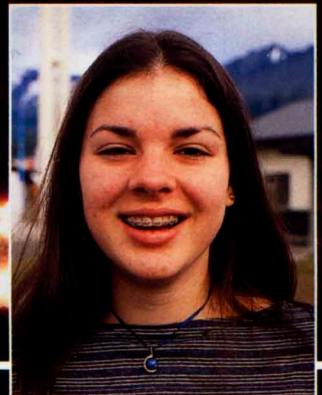
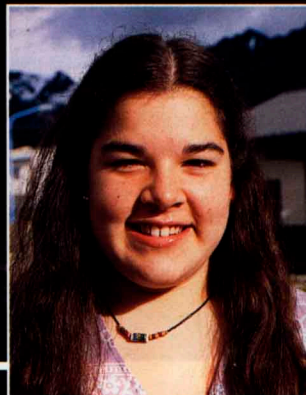
「わたしたちには預言者、聖見者、啓示者が与えられています。また預言者は神から啓示を受けるということも知っています。」15歳のアンドレアはそう言います。「モルモン書は困難な時期に翻訳された奇跡の書物だということを理解しています。ジョセフ・スミスは深い信仰をもって祈り、答えを受けました。」

「少し前に、日曜学校でモルモン書について教える機会がありました」と話すのは17歳のエステファニアです。「聖文を調べることが必要がありました。実際に聖文を調べ始めると、まるで自分がその場に居合わせたかのように情景を想像することができました。ニーファイ人の滅亡を自の当たりにしたモロナイがどのような気持ちでいたのかを、決して忘れないでしょう。また預言者の証も忘れません。もし皆さんが聖文の研究にまだ取り組んでいないのなら、今日きょうから始めてほしいと思います。」

ら、今日きょうから始めてほしいと思います。」

現在18歳のサブリナは、10歳のある晩に姉妹宣教師が家に訪ねて来たときのことを、今でもはっきりと覚えています。「宣教師は、祈りを通して神様が真実を明らかにしてくださるということ、分りやすく、そしてはっきりと教えてくれました」とサブリナは言います。「そして、ひざまずいて謙遜けんそんな気持ちで、証が得られるようにと天のお父様に願い求める必要があると言いました。『ひざまずくですって?』わたしはそう思いました。数日後、妹と一緒に散歩に行こうと母に誘われました。太陽が明るく輝き、皆と一緒に散歩に出かけたい気分でしたが、何かに引き止められるように感じて家に残りました。祈るのにこれほど完璧かんぺきなときはありません。わたしはダイニングルームにひざまずいて、モルモン書が真実かどうか、また今教会で教わっている原則が真実であるかどうか教えてくださいとお父様に懇願しました。5分が過ぎました。祈り終わってもそのままずっとひざまずいていると、突然一筋の光が顔を照らしました。それが一体何であるのか理解できませんでした。なぜなら室内は暗かったからです。けれど、台所にはカーテンのかかっていない小さな窓があり、光はそこからさし込んでいたのです。

とても幸せな気持ちになりました。このような方法でお父様が祈りにこたえてくださったということが分かったからです。今では祈り求めたすべてのことに対して証があります。すべては真実です。祈りには驚くべき力が秘められていることを知っています。」



ます。主の王国が地の四方に広がっていくことを知っています。そのために主は、わたしたちをその一角に導かれたのです。」

関心を寄せることは分かち合うこと

ウスアイアのほかの青少年と話してみてください。彼らもまた、教会と教会がもたらす祝福に深い愛を抱いていることが分かります。12歳になるボリス・サパタは、モロナイが言ったように、福音は「もっと良い世界を……望む」(エテル12:4)ことを教えてくれたと話しています。16歳のホアン・フラウは「毎日聖文を研究できることは、素晴らしい」とセミナーに対する感謝の気持ちを伝えています。

「学校の友達、エレナ・アヤラに福音を伝える機会がありました。エレナがバプテスマを受けたとき、わたしは喜びでいっぱいでした。イエス・キリストが生きていらっしゃることを知っ

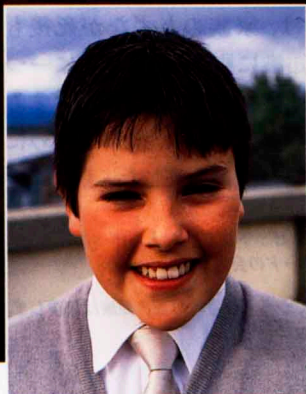


て、その気持ちを人と分かち合うのは素晴らしいことです。」こう言うのは18歳のミカエラ・マルティネスです。

ここ地の果てで、ウスアイアの青少年は福音の偉大な光を受けました。彼らは喜んでその光を互いに分かち合い、さらにその光を受け入れる気持ちのあるあらゆる人に伝えています。■

カ バニリエ
ス家のフ
ロレンシ

ア、アンドレア、エ
ステファニア、サ
ブリナ、そして、ボ
リス・サパタとホ
アン・フラウ(下、
左から)は、ウスア
イアの末日聖徒青
少年グループ(左)
の一員です。皆の
結束が、地の果て
の町で彼らを助け、
守っています。



奉仕の業 に召され

祈りの答えが「いいえ」であることは予感していましたが、なぜ主はわたしに伝道に出てほしくないとお思いなのでしょう。わたしは良い宣教師になれないのでしょうか。

ローラリー・バセット・レビット

わたしは死者のためのバプテスマを受けるために神殿の中で待ちながら、祈りました。20歳になっていましたし、専任宣教師として伝道に出るべきかどうか知りたかったのです。「いいえ」という答えが返ってくる予感はしていましたが、一度は尋ねてみたかったのです。

突然冷たい水をバケツごとかぶったかのような寒気が襲ってきて、わたしは身震いしました。「出るべきではない」という気持ちが心に浮かびました。伝道はわたしが進むべき道ではないのです。

若い女性が伝道に出ることは、若い男性ほどは期待されていないことは知っていたものの、困惑しました。なぜ御霊は伝道に出ないよう^のに告げたのでしょうか。わたしは福音を宣べ伝える業に向かないのでしょうか。

友人の何人かが伝道の召しを受けるのを見ながら、時々自分の将来には何が待ち受けているのだろうと、案じたりしました。21歳の誕生日が近づいていたので、「今から面接を受けて伝道の申請書を出しても、まだ間に合う」と考えずにいらませんでした。

イギリスに留学中のある日、両親から電話がありました。母親が泣きながら、ショッキングなことを伝えてきました。癌^{がん}であると診断されたというのです。

1か月後、夏休みでアメリカに帰国したとき、母は化学治療の影響で少しずつ衰弱していました。わたしは家事や食事の準備の仕方を教わりながら、家のことを手伝い始めました。ま

た、母を失うかもしれないという恐れもあって、母と何時間も話しました。家庭を整えることがいかに複雑で、時間のかかる作業であるかを、身をもって実感し、長年に及ぶ母の労苦に対し、改めて感謝の念を抱きました。わたしは夕食にまともな食事を準備するだけで精いっぱいでした。

幸い、ワードの会員や地域の人々がわたしたちを助けてくれました。

母の治療は続き、その間、わたしたち家族のきずなはますます強くなっていきました。母が若いころの話をしてくれたり、家族でいろいろなゲームをして遊んだりしました。聖文について語り合ったりもしました。父は自分の証^{あかし}とともに、心に抱いている恐れ^のの気持ちについてもわたしに話してくれました。

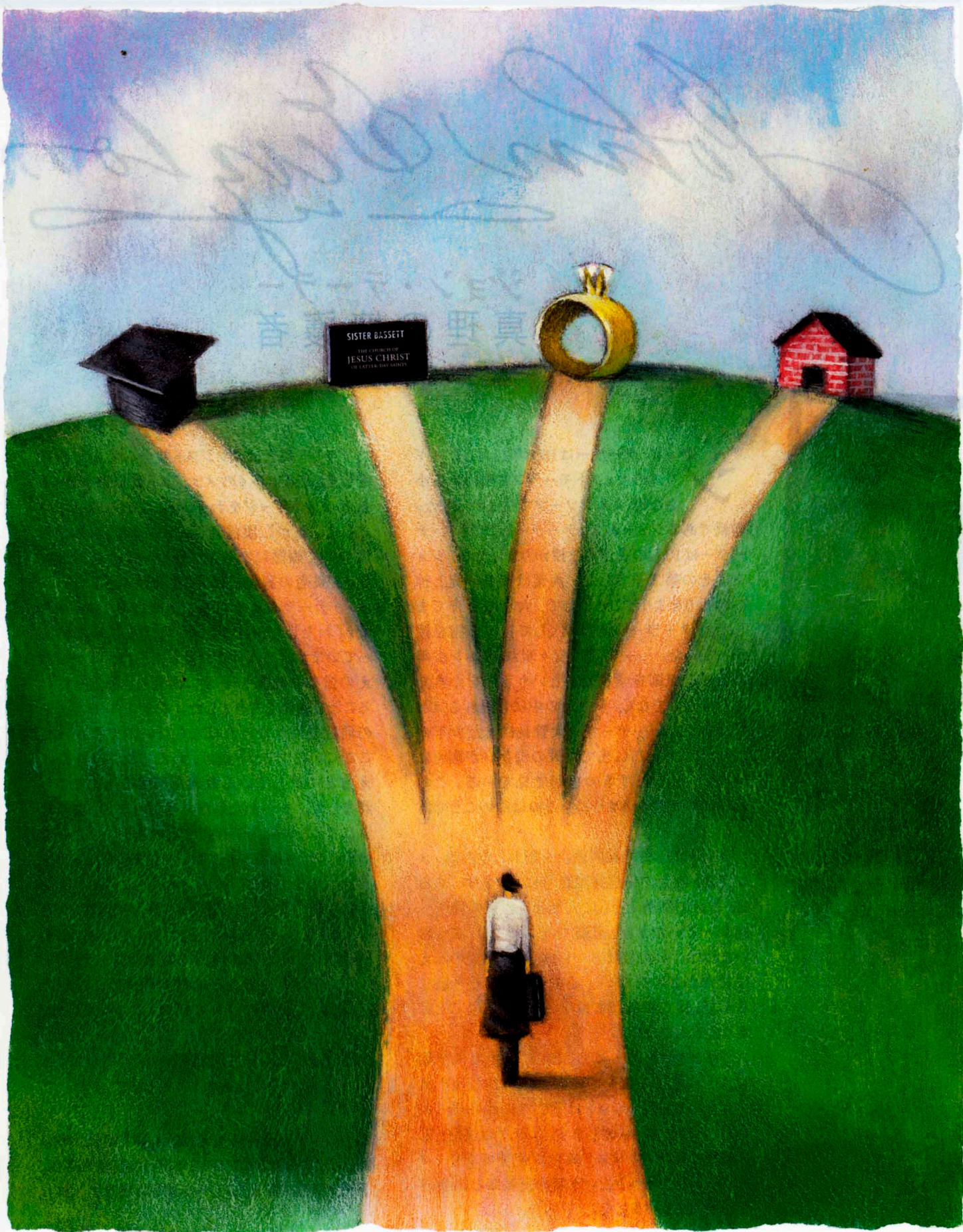
その夏、わたしは永遠に価値のある数々の教訓を得ました。わたしのいるべき場所は家族のそばだったのです。その夏の間中いつも天の御父の愛を感じたおかげで、証が強まりました。生まれたときから知っているワードの会員たちとさらに良い関係を築くことができました。わたしたちは、家族のきずなが死後も断たれないという知識に慰められ、さらに一つに結ばれました。わたしは主に、伝道に対するわたしの疑問に答え、家族に奉仕するために召してくださったことに感謝しました。■

ローラリー・バセット・レビットはワシントン州ベルビューステーク、ベルビュー第1ワードの会員です。

編集後記—治療を受けてから、著者の母親の健康は快復しました。



21歳の誕生日が近づき、わたしは自分の将来には何が待ち受けているのだろうと案じたりしました。伝道でしょうか。主の答えは明確で、思いがけないものでした。



絵 / フレック・ハリ

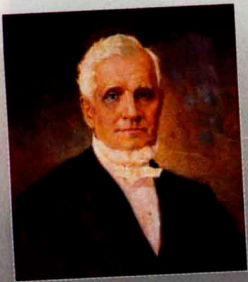
John Taylor

ジョン・テラー 真理の擁護者

カーラ・C・エリックソン

歴代大管長の教え

ジョン・テラー



ジョン・テラーは
第3代大管長として
預言者ジョセフ・
スミスに対して
揺るぎない証を持ち、
最も困難な時期に
教会を導きました。

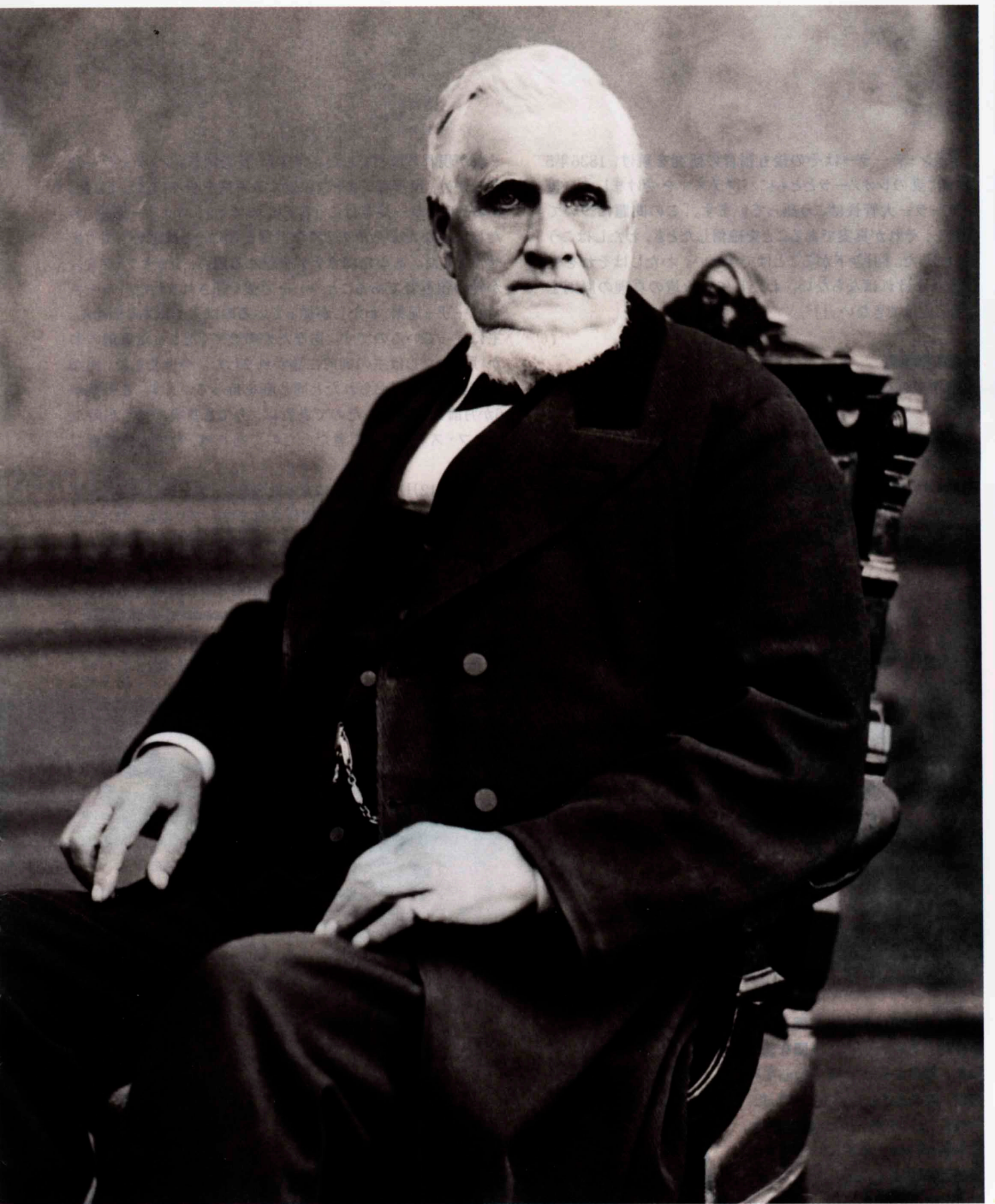
ジョン・テラーは1808年11月1日、イギリスのウェストモアランド州にある小さな町、ミルソープで生まれました。両親であるジェームズ・テラーとアグネス・テラーは10人の子どもを授かりましたが、ジョンはその第二子でした。両親は聖書研究と神への祈りをよりどころにして、大家族を育てました。「テラー少年は幼くして神の御霊を授かっていた。……御霊は度々現れ、ジョン少年の教義と原則を学びたいという意志をかき立てたばかりでなく、夢や幻の中にも現れるほどであった。……テラー大管長はまだ少年のころ、ラッパを口に当てた天の御使いが国々にメッセージを告げるのを幻で見ている。この幻の意味が分かるようになるのは後のことであった。」¹

ジョンは16歳で英国教会を離れ、その後、メソジスト教会の平信徒説教者になります。ある日、教区の同僚とともに人と会う約束の場所へ向かっていたとき、道端で立ち止まり、こう言いました。「わたしはアメリカへ福音を宣べ伝える行かねばならない。心の中に強くそう感じるんだ。」² この気持ちはその後も薄らぐことはありませんでした。

ジョン・テラーは1832年にイギリスを離れ、1830年に移住していた家族の住むカナダへ向かいました。ジョンはそこでレオノーラ・キャンオンと出会い、結婚します。カナダはまた、末日聖徒イエス・キリスト教会の使徒であり、パーリー・P・プラットという名の宣教師と出会った場所でもありました。

プラット長老はメソジスト教会の集会で説教をしましたが、多くのメソジスト教徒はプラット長老のメッセージをわくわくしながら聴いていました。しかし預言者ジョセフ・スミスと金板についての話になると、幾人かはそれ以上プラット長老の説教を聴くことを拒みました。ジョン・テラーはその折、仲間にごう論しました。「わたしたちはここに、真理を求めて集まっています。これまでわたしたちは、ほかの教えの信条や教義を子細に研究し、間違っていることを立証してきました。なぜモルモニズムの研究を恐れなければならないのでしょうか。ここにいるプラット氏は、わたしたち自身の考え方と一致している教義を数多く携えてこられました。……わたしたちはこれまで、この地上にまことの教会が存在するのなら、使者を遣わしてくださるよう神に祈ってきました。プラット氏はわたしたちのところへ、……昔の使徒たちが旅したように、財布も袋も持たずにやって来ました。そしてわたしたちの中には、聖文や論理によって彼の教義を論破できる者も一人もいません。わたしは彼の教義と、権能を持つという主張について研究したいと思えます。……もしこの宗教が真実だと分かったら、わたしはどのような結果が待ち受けていようとも、その教えを受け入れるつもりです。」³

「ジョン・テラーの教え」はメルキゼデク神権ならびに扶助協会の2003年度教科課程であり、「歴代大管長の教え」シリーズの第4巻です。



ジョン・テラーはその後も福音の研究を続け、1836年5月9日に妻のレオノーラとともにバプテスマを受けました。後にテラー大管長はこう語っています。「この問題について研究し、それが真実であることを確信したとき、わたしはこう言いました。『引き下がることはできない。わたしはそれを受け入れなければならない。わたしには永遠の真理の原則を拒むことはできない。』」⁴

真理の擁護者

真理すなわち永遠の真理は、クリスチャンの希望の土台です。⁵

ジョン・テラーは教会の管理役員として2年間カナダで奉仕をした後、1837年3月、預言者ジョセフ・スミスに会うためにアメリカ合衆国のカートランドを訪れました。その当時教会はひどい迫害に遭っており、使徒たちの中にさえ背教に傾

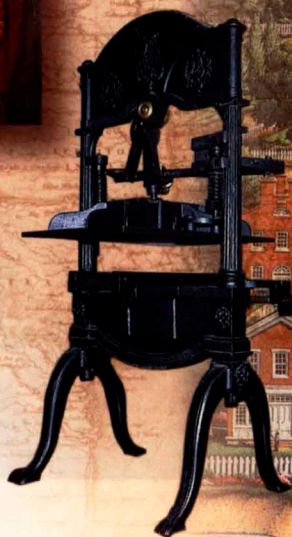
く者が現れるほどでした。プラット長老はジョン・テラーに話しかけ、預言者ジョセフに対する不満を少々口にしました。するとテラー長老はこう答えたのです。「パーリー兄弟、わたしはあなたからそのような言葉を聞こうとは思いませんでした。あなたはカナダを離れる前に、ジョセフ・スミスが神の預言者であること……を力強く証^{あかし}されました。……さてパーリー兄弟、わたしが従っているのは人ではありません。主に従っているのです。あなたが教えてくださった原則のおかげでわたしは主の御前に導かれました。今わたしは、あなたが当時持っておられたと同じ証を持っています。この業が6か月前に真実だったのであれば、今でも真実です。当時ジョセフ・スミスが預言者だったのであれば、今でも預言者です。」⁶

1838年12月19日、30歳になったジョン・テラーはミズーリ州ファーウェストで使徒に聖任されます。ブリガム・ヤング長

テラー長老は、当時教会の主要出版物であった「タイムズ・アンド・シーズンズ」(Times and Seasons)の副編集長に、後には編集長に任命されました。ジョン・テラーがノーブで住んでいた家は印刷所に隣接していました。



テラー長老は教会に反発して怒りをあらわにしていた集団を前にして、言葉によって彼らの心を和らげ、臆^{おそ}することなく言いました。「さあ、コールタールと羽根を持って来るがいい。犠牲になる覚悟はできている。」



左「寛政はできている」テル・ハイソン画。印刷機の写真。クレイグ・ダイヤモンド。「ジョセフの西」エリック・ダニエル画。右「リバプールにおけるジョン・テラーの説教」ロバート・T・パレット画。モルモン書の写真。クリスティーナ・スミス

老とヒーバー・C・キンボール長老が聖任を執り行いましたが、これは当時リバプリーの監獄に収監されていた預言者ジョセフ・スミスの指示によるものでした。

自由の闘士

わたしたちは自由を得る権利を有しており、この権利は神がすべての人間にお与えになったものです。⁷

ある日、テラー長老はオハイオ州コロンバス近郊で大勢の群衆に対して説教をする手はずとなっていました。しかしその集会が始まる少し前に、数人の兄弟たちが耳にしたのは、テラー長老にコールタールを塗り、羽毛をつけようともくろんでいる者たちがいるということでした。

テラー長老はそれにおじけづくことなく群衆の前に現れ、演説を始めてこう語りました。

「わたしの目の前には、そうした気高い人々を先祖に持つ人々がいます。その先祖たちは暴君の命令に屈するよりも、生命と財産と神聖な名誉をかけて、そうした束縛を打ち破り、自ら自由を享受し、子孫にそれを残すことを選びました。そして、もしそれができなければ、その戦いの最中に死ぬことも辞さなかったのです。……

……わたしに届いた情報では、皆さんは、宗教上の意見の相違から、わたしにコールタールを塗り、羽根をつけることを計画しているとのこと。それは、皆さんの先祖から受け継いだ恩恵でしょうか。皆さんの先祖たちが最愛の人の命までも犠牲にして勝ち取った祝福でしょうか。これが皆さんの言う自由でしょうか。」

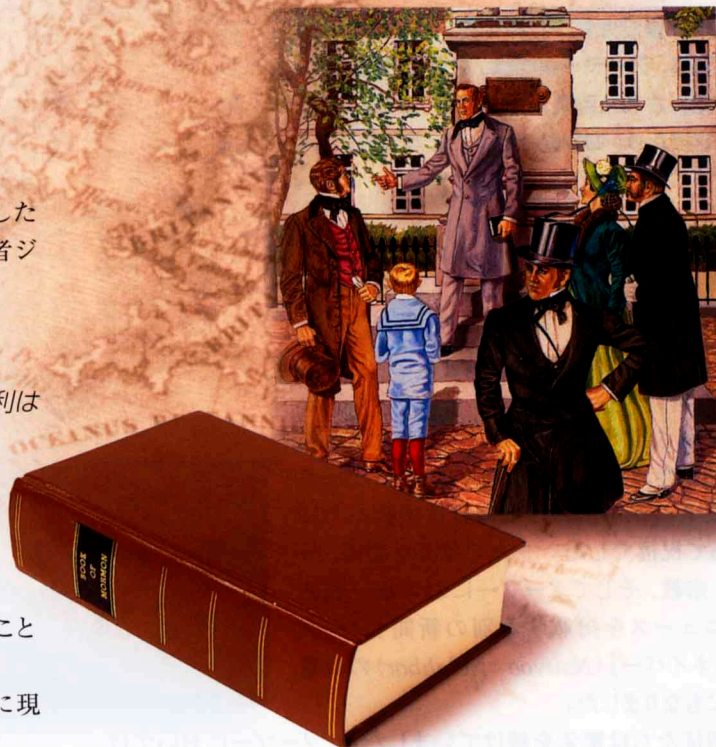
そして、テラー長老はベストの前をはだけて言いました。「さあ、コールタールと羽根を持って来るがいい。犠牲になる覚悟はできている。」⁸

聴衆は押し黙り、だれ一人として動く者はいませんでした。しばらくの沈黙の後、テラー長老は力強い説教を再開し、3時間近くにも及びました。

宣教師としての経験

〔宣教師は、) 貴い福音の種を携えた^{あわ}憐れみの天使として出て行きます。⁹

一度回復された福音を受け入れると、テラー長老は福音をほかの人々に宣べ伝えることを切望します。テラー長老は何度も伝道に赴き、その期間は1839年から1857年まで合わせて87か月に達しました。困難な状況にあった家族のもとを離れなければならないこともしばしばで、主が家族



初めてイギリス諸島で伝道中、ジョン・テラーはアメリカ合衆国以外で出版されたモルモン書の初版の準備に貢献しています。

を守ってくださると信頼していました。

31歳のとき、テラー長老はイギリス諸島に渡り、アイルランドとマン島で福音を宣べ伝えた初めての宣教師となりました。またアメリカ合衆国以外で出版されたモルモン書の初版の準備にも貢献しています。

イギリスでの初めての伝道を終えて帰国したテラー長老が見たものは、重病の妻レオノーラの姿であった。テラー長老はほかの長老たちを家に呼び、妻に油を注ぎ祝福を施しました。彼らの信仰と祈りによってレオノーラの病気は全快しました。

テラー長老にとって苦難にあえぐ家族は常に心痛の種でした。しかし、務めが困難なものになればなるほど、福音を広めようとするテラー長老の気持ちは揺るぎないものとなったようです。テラー長老はこう述べています。「わたし自身遠い道のりを旅して福音を宣べ伝えました。財布も袋も持たず、主を信頼しての旅です。主はわたしをお見捨てになったのでしょうか。決して、決してお見捨てにはなりません。いつも必要なものを与えられていました。このことを思うとき、天の父なる神をほめたたえたい気持ちになります。」¹⁰

伝道の合間に、テラー長老は、当時教会の主要出版物であった『タイムズ・アンド・シーズンズ』(Times and Seasons)の副編集長に任命されます。その翌年には編集長

預言者ジョセフとその兄ハイラムが殉教して数日後、テラー長老は、自分の心臓部をねらって発射された弾丸が懐中時計のガラスに激しく突き当たり、命が助かったことを知りました。



に任命され、聖徒たちがノーブーを追われる1846年までその職にありました。テラー長老の執筆における力量は聖徒たちにとって祝福でした。一方ではまた芸術、科学、宗教、そしてノーブーにおける一般的なニュースを掲載する別の新聞『ノーブー・ネイバー』(Nauvoo Neighbor)の編集長にもなりました。

聖徒たちは繁栄を続けていましたが、ノーブーにおいてはすべてが順調というわけではありませんでした。迫害は増しつつあり、預言者ジョセフはミズーリ州前知事リルバーン・W・ボッグズの暗殺未遂事件を企てたとする罪で告訴されていました。それでも預言者ジョセフ・スミスに対するテラー長老の忠誠心は確固たるものであり、自身が編集する新聞の社説を通して預言者を弁護しました。しかし、暴徒や背教者たちはミズーリ州民の怒りをあおっていたのです。

殉教

聖見者、聖見者、聖見者ジョセフ。

我は歌わん、こよなく愛する預言者を。¹¹

1844年6月27日、テラー長老、同じ十二使徒定員会会員であったウィラード・リチャーズ長老、預言者ジョセフ・スミス、そして預言者の兄ハイラムたちはカーセージの監獄で州知事からの連絡を待っていました。この4人の仲間が監獄内で待っている間、テラー長老は賛美歌「悩める旅人」を歌います。皆の気持ちは陰気で憂鬱になっていました。「すぐにハイラムがもう一度歌うようテラー長老に頼んだところ、テラー長老はこう答えた。

『ハイラム兄弟、今は歌いたい気持ちではありません。』

『心配しないでください。歌い始めれば、賛美歌から力を得られますから。』

2度目を歌い終えた直後、監獄の正面の窓際に座っていたテラー長老は顔を黒く塗った一団の男たちを見た。……ドアの前の踊り場に到達した暴徒たちは、ドアに鍵がかかっていると思い、鍵穴をライフルで撃ち抜いた。ハイラムとリチャーズ医師は飛び下がったが、次の瞬間2発目の弾丸はド



ア板を貫通してハイラムの顔面に命中。同時に1発の弾丸が……ハイラムの背中に当たり、彼は『わたしは死ぬ』と叫

びながら床に崩れ落ちた。……

……テラー長老は重いステッキを持ってドアの横〔に〕陣取り、……暴徒たちがドアの透き間から押し込んで銃撃してくるライフルの銃口をそらした。……

……ドアの所でさらにその数を増すライフルからは、人の腕の太さほどもある火の帯がほとぼしっていたが、テラー長老は冷静で、力もあり、決然としており、殺人ライフルの銃口をたたき落していった。

『そうだ、テラー兄弟。できるだけライフルをそらすんだ。』後ろに立っていたジョセフは言った。』

しかし銃撃はやむ気配がなく、階段を上って押し寄せてくる暴徒の数も増えたので、テラー長老は開いている窓に飛び移りました。

「〔テラー長老が〕窓から外に飛び出そうとしたとき、ドアの透き間から放たれた銃弾が左もものほぼ中央に命中。テラー長老は力なく窓枠に倒れかかり、監獄の外に落ちようとした。その瞬間、外から来た弾丸がベストのポケットの懐中時計に当たり、もう一度部屋の中に戻された。……足が自由に動かせないにもかかわらず、テラー長老はあらんかぎりの力を振り絞り、這って窓際のベッドの下に体を移した。

移動する間にもテラー長老はさらに3発の弾丸を浴びている。一つは左ひざの少し下のところに入り、その後も摘出されていない。別の弾丸は左腰から人間のこぶしほどもある肉を吹き飛ばし、ちぎれた肉片が血とともに壁に飛び散った。また別の弾丸は左前腕部の手首よりやや上に入り、関節

部を通して左の手の平まで達している。」

苦しみながら横たわっていたテラー長老は、預言者が窓から飛び降りたと叫んでいる暴徒たちの声を聞きました。

「リチャーズ医師は……最も恐れていた事態を確認した。預言者の死である。

『わたしは陰うつで孤独な、吐き気を催すような思いがした』とテラー長老は語っている。』¹²

数日後テラー長老は、自分の心臓部をねらって発射された弾丸が懐中時計のガラスに激しく突き当たり、監獄の窓から落下するのを防いだことを知りました。テラー長老はこう述べています。「わたしは、主が特に慈悲深い働きによりわたしを生かしてくださったと感じた。つまりわたしが死ぬのはまだ先であり、地上で果たすべき仕事はまだあるということである。』¹³

殉教の目撃者としてテラー長老は、現在教義と聖約の第135章となっている力強く雄弁な言葉を残しています。「主の預言者であり聖見者であるジョセフ・スミスは、ただイエスは別として、この世に生を受けた他のいかなる人よりも、この世の人々の救いのために多くのことを成し遂げた。」(3節)

試練と苦難

わたしたちは苦難によって多くの事柄を学んできました。わたしたちはそれを苦難と呼びますが、わたしは経験という学校と呼びます。¹⁴

聖徒たちは程なくノーブーを離れることを余儀なくされます。テラー長老とその家族を含む開拓者の一団がソルトレーク・シティに到着したのは1847年10月5日でした。翌年の8月、聖徒たちは黒こおろぎの大量発生を乗り越え、豊作を楽しむことができました。作付けや収穫、家の建設といったあらゆる不安を抱えた「多くの聖徒たちは、当時〔ジョン・テラーの〕強い証を頼りにした。入植地が絶望に覆われれば、テラー長老は希望でその地を満たした。弱い者がくじけたときには、彼らを強め、恐れで震えている者がいれば、励ました。悲しみを負っている者がいれば、慰め元気づけた。』¹⁵ テラー長老の強靱さは決して失われず、聖徒たちを励ます力となりました。

71歳でジョン・テラーは大管長になります。大管長として支持された1880年10月10日、数々の試練に対する自らの見解をこう述べています。

「わたしに関するかぎり、こう言えます。すべてを神が定められたように来らせなさい、ということです。……

かつてはよくこう考えました。もしわたしが主であれば、

人々にこのような試練は受けさせないだろうと。しかし、この点についてわたしの考えは変わりました。今の考えはこうです。……試練は、糖蜜に群がるはえのように聖徒たちを取り巻く卑しさと腐敗を払拭してくれます。』¹⁶

誠実さと人格

シオンの大義に対し誠実であるあなたを愛しています。¹⁷

テラー大管長が最後まで不動の信念としていた一つの事柄は、正直であることでした。大管長は聖徒たちにとって信頼できる存在でした。

第7代大管長であるヒーバー・J・グラント大管長(1856-1945年)は、テラー大管長が二人の友人の間に起きた口論をどのように解決したかを述べています。

「この二人はある仕事上の事柄を巡って言い争いをしていました。そして結局、問題の調整をジョン・テラー十二使徒定員会会長にお願いしようという結論になったのです。……

……二人は……〔テラー会長に〕、自分たちの話を聞いて決断を下してくれるよう頼みました。会長は喜んで応じましたけれども、こう言ったのです。『兄弟たち、お話を聞く前に、あなたがたのためにぜひ1曲シオンの歌を歌いたと思います。』

ところで、テラー会長は歌がとても上手で、わたしたちの神聖な賛美歌を美しい声で魂を込めて歌ったものでした。会長は二人の兄弟に賛美歌を1曲歌って聴かせました。賛美歌の効果を確認すると、こう言いました。シオンの賛美歌で今までに聴いたことのない曲が一つあるので、もう1曲聴きたいのです。それでもう1曲歌いますから、その間聴いてください。もちろん二人は同意しました。友人たちは賛美歌を楽しんでいるようでした。2曲目を歌い終えたテラー会長は、奇数で物事を終えるのは縁起がいいそうですね、同意してくださるなら別の曲を歌いたいのですが、と言いました。そして歌ったのです。それから会長はおどけた調子でこう言いました。『さて兄弟たち、あなたがたを疲れさせたくはないのですが、もしもう1曲聴いていただけるなら、これで歌うのはやめてあなたがたの話聞くことを約束しましょう。』

テラー会長が4曲目を歌い終わると兄弟たちは感動のあまり涙を浮かべ、立ち上がって握手を交わし、助けを求めて時間を取らせたことに対してテラー会長におわびしました。そして会長に問題を告げることさえせずに去って行ったのです。』¹⁸

父親の役割

親として神への畏れのうちに子どもたちを教え、人生の律法を教えましょう。^{おそ}19

テラー大管長の息子の一人であるモーゼス・W・テラーは、父親の人格について家族の思い出を交えてこう書いています。

「秋になって果物の収穫の時期になると、父がやって来てかごを調べ、そしていちばん大きくて良い実を選んでこう言ったものです。

『この中から什分の一を取り分けなさい。必ず不足なく納めるんだよ』と。

木を植えるとき、父は木の列がまっすぐになるように細心の注意を払い、それぞれの木が地面に対して完全に垂直に立っているようにしました。根の周りに土をかぶせるときには、

1880年当時の大管長会。ジョージ・Q・キャンノン第一副管長、ジョン・テラー大管長、ジョセフ・F・スミス第二副管長。
背景——テラー大管長は持ち前の著述の才能を生かし、回復のメッセージを広めました。

わたしたちは根の繊維を傷めることなく慎重に一本一本植え付けていくように言われました。父はよくこのように言っていました。

『細かい根に気を配りなさい。太い根は自分の力でやっていけるから。』

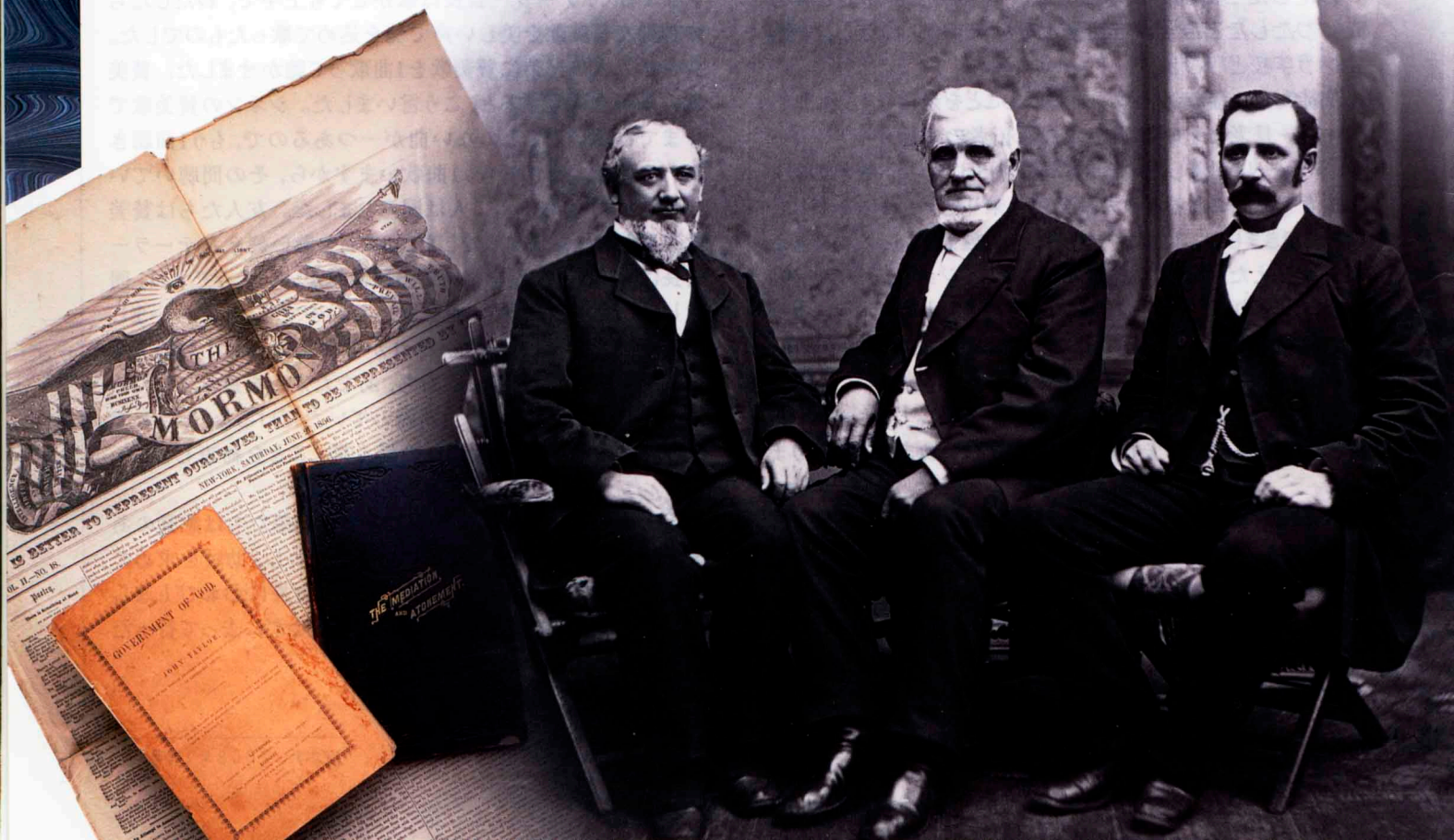
わたしが初めて親もとを離れる際、父はわたしを呼び次のように助言しました。

『正しいことを行いなさい。自分の宗教に従って生活しなさい。そうすれば悪人も善人と同様におまえを敬うだろう。』

父はそれしか言いませんでした。しかしその忠告はわたしの心に強く残り、誘惑に負けそうになったわたしを度々救ってくれました。また別のときに、父はよくこう言いました。

『常に高い水準を保って生きなさい。そうすればほかの人々はおまえが高い水準を持つ人間であると分かるだろう。』

父は子どもたちを家族の影響下で育てたいと強く望んでいましたので、わたしたちのために運動場を作ってくれまし



テラー大管長は1884年、ユタ州
ローガン神殿を奉献しました。

挿入——神殿内部のドアノブには神殿
を建設した開拓者の細やかな心配り
が表れています。



た。父は70歳を超えてからでさえも、
わたしたちと一緒にゲームを楽しん
だものです。……

……父は子どもたちから大変な尊敬を集めていたので、
父を喜ばせることが子どもたちの最大の望みだったと思ひ
ます。』²⁰

預言者、聖見者、啓示者

人々がイスラエルの神の御名により進むとき、地上にお
けるいかなる力も彼らの擁護する真理を覆すことはできな
いのです。²¹

1877年にブリガム・ヤング大管長が亡くなってから、教会
は十二使徒定員会によって導かれてきましたが、ようやく1880
年にジョン・テラーが大管長として支持されました。この
年には高価な真珠が標準聖典となり、27の新しい章が加わ
った教義と聖約の新版が発行されました。

テラー大管長は引き続き持ち前の著述の才能を生かし、
1882年には『仲保と贖罪』(The Mediation and
Atonement)を著しています。このテーマの重要性に言及し
てテラー大管長はこう書いています。「イエス・キリストの
贖罪を通して、大いなる祝福や特権、力、昇栄が人の手の届
く所にあることを自覚したところで、次は、人がそれらのもの
を得るために何が必要かを突き止めることがわたしたちの
義務となります。』²²

1885年、テラー大管長は公の場における最後の説教
をしました。多妻結婚を禁じたエドマンズ法の影響で、テ
ラー大管長は流浪の身を余儀なくされました。そして1887年
7月25日、ユタ州ケイズビルで亡くなりました。

テラー大管長死去の悲報が公表された後、副管長たち
は『デゼレトニュース』(Deseret News)の中でこう述べてい
ます。

「先日お亡くなりになったわたしたちの愛するテラー大管
長ほど真理に対して確固たる信念を持ち、誠実さならびに
物心両面にわたる不屈の勇気を示した人はいません。大管
長は主の業を行うことを決して恐れない方でした。……大管
長は完璧かつ正直に、大胆に、そして会った人や話を聞いた

人すべてから称賛を得られるような
やり方であらゆる問題を処理しまし
た。臆しない勇氣、揺るぎない信念
は、ほかの人々の追随を許さない最
も卓越した特質です。……

テラー大管長はもうこの世には
おられません、その影響力は依然
として残るでしょう。大管長のよう

なすばらしい人は、たとえこの世から次の世に移ったとして
も、その心に脈動する義と真理への愛は不滅なのです。』²³

カーラ・C・エリックソンはユタ州バウンティフル・ミューラーパークステーク、ミュー
ラーパーク第8ワードの会員である。

注

1. B・H・ロバーツ, *The Life of John Taylor* (1963年), 27-28
2. *Life of John Taylor*, 28
3. 『歴代大管長の教え——ジョン・テラー』, 209-211
4. 『歴代大管長の教え』, 215
5. 『歴代大管長の教え』, 213
6. 『歴代大管長の教え』, 77. プラット長老が気持ちの整理をつけ、忠実さを保つ。
7. *Deseret News*, 1882年4月26日付
8. 『歴代大管長の教え』, 221
9. 『歴代大管長の教え』, 74
10. 『歴代大管長の教え』, 74
11. ジョン・テラー, *The Gospel Kingdom*, G・ホーマー・ダラム選 (1943年), 386
12. *Life of John Taylor*, 137-140
13. *Life of John Taylor*, 150
14. 『歴代大管長の教え』, 202
15. *Life of John Taylor*, 199
16. *Gospel Kingdom*, 332-333
17. *Conference Report*, 1906年4月, 7
18. "Songs of the Heart" *Improvement Era*, 1940年9月号, 522
19. 『歴代大管長の教え』, 196
20. "Stories and Counsel of President Taylor" *Young Woman's Journal*, 1905年5月号, 218-219
21. *Gospel Kingdom*, 242
22. 『歴代大管長の教え』, 53
23. *Life of John Taylor*, 410-411, 415-416

まことの宝

ソフィア・コリーナ・リモンディ・デ・アグレダ

19 83年10月のことでした。わたしはアルゼンチンのロサリオで開かれたパーティーに出席していました。驚いたことに、そのパーティーの最中、本を読んでいる一人の若い女性がいることに気づきました。それはどこにもあるような本ではありませんでした。もしかしたら、わたしがずっと探していた本ではないかと感じました。今にもそこから光が輝き出してきて、「ここにいますよ」と呼びかけるような気がしました。

その若い女性とは面識がありませんでしたが、恥ずかしさをこらえて、彼女に近づいて行きました。開かれていた本をのぞいてみましたが、ページのいちばん上の「アルマ」という文字しか読み取れませんでした。心が破裂しそうです。きつとこの本だわ。

「失礼ですが」とわたしは言葉をかけました。「その本を見せていただけますか。」

すると、驚いたことに彼女は矢つぎ早に質問し始めたのです。

「この本かしら？」

「はい、その本です。」

「これがどのような本なのか、御存じなの。」

「いいえ。ですから知りたいのです。」

「どうして？」

「興味があるのです。」

「ええ。でもどうして？」

「どうしてかと言うと、それはわたしにとってとても大切な本なのです。」

「でも、理由を伺いたいわ。」

わたしはいらいらしてきました。「もし、見せてくださらないなら、本の題名だけでも教えてください。」

すると彼女はまた、言いました。「お教えしますが、なぜか聞かせてくださらない？ これがどのような本なのかをなぜ知りたいのかしら？」

どうしても理由を言わなければならないようでした。「わたしはおよそ2年前にこの国にきました。知っている人が一人もいなかったため、ほとんどの時間、聖書を読んで過ごしていました。ほんとうに真剣に読みました。聖書を読めば読むほど、自分の教会が間違っているという確信が強められていったのです。ある日、わたしは断食して、わたしの教会が正しいのか、それともほかの教会を探すべきかを教えてくださいよう主に祈りました。

主は祈りにこたえてくださいました。わたしは一つの夢を見ました。主はその中で、ジョセフという名の預言者を示してくださいました。わたしは、その人が正しい教会と何か関係があることを知りました。その教会の教えは聖書のように大切な書物に基づいていました。ですから、その本を見つければ、イエス・キリストのまことの教会を見つけられるのです。その本について分かっているのは、表紙の印象と『アルマ』という言葉が中に書かれていることだけです。あなたの持っている本がそれだと思うのです。」

するとその若い女性はとても驚いた様子でした。それがモルモン書と呼ばれる本であることを説明すると、わたしの努力してきたことは立派なことですよと言って、ようやくその本を手渡してくれました。わたしは書名に目を向けました。今度は、わ

たしが質問する番でした。

「モルモンの人たちはこの本を持っているのですか？」

「そうですよ。」

「だれが書いたのですか？」

「昔この大陸に住んでいた何人かの預言者です。」

「スミスという名の人が書いたのではないのですか？」

その若い女性は読んでいた
そ本がモルモン書であることを教えてくれました。わたしは書名に目を向けると、今度は質問を始めました。



「いいえ。彼は神の命令によって、金版に刻まれていた文字を翻訳したのです。」

「すると、ほんとうの宝物ですね。」

「そのとおりです。」

わたしはこの上なく幸福な思いに満たされました。そして、モルモン書を読む前から、それが真実の書物であり、末日聖徒イエス・キリスト教会がまことの教会であることを確信しました。

その書物を持っていた若

い女性は宣教師を紹介してくれました。そしてわたしは間もなく、自分のモルモン書を宣教師から頂きました。

モルモン書は、見つけたときから、片時も手放すことができないものになりました。モルモン書を読むと、悲しいときに慰めを受けるのを感じます。

落胆したときに希望を、何もかもがむなしく感じるときに神の愛を感じます。■

ソフィア・コリーナ・リモンディ・デ・アグレダはペルー・モイェンド地方部、モイェンド支部の会員です。



あかし めいの証

イルマ・デ・マケナ

めいのマリエラが母親を亡くしたのはわずか8歳のときでした。その後、わたしの兄弟である、彼女の父親はマリエラと彼女の兄と子どもたちの祖母を連れて、ほかの地域へ引っ越して行きました。

そのころ、わたしはめいの母親の夢を見ました。このため、マリエラに特別な関

心を払わなければならないと感じていました。そうしようと思いましたが、遠くに住んでいるため何もできませんでした。顔を合わせるのは長期休暇のときくらいしかありませんでしたが、そのような機会には必ず、教会のこと、福音の標準、神がその子らを愛しておられることについて話しました。

それから何年かが過ぎ、マリエラは立派な若い女性に成長していきました。その間、わたしは彼女に対して母親のような愛を強く抱くようになっていました。そして、マリエラは大学を卒業し、働き始めました。何度か宣教師たちが訪問しま

次にマリエラが会いに来るとき、わたしは家族の記録を見せて、家族のためにどのような神殿の儀式を行ったかを話しました。



した。わたしはマリエラがバプテスマを受けることを心から願っていました。その後、転勤があって、マリエラはさらに遠くへ引っ越してしまいました。わたしは続けて彼女のために祈っていました。

転勤して間もなく、マリエラが心から愛していた人たちが立て続けに3人亡くなりました。まずマリエラを育ててくれた祖母が亡くなり、それからボーイフレンドが交通事故で亡くなり、その直後に父親が亡くなったのです。マリエラは絶望感にとられて、人生に対する興味をなくしてしまいました。わたしは励ましと慰めの言葉をかけ、このように悲しい経験があってもマリエラなら耐えられると言い続けました。

マリエラの父親が亡くなってから1年後、わたしは神殿の儀式を執行する準備を整えていました。妻と、幼くして亡くなった娘を彼に結び固め、そして夫婦をそれぞれの両親に結び固めました。

次にマリエラが会いに来たとき、わたしは家族の記録を見せて、家族のためにどのような神殿の儀式を行ったかを話しました。そして、彼らには福音と、自分たちの代わりに行われた儀式を受け入れる機会が与えられること、また家族は永遠に一緒にいられることを説明しました。マリエラは心を強く打たれた様子でした。『リアホナ』（スペイン語版）を何冊か借りたいと言って、持って行きました。その後、マリエラは定期的に訪ねて来るようになり、わたしたちは福音について度々話し合うようになりました。

ある日マリエラから連絡があり、宣教師から福音を学んでいたこと、そして福音を受け入れたことを打ち明けてくれました。家族の大切さを教えているこの福音が真実であることを確信したと言っていました。わたしは泣いて喜びました。

わたしは天の御父に感謝しました。天

の御父はこのことをずっと望んでおられたと信じています。それは、幕を隔てて両側にいる家族に福音をもたらすことで

す。■

イルマ・デ・マケナはチリ・キルプエ・マルガ・マルガステーク、キルプエ中央ワードの会員です。

主にゆだねました

グネル・タマズアン

わたしは1996年11月17日に、ロシアのサマラでバプテスマを受けました。バプテスマを受けた直後から、専任宣教師として伝道に出て、人々をイエス・キリストのもとに導きたいという思いを強く抱いていました。わたしは、1年が過ぎるのを待ちわびました。伝道について支部長に話すことができるからです。

その時が来て、必要な面接を受け、宣教師推薦書に記入しました。そのとき一つ問題があることに気づきました。わたしはロシアに来てから2年が過ぎていましたが、国籍はアルメニアでした。アルメニア軍に入隊しなければならぬ国民の義務をまだ果たしていなかったのです。

わたしは断食して、伝道に出る道を開いてくださるよう神に祈り求めました。1998年3月に、わたしは陸軍に徴兵されたため、アルメニアに戻らなければならぬようになりました。神はわたしを愛しておられること、従順であるよう望んでおられることを知っていたので、すべてを神にゆだねることにしました。

アルメニア軍に入隊している間、それまでに交わした聖約に従い、知恵の言葉を守って生活しました。時々、ほかの兵士に証し、祈りながら毎日を過ごしていました。わたしを守ってくださるよう、断食して天の御父に祈りました。そして、できるだけ早く専任宣教師として伝道に出ら

れるようにもお願いしていました。

入隊してから2か月半後にわたしは体調を崩したため、入院するように言われました。医師の診察の結果、驚いたことにわたしは心臓病を患っていました。子どものころから持っていたらしいのです。それが、肺と肝臓と脾臓に影響を及ぼしていました。体全体が膨張して、かなり太ったような感じになりました。

診断の結果、除隊されることになりましたが、深刻な病気であることからわたしは恐怖を感じていました。神の助けにすぎることしか、わたしには何もできませんでした。

入院して1か月後に、アルメニアの教会員であるアララト兄弟が突然、訪ねて来ました。彼は二人の宣教師とともに神権の祝福を授けてくれました。

除隊になったのは3週間後でした。伝道に出られるだけの体力がついてきたのを感じるまでにそれほど時間はかかりませんでした。

次に必要なのは除隊の証明書類でした。断食して祈りました。祈りを終え立ち上がったときには、答えを受けていました。それは主に頼ることでした。

何日かが過ぎていきました。軍隊の書類について尋ねる度に、役所からは「今年中は無理ですよ。とても無理です」と言われるだけでした。しかし、わたしは主を信頼して待ち続けました。ついに、12

月15日に知らせが来ました。「書類ができてから、受け取りに来なさい。」

次の問題はパスポートを手に入れることでした。年末はとて無理でした。6月くらいまで待たなければならないだろうと言われました。また祈りました。再び、忍耐して、主にすがるようにとの靈感を受けました。

こうして、わたしは信頼し、信じ、そして待ちました。しかし、それほど長くはありませんでした。1999年1月5日に、パスポートを受け取り、1月7日にはビザが下りました。これで、伝道に出ることができます。

あと必要なことは、面接を受けて、若干の書類を作成し、健康診断を受けることだけでした。自分では元気だと思っていましたが、心臓病のために伝道に行けなくなることを恐れていました。診察を担当した医師はわたしの病歴を知っていたため、心臓の検査を命じました。結果を見た医師は驚きのあまり思わずこう言いました。「あなたは完全に健康体です。心臓病の兆候はまったく見られません。このような人はいまだかつて見たことはありませんよ。」

わたしはほほえみながら言いました。

「わたしは神を信じています。わたしは神の権能を持つ人たちから祝福を受けて、癒されたのです。」

間もなくわたしは、ロシア・モスクワ南伝道部で働く召しを受けました。わたしは神が生きておられること、いにしへの時代と同じように奇跡を行われることを知っています。また、わたしたちが信仰を行使するならば、神が祝福してくださることを知っています。■

グネル・タマズアンはロシア・モスクワ南地方部タガンスキー支部の会員です。

結 果を見た医師は驚いた様子でこう叫びました。
「あなたは完全に健康体です。このような人はいまだかつて見たことはありませんよ。」



御存じでしたか？



それは1月の出来事 でした

教会歴史の中で1月に起きた重要な出来事を幾つか紹介します。

1827年1月18日
— 預言者ジョセフ・スミスがニューヨーク州でエマ・ヘイルと結婚しました。二人が出会ったのは、ジョセフがペンシルベニア州で働いていたときのことです。当時ジョセフ



はエマの家に下宿していました。

1841年1月19日—イリノイ州ノーブーで、この地に神殿を建てるようにという啓示が聖徒たちに与えられました(教義と聖約124章参照)。

1900年1月21日、28日—55のワードから成り立っていたソルトレークステークが分割され、新たにジョーダNSTEAKとグラナイトステークが組織されました。1847年に開拓者たちがソルトレーク盆地に到着してからステークが分割されたのは、これが初めてです。



指導者へのヒント

ジェームス・E・ファウスト第二副管長は次のように述べています。

「主の務めにおいて人を導く召しを受けた人は、親分風を吹かせるためや、独裁者のように振る舞うために召されたのでもありません。良い羊飼いとるように召されたのです。人を絶えず訓練し、いつか彼らが自分の立場に立てるように、また、自分よりもっと優れた指導者になれるように助けるのが彼らの召しなのです。偉大な指導者とは、自分の指導の下にある人々に期待を寄せ、靈感を与え、その心を燃え立たせる人です。」ファウスト第二副管長はさらに、指導者になるための「普遍の原則」について知るため、教義と聖約第121章41節から43節を参照するように勧めています(「これらの者をわが統治者となさん」『聖徒の道』1981年4月号、65-66参照)。



教師に感謝を込めて

ドイツ、カイザースラウテルンの学校に勤務する教師たちは、生徒たちの注意を授業に引きつけたり、試験の採点をしたり、騒がしい生徒に我慢したりという自分たちの仕事には、ほんとうに価値があるのかと悩むことがあります。ドイツ・カイザースラウテルン軍人ステーク、ランドシュトゥール軍人ワードの青少年たちの願いは、そのような先生たちに、教師という仕事がどんなに価値あるものか思い起こしてもらうことです。そこでこのワードの青少年たちは、先生たちの働きと心遣いに感謝の気持ちを表すために、6年前か

ら「教師に感謝する夕べ」を開いています。今年「若人の強さのために」というテーマを掲げた彼らは、先生から受けた導き、知識、助けに感謝して、楽しい思い出や心に残る言葉を集めた文集を作成しました。また、教会のホールを飾りつけて食事会を開き、先生たちに楽しんでもらうための出し物も披露しました。そしてテーブルごとに「若人の強さのために」というパンフレットを置き、先生たちにプレゼントしました。生徒からの感謝を受けた先生たちは、大喜びです！

上から「扶幼協会組織」ナタリン・バートン画、イリノイ州「神殿の奇蹟」ウェルデン・C・アンダーセン画、「あなたは、人たちが愛する以上に、わたしを愛するか」デビッド・リンゼン画、写真「ドイツ・カイザースラウテルン軍人ステークの歴史」より撮影、写真「イリノイ州ワード」神殿の奇蹟の奇蹟、イリノイ州ワード

『リアホナ』 2003年1月号 の活用法

・ 今月号に採り上げられているテーマ

・ Fは「フレンド」の略

- ・ 愛2
- ・ 証26, 42
- ・ 贖い12
- ・ イエス・キリスト2, 8, 12, F4, F10, F13
- ・ 癒し12, 42
- ・ 教えること12, 48
- ・ 改宗42
- ・ 開拓者34, F7
- ・ 家族歴史42
- ・ 家族関係26, 32
- ・ 家庭の夕べ48
- ・ 家庭訪問25
- ・ 逆境42, F7
- ・ 教会の会員としての務めF4
- ・ 教会歴史34, 47, F7
- ・ 高潔34
- ・ 才能F13
- ・ 再臨25, F10
- ・ 指導性24, 47, 48
- ・ 初等協会F4
- ・ 信仰42, F7
- ・ 神殿と神殿活動42, F6
- ・ 新約聖書8, F4, F10, F13
- ・ 真理34
- ・ 聖餐F2, F16
- ・ 聖約F2, F16
- ・ 聖霊12
- ・ 備え25, F10
- ・ 堪え忍ぶことF7
- ・ 伝道活動32, 34, 42
- ・ パプテスマF16
- ・ 奉仕2, 24, 32, F2
- ・ ホームティーチング7
- ・ モルモン書42
- ・ 友情2
- ・ 預言者34

レッスンのためのアイデア

■ 「主の道」2ページ——トーマス・S・モンソン副官長が隣人を愛するという概念を説明するために用いた物語を一つ紹介してください。それから、あなたにとって良いサマリア人だった人について話してください。生徒または家族に、愛や奉仕を必要としている隣人を思い浮かべてもらいます。

■ 「教え、宣べ伝え、癒す」12ページ——ジェフリー・R・ホランド長老は福音を教える教師たちに、自分が「教えている生徒は神の生徒〔である〕」ということ、そして主が御自分の生徒たちを癒すために、喜んで教師に御霊を注いでくださることを思い出させています。クラスの生徒または家族に、主が自分の教師でいらしたら、どんなふうに耳を傾けるか聞いてください。もしそのように耳を傾けるなら、聖霊を通して主から教えていただけることを思い出すように言ってください。御霊に耳を傾けることと、御父の御心に従うことの間にはどんな関係があるのでしょうか。

■ 「全力を尽くして」F7ページ——ベンジャミン・プラットがその友人に教えた詩のメッセージ——人生で唯一試されていることはわたしたちが全力を尽くすかどうかであるというメッセージ——について話し合ってください。生徒または家族に、全力を尽くすとはどういうことか聞いてください。

「数人の病人に手を置かれる救い主」 ジェームズ・J・ティソット画

配送センターからのお知らせ

会員が家庭や教会で福音を教えるのに役立つ『福音視聴覚資料セット』(34730 300)を御存じですか。この『視聴覚資料セット』の絵にはそれぞれ、その絵が示す聖句、教義、歴史に関する説明が載っています。このセットの絵や説明文は、家庭の夕べや日曜学校で教えるとき、初等協会で話すとき、セミナーのディボーションなどです。在庫や価格についてのお問い合わせは管理本部 配送センター (TEL03-5668-3391; FAX03-5668-3392)までご連絡ください。



「神殿でのキリスト奉献」 ジェームズ・J・ティソット画

〔シメオンは^{みたま}御霊に感じて宮にはいった。すると律法に定めてあることを行うため、両親もその子イエスを連れてはいつてきたので、シメオンは幼な子を腕に抱き、神をほめたたえて言った、「主よ、今こそ、……この僕を安らかに去らせてくださいます、わたしの目が今あなたの救を見たのですから。」〕（ルカ2：27-30）



「イエスはガリラヤの全地を巡り歩いて、諸会堂で教え、
御国の福音を^の宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを
お^のいやしになった。」(マタイ4:23, 強調付加)
ジェフリー・R・ホランド「教え、宣べ伝え、癒す」p.12参照

専任宣教師

2002年11月(274期生)8人・海外3人 ●上から氏名、任地(伝道地)、出身ユニット



いけはな な
池端奈々
福岡伝道部
旭川ステーキ
篠路ワード



かしま あや
嘉志摩綾
福岡伝道部
三重地方部
四日市支部



さかもとまなみ
坂本真奈美
福岡伝道部
大阪ステーキ
阿倍野ワード



さとう たけし
佐藤剛
仙台伝道部
大阪ステーキ
堺ワード



つだまことし
津田真敏
東京南伝道部
大阪ステーキ
河内長野ワード



なかのかなこ
中野加奈子
名古屋伝道部
福岡ステーキ
福岡ワード



ほんだみつお
本田充郎
東京北伝道部
名古屋ステーキ
岐阜第一ワード



わかばやし しんぶ
若林忍
福岡伝道部
金沢ステーキ
福井ワード



おかむらまさみ
岡村昌美
ソルトレーク・
テンブルスクエア伝道部
札幌西ステーキ
琴似ワード



すぎもと
杉本あゆみ
ユタ州プロボ伝道部
大阪ステーキ
堺ワード



さとうけんいちろう
衛藤祐一郎
ニューヨーク州
ニューヨーク北伝道部
東京東ステーキ
千葉ワード

役員の変動

2002年11月13日から2002年12月16日までに管理本部会員統計記録課に通知のあった役員の変動(敬称略)

- 日本松山地方部
地方部長:重松 征史
第一副部长:刈谷 真爾
- 日本仙台伝道部
第一副部长:神尾 茂
第二副部长:土門 一元
- 日本広島伝道部
第二副部长:青葉 太一
- 日本郡山地方部
地方部長:新田 守弘
第一副部长:栗城 健至
第二副部长:四戸 勝雄
- 札幌ステーキ江別ワード
監督:濁沼 潤
- 新潟地方部新潟支部
支部長:田中 聡

お詫びと訂正

- 2002年10月『リアホナ』ローカル・ニュース14ページ、「日本奉献から101年目、最初の宣教師ゆかりの地に横浜ステーキ山手ワードを奉献」の記事の中で、「バックー長老は……佐藤龍猪兄弟にバプテスマを施している。」とありましたが「佐藤千代姉妹(佐藤龍猪兄弟の奥様)に」の誤りでした。謹んでお詫びし、訂正いたします。



ブックセンターだより

●『神の小羊』ビデオ

(日本語吹替版)カタログ番号53436 300

VHS 26分44秒 400円

救い主の最後の一週間を映像化している。神の子が世の罪のために贖罪を行われた当時の思いと、現実と、驚きとを体験していただくためのもの。パスアロングカード用ビデオと同じ内容。

●若い女性テーマポスター(改訂版)

カタログ番号33307 300 150円

若い女性のテーマが書かれたポスター。高級紙に美しい色彩で印刷されている。



皆さんの情報をご提供ください

『リアホナ』では、皆様からの情報をもとに編集企画を立てています。誌面に対するご意見、ご要望、また全国の教会員に紹介したい特別な経験、証、業績などをお持ちの方があなたの身近におられましたら、お気軽にご一報ください。

◎あて先: 〒106-0047 東京都港区南麻布5-10-30 末日聖徒イエス・キリスト教会『リアホナ』編集室

TEL.03(3440)2666 FAX.03(3440)3275

電子メール Liahona-jp@ldschurch.org

◎国際機関誌『リアホナ』のお届け、

その他商品に関するお問い合わせは—
教会配送センター

TEL.03(5668)3391 FAX.03(5668)3392

ヒンクレー大管長、ヨーロッパへの歴史的な訪問を行う



ドイツ・フライベルク神殿の再奉献を終えた後、人々にほほえみかけるゴードン・B・ヒンクレー大管長。
預言者は近ごろ、5か国の会員たちを訪れるヨーロッパの歴史的な旅から帰国した。

写真/シャーン・D・スタール、Church Newsの厚意により掲載

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は9月にヨーロッパへの歴史的な訪問を実施して、ヨーロッパ全域の聖徒たちに大きな感動を与えた。大管長は滞在中、新しく完成した神殿の奉獻と改修された神殿の再奉獻を行い、さらにウクライナ、ロシア、アイスランドの会員たちと集会を開き、各国政府高官と会見を行った。末日の預言者がこれらの国を訪れるのは初めてのことである。

ドイツ・フライベルク神殿

最終的に東ヨーロッパの扉を教会に開け放つきっかけとなった事柄について地元の聖徒に尋ねるならば、聖徒たちは迷わず1985年の小さくて上品な神殿の奉獻について答えるであろう。それは1960年代に始まった一連の出来事の最終段階であった。現在、大管長会の一員であるトーマス・S・モンソン副管長は、当時のドイツ民主共和国の会員たちに対して、ほかの国々の会員たちと同様の祝福にあずかるだろうと約束した。

わずか12年前までは教会指導者との接触を制限されていた会員たちが目に涙を浮かべて見守る中、ゴードン・B・ヒンクレー大管長は2002年9月7日、全面的に改修されたドイツ・フライベルク神殿を再奉獻するセッションに臨んだ。

「この神殿が最初に建てられたときに、御力を現してくださったことを感謝いたします。現在に至るまでこの神殿に参入して

きた多くの聖徒たちの祝福のために、奇跡的な方法で人々の心を動かし、神殿の建設と奉獻を可能にしてくださったことを感謝いたします。」神殿の再奉獻の祈りの中でヒンクレー大管長はこのように述べた。

「この地とここに住む人々を祝福してください。国が平和を維持し、国民が繁栄しますように。……[そして]御父のおどろ園のこの恵まれた地において、御業が善の偉大な力となりますように。」

フライベルク神殿の改装には1年以上を要した。構造上の改善に加えて、新しいバプテスマ室と事務室、さらに天使モロナイ像が設置された。

「とても同じ神殿には見えません」とフライベルク神殿のロバート・T・デューリー第一副神殿長は語る。「かつての神殿は当時ではすばらしいものでした。しかし新しい神殿は非常に立派です。」

奉獻式には、神殿地区に住む6,000人以上の会員が参加した。会員たちは、チェコ共和国、ハンガリー、ポーランド、ウクライナからバスを連ねて訪問した。近くのフライベルクワードの集会所では特別な通訳設備が用意され、聖徒たちは自国語で奉獻式の模様を聞くことができた。また、ドイツのドレスデン、ベルリンおよびライプチヒのステーキ集会所にも放送が中継された。



再奉献を終えたドイツ・フライベルク神殿の周囲で
ヒンクレー大管長夫妻を一目見ようと集まっている人々。
写真／ヨーロッパ中央地域広報部の厚意により掲載

ドイツ・ノイブランデンブルク地方部のプレントラウ支部に所属するエディス・クラウゼ姉妹は、再奉献に出席した一人だった。クラウゼ姉妹が教会に入ったのは第二次世界大戦の前のことである。教会指導者との接触を厳しく制限されていた長い期間、クラウゼ姉妹は夫のウォルターとともに教会を守り抜いてきた。

「はるばる遠い所からこの奉献式にやって来たのは、教会がわたしたちの喜びだからです」と彼女は言った。「主が何かを望まれるとき、どのような力をもってしてもそれを止めることはできません。わたしたちはそれを目の当たりにしてきました。」

8月に行われたオープンハウスはもう一つの例である。激しい雨と強風がヨーロッパ中部を襲い、一帯が大洪水に見舞われたとき、神殿の一般公開は中止の危機に瀕していた。近くのドレスデンは洪水によって最も大きな被害を受けた都市の一つだった。

「日がさせば、人々はやって来ます。」フライベルク神殿のゲルハルド・グリューネワルト神殿長はこう語った。神殿長は正しかった。嵐は去り、再奉献までに約3万人の人々が神殿を訪れたのである。

オランダ・ハーグ神殿

9月8日の早朝、忠実な聖徒たちはオランダ・ハーグ神殿入り口前の道に列を成した。ゴードン・B・ヒンクレー大管長を乗せた車が到着して、大管長が降

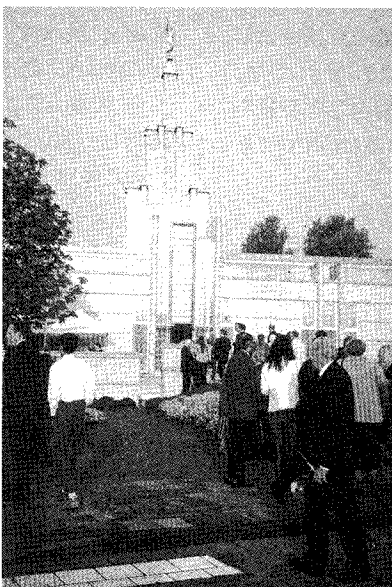
り立つと、聖徒たちは「感謝を神に捧げん」を歌った。愛する指導者を迎えるこの歌は、朝の空気に響き渡った。大管長はこの日、教会の114番目の神殿となるオランダ・ハーグ神殿を奉献したのである。

「この地に住む忠実な人々は、御父の聖なる御業に対する証のゆえに多くのものをささげてきました。」大管長は奉献の祈りの中でこう述べた。「わたしたちが先人たちの働きを忘れないように祝福してください。また現在、御前に信仰をもって歩んでいる人々を豊かに祝福してください。」

愛するお父様、わたしたちはこの大いなる国において、この奉献式から新しい時代が始まることを願っています」と大管長は続けた。「この地の人々の心と思いが御父に触れますように。この世の物を追求する手を休めて、御父の知識と神聖で永続するものを追い求めるよう人々を導いてください。……」

人々の間に平和が満ちるよう願っています。この地にいつまでも自由があり、国民が自分たちの祖国に対して常に感謝の念を抱けるようにお祈りいたします。」

4回にわたって行われた奉献のセッション



写真／O・ジェイ・コール

オランダ・ハーグ神殿の奉献式に
出席するため列を作って待つ
ベルギー、フランス、オランダの会員たち。

ンにはヨーロッパ中央地域会長会会長で七十人のD・リー・トブラー長老、ヨーロッパ西地域会長会会長で七十人のハロルド・G・ヒラム長老が出席した。この神殿地区にはオランダ、ベルギー、そしてフランスの一部が含まれる。聖徒たちは神殿のほか、ロッテルダムとハーグの集会所に詰めかけて、奉献式に参加した。

「1999年に、教会がこの地に神殿を建設すると聞いたとき、わたしたちはとても興奮しました。」オランダ・ハーグステークのハールレムワードに所属し、長年の教会員であるロバート・キルシバウム兄弟はこう語る。「建設の発表と同時に様々な問題が起きました。しかしすべて克服してきました。こうしてオランダに神殿を与えられ、わたしたちがこれほど幸せかとても想像ができないことでしょう。」

8月17日から31日まで開かれたオープンハウスには地元政府ならびに市の指導者を含む3万2,000人以上の人々が訪れた。神殿建設に携わった人々とその家族のためにも特別なツアーが計画され、完成した建物の中を回った。

「建築現場には神を汚す言葉やたばこ、アルコールのたぐいが一切ありませんでした。建設に携わった者たちは皆、このことを尊重し、理解していました。」神殿を建設した会社のプロジェクトマネージャーであるアド・バッケンズは語った。「建設に携われれば携わるほど、この建物が特別なものであり、あなたがたの教会の会員が心の平安を見いだす場所となる神殿を建てているということが分かってきました。これはわたしがこれまでに建ててきた中で最も偉大な建造物です。」

ウクライナ、キエフ

9月9日、ヒンクレー大管長の話聞くためにウクライナ、キエフの公会堂に集まった聖徒たちの数は記録的な数字に達した。東ヨーロッパのこの国に教会の大管長が訪問するのは初めてのことであり、3,200人を超える聖徒、政府関係者、一般市民が集まった。

ヒンクレー大管長は集まった人々に



9月にヒンクレー大管長を迎えて開かれた集会で歌を披露するウクライナの合唱団。預言者の声を聞くために3,200人を超える聖徒たちが集まった。



写真/シャーン・ロ・スタイル、Church Newsの権威により掲載

2,000人以上の人々が集まったモスクワの集会を終えて、会衆に手を振るヒンクレー大管長。教会の大管長がロシアを訪問するのは今回が初めてのことであった。

次のように語った。『あなたがたは、選ばれた……国民です。』(1ペテロ2:9) 皆さんもわたしも世界の歴史上最も大いなる時期に地上へ来ています。わたしたちのために用意されたあらゆる祝福を手にすることができ、特別な方法でイエス・キリストの福音の祝福にあずかることのできる時代です。』

大管長は聴衆に対して、知恵の言葉に従い、神権の祝福にしっかりとつかまり、^{じょうふん} 什分の一の律法を守るよう勧告した。「兄弟姉妹、什分の一を納めるために、豊かになるまで待つことはできません。皆さんは主と聖約を交わしています。そして主は御自分の約束を果たすことがおできになります。」

最後に、大管長は愛を込めてこのように語った。「できれば皆さんのところへ降りて行って、一人一人を抱き締めて『ありがとう』と申し上げたい気持ちです。」

集会に先立って開かれたレセプションでヒンクレー大管長は、国家宗教実務委員会のビクトル・ボンダレンコ委員長をはじめとするウクライナ政府の要人と会談した。ヒンクレー大管長はウクライナにおいて教会を好意的に支援してくれるボンダレンコ氏に感謝を表した。特に、集会の会場となったウクライナ・パレス・コンサートホールを使用するに当たってボンダレンコ氏の力添えがあったことに感謝した。国立の施設を宗

教行事のために使用したことは、過去にほとんど例がないことであった。

ロシア、モスクワ

9月10日、ヒンクレー大管長を迎える集会の会場となったコスモスホテルを探索するのに、道に迷う人はいなかったことだろう。ワイシャツ姿の男性、スカート姿の女性がわきに聖典を抱えて、モスクワ中の地下鉄の駅に群がっていたからである。預言者の教えを待つ2,000人以上の人々が3つのホールに詰めかけた。

「わたしはロシアのモスクワに来て、これほど大勢の人々にお話できるとは夢にも思っていませんでした」とヒンクレー大管長は語った。「この会場においてくださったことを感謝しています。今日は特別な意味を持つ日です。」

大管長は会員たちに「信じない者にならないで、信じる者になりなさい」と勧告した(ヨハネ20:27)。「神を信じて、神の息子、娘として祈りをもって神と接してください。皆さんは神のようになることができます。神を信じてください。霊とまことをもって神を礼拝してください。」そして青少年に対しては、福音にしっかりとつかまり、伝道の備えをするよう励ました。また大管長は、善良な市民として生活し、堅固な祖国を築くよう会員を励ました。

「集会が終わってから、ホテルの入り

口近くの通りで会員たちと話をしていました。すぐに立ち去る気持ちになれず、自分の気持ちをほかの教会員と分かち合いたかったのです。」ロシア・モスクワ北地方部セベロ-ザモスクボレツキー支部のマリヤナ・ドンブロスカヤはこう語った。「通りには大勢の人がいました。……わたしたちは単なる群衆ではなく、一つの社会を形成していました。」

ヒンクレー大管長は会員たちとの集会に出席する前に、地元の政府と宗教関係の当局者から温かい歓迎を受けた。このレセプションにはロシア議会の人民組織および宗教組織実務委員会のビクトル・ゾルカルトセフ委員長が出席した。ヒンクレー大管長はロシアにおける教会の設立に関して政府の支援が寄せられたことに感謝の意を表明した。大管長はまた、ロシアで伝道している宣教師が故国に帰還すると、最も優れた大使となることを強調した。

アイスランド、レイキャビーク

連日、冷たい風が吹き、雨模様の天候が続いていたが、ヒンクレー大管長がアイスランドのレイキャビークに到着したとき、雨雲は去って、穏やかな秋の一日となっていた。9月11日、200人を超える熱心な聖徒たちが大管長を迎えた。数こそ少ないが、世界の片隅に王国を築いている彼らの信仰は堅固である。

アイスランドで唯一となる教会の集会所に集まった人々を前にして、ヒンクレー大管長は夫婦のきずなを強め、知恵の言葉を守り、^{じゆうぶん} 自分の一を納め、福音を分かち合うように勧告した。大管長は教会が^{ようらん} 揺籃期にあった19世紀にユタへ移民したアイスランドの初期の教会員をたたえた。またアイスランドの教会に発展をもたらしている現代の開拓者の信仰と努力に賛辞を贈った。

レイキャビーク滞在中、ヒンクレー大管長はアイスランド国家の元首であるオラフル・ラグナル・グリムソン大統領に対して表敬訪問を行った。会談は、青々とした芝生に囲まれた敷地に、白い外壁と赤い屋根を持つグリムソン大統領官邸で行われた。

会談ではアイスランドからユタに移住した初期の教会員が話題に上った。「彼らのユタへの旅には並々ならぬ勇気と体力が要求されたことでしょ」とグリムソン大統領は語った。大統領はまた、1997年にユタを訪れたときの楽しい思い出に触れ、アイスランドからの初期の開拓者の子孫が先祖の地とのつながりを大切にしていることに感銘を受けたと語った。

す」と大管長は語った。□

Church News, 『リアホナ』local editors, および大管長会事務局の協力により掲載。

新しい神殿の建設が発表される

大管長会はブラジルのクリティーバとパナマのパナマシティーに新しい神殿を建設する計画を発表した。

ブラジル・クリティーバ神殿は、ブラジルのパラナ州とサンタカタリーナ州にあるステーキに住む4万2,000人を超える末日聖徒のために儀式を行う。同神殿はブラジルで5番目の神殿となる。ほかの神殿は、サンパウロ、カンピーナス、ポルトアレグレ、レシフェにある。

パナマの教会員は、この国に初めて神殿が建つというニュースを聞いて感激している。パナマ・パナマシティー神殿は、パナマに住む約2万2,200人の末日聖徒のために儀式を行う。

二つの神殿の具体的な場所と^{くわい} 鉄入れ式の日取りはまだ発表されていない。大管長はまた、テキサス州サンアントニオ神殿の建設地を発表した。サンアントニオ市内を通るハーディオーク通りとストーンオーク通りに面して建てられる。神殿建設は今年初めに開始する予定。同神殿はテキサス州で4番目の神殿となる。□

教会員、9月11日の犠牲者を追悼する

リサ・アン・ジャクソン

— ユーヨーク市の空は曇り、冷たい風が吹きすさんでいた。9月11日のテロ攻撃から1年を迎えた追悼の日、数千人が「グラウンドゼロ（訳注—ここでは9月11日のテロの現場を指す）」に集まった。ワシントンD.C.の国防総省や、ペンシルベニア州の郊外、そして世界中の式典会場にも、同様にテロ犠牲者を追悼する人々が集まった。教

会指導者と会員は、ジェームズ・E・ファウスト副管長の言葉によると『わたしたちの生き方を永遠に変えた』日の犠牲者と生存者に敬意を表する式典に参列した。

ソルトレーク・シティーのテンプルスクウェアには、9月11日の出来事を覚思い起こすために正午から行われた追悼式に多くの人々が集まった。トーマス・S・モンソン第一副管長が集会を司会し、十二使徒定員会、七十人定員会、中央補助組織会長会会員が出席した。アイスランドの聖徒たちを訪問中のゴードン・B・ヒンクレー大管長は国内にいなかった。

追悼式で演説したジェームズ・E・ファウスト第二副管長は、テロ攻撃を「邪悪な暴挙」また「悪の陰謀」と述べた。「何と言ってもこの事件の最大の悲劇は、人々の命が失われたことです。皆、罪のない人ばかりです。2,800人以上の人々が計画的な犯罪によって殺されました。一般市民のたった一人でさえ、その死の重さは計り知れません。」

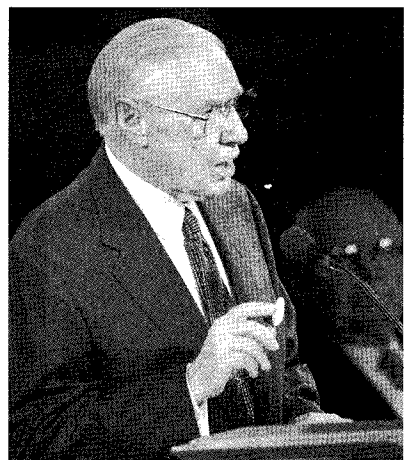
ファウスト副管長は聴衆に、合衆国は祝福された国であり、その祝福には責任が伴うという原則を思い出させた。副管長は次のように話した。「全能の神がこの国を設立されました。神はアメリカの建国の父として、人類の中から偉大な人々を立てられたのです。建国の父たちは、当時もそして現在も主権を



写真／大管長会事務局の厚意により掲載

アイスランドのレイキャビークで、説教を終えた後に会員たちと歓談するヒンクレー大管長。この北欧の国には二つの支部に約300人の会員が在籍している。

ヒンクレー大管長は教会が家族を強調していること、また全世界における教会の発展や地元の指導者を強化することの大切さについて述べた。「わたしたちはキリスト教徒です。したがって、キリストのように振舞う努力をしています



写真／クレーク・タイムズ

9月11日の犠牲者を追悼して、慰めと敬意の言葉を述べるジェームズ・E・ファウスト副管長。

持つ『民』のために働きました。アメリカの硬貨には『我らは神を信じる』というモットーが刻まれています。そのモットーはわたしたちの心と思いにも刻み込まなければなりません。」

タバナクル合唱団は、「神よ、汝れに近寄らん」「主はわが飼い手」「主の祈り」(The Lord's Prayer)の編曲など、幾つかの音楽を選んで演奏した。合唱団が最後に「美しきアメリカ」(America the Beautiful)を歌うと、多くの人が涙を流した。

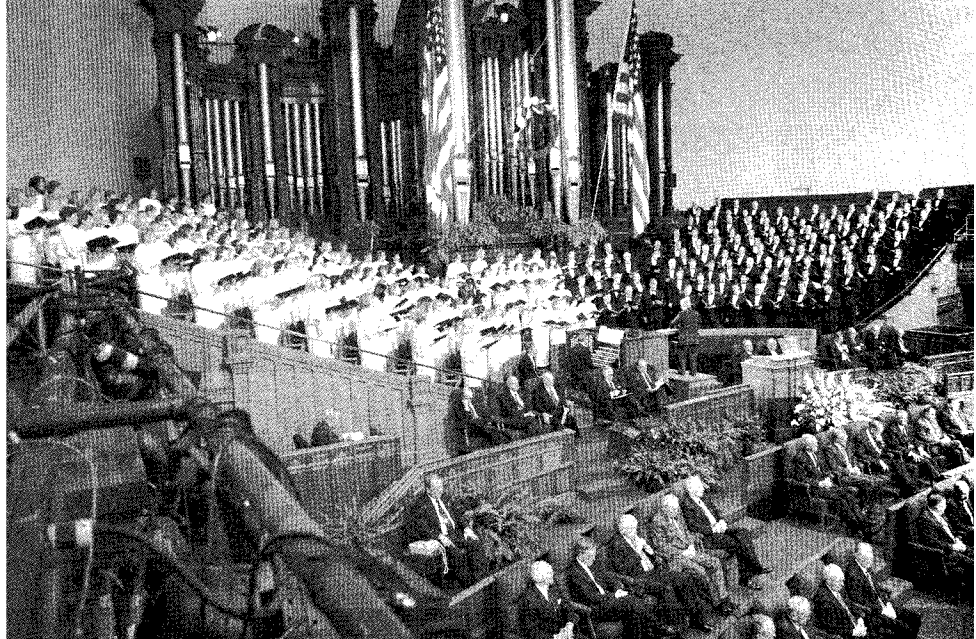
その日、テンブルスクウェアでの式が始まる前に、モンソン副管長はキリスト教やイスラム教、ユダヤ教など他宗教の地元指導者たちとともに、ソルトレーク・シティーで開かれた超宗派集会で話した。モンソン副管長は聴衆に、亡くなった人、生き残った人、テロの後休む間もなく作業した人々のことを忘れないようにと語った。モンソン副管長はさらに、テロの後で信仰が果たした役割について強調し、次のように述べた。

「恐れ、悲しみ、痛み、苦しみのさなかにすばらしい奇跡が起きました。信仰の一致や祈りたいという望みが生まれました。アメリカ人は911に電話するのではなく、ひざまずいて神に助けを求めるために天を向いたのです(訳注——911番は、アメリカで緊急通報を受け付ける電話番号である)。」

ワシントンD.C.では、ワシントンD.C.モルモン聖歌隊が、9月10日にアーリントン国立墓地において、9月14日にはワシントンD.C.神殿訪問者センターにおいて、追悼コンサートを行った。聖歌隊は南バージニア大学オーケストラの演奏に合わせて歌い、デビット・グレン・ハッチ、エリカ・ハッチ、リズ・スミスらのソリストも参加した。

ワシントンD.C.への攻撃は、二人の教会員の命を奪った。ブレイディー・ハウエルとロンダ・ラスマセンは航空機が国防総省の建物に衝突したとき、そこに勤務中だった。国防総省の犠牲者の中には遺体の確認できない人が4人いたが、ラスマセン姉妹もその中の一人だった。ラスマセン姉妹は、9月12日アーリントン国立墓地で米軍が開いた特別

写真/クレーク・タイムズ



教会の指導者たちは、ソルトレーク・シティーで9月11日の事件の追悼式を主催した。タバナクル合唱団の演奏が式の大部分を占めた。

式典で、犠牲者の一人として悼まれた。身元を確認できなかった遺体はすべて、軍によって同墓地に埋葬された。

ハウエル兄弟の妻、両親、兄弟は、9月11日に国防総省で国によって営まれた追悼式典に出席した。ハウエル兄弟の母校、シラキュース大学では、ハウエル兄弟に敬意を表すために、また「ブレイディー・ハウエルという傑出したアメリカ人を忘れないために、そして、国家や地域に対する(ハウエル兄弟の)献身的な奉仕を引き継ぐために」、ブレイディー・ハウエル地域奉仕活動推進委員会を創設した、と同大学のウェブサイトは伝えている。

ニューヨーク州ニューヨークステークは、9月8日に追悼ファイヤサイドを主催した。ブレント・J・ベルナップステーク会長が追悼の言葉を述べ、救い主の贖罪と贖いの力に関する音楽が幾つか演奏された。同ステークは9月11日、ニューヨーク市のマイケル・ブルームバーグ市長の要請に従い、3つの建物をすべて一般に解放した。同市長はその日、すべての宗教団体に対し建物を一般に解放するよう要請した。ステークセンターでは、ソルトレーク・シティーで行われた教会の追悼式の模様が放送され、昨年の追悼式の模様も再放送された。

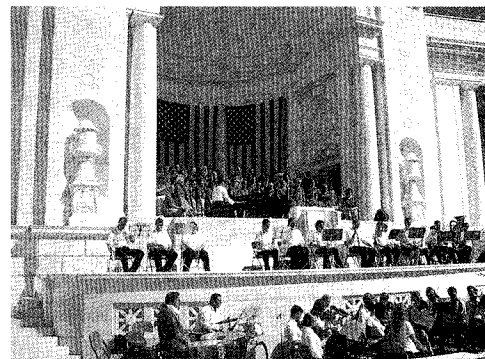
ニューヨーク州ニューヨークステーク

はまた、過去1年間に教会員から提供された支援に感謝して、次のような声明を発表した。

「2001年9月11日の悲劇の後、惜しみなく援助の手を差し伸べてくれた世界中の文字どおり無数の教会員に心から感謝します。……

皆さんのキリストのような愛と奉仕の模範は、多くの人の生活を祝福しました。わたしたちは皆さんと一緒に、愛にあふれた天の御父とその御子イエス・キリストに対する信仰と希望を表したいと思います。」

世界貿易センターへのテロ攻撃で3人の教会員が死亡した。アイバン・ルイ・カピオはテロ当日、世界貿易センタービ



9月11日の事件の犠牲者と生存者のために追悼コンサートを行うワシントンD.C.モルモン聖歌隊。

写真/インターナショナル・アンド・ガバメンタル・アフェアーズの厚意により掲載



9月11日にソルトレーク・シティで行われた宗派を超えた追悼式で、トーマス・S・モンソン第一副管長にあいさつする地元自治体の指導者たち。モンソン副管長は基調演説を行った。
写真/ニューヨーク州ニューヨークステーキ広報委員会の厚意により掲載



9月11日を追悼してニューヨーク市の教会で訪問者にあいさつする宣教師。
写真/ラベル・コール、『デゼルトニュース』紙
(Deseret News)の厚意により掲載

ルの107階で働いていた。メアリー・アリス・ワルストロムと娘のキャロリン・マイアーバーグは、世界貿易センタービルへ突入した1機目の飛行機に乗っていた。

ユタ州ケイズビル東ステーキのケイズビル第17ワードに所属する、ワルストロム姉妹の息子ノーマンと孫のネートは、グラウンドゼロで行われた追悼式に出席した。ネート・ワルストロムは『デゼルトニュース』紙(Deseret News)の記者にこう述べた。「来てよかったです。祖母とおばの人生に思いをはせることができました。ここで見たことを家へ帰って家族に知らせたいと思います。ここはまるで、お墓のような神聖な場所という気がします。」

9月11日、ユタ州ケイズビルの墓地では、ケイズビルに縁のあったワルストロム姉妹、マイアーバーグ姉妹、ハウエル兄弟を追悼する記念公園を作るため、地元住民が鍬入れを行った。□

ヒンクレー大管長、 慰めの言葉を語る

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、昨年9月11日のテロ攻撃から1周年を迎えるに当たり、以下の哀悼と慰めの声明を出した。

「今日、世界は2001年9月11日の悲劇を思い起こしています。あの卑劣な襲撃という忌まわしい行為に、わたしたちは依然として衝撃と動揺を覚えています。」

この1年間、あの恐ろしい日に勇氣と無私の心を示した男女の英雄的な行為が伝えられてきました。実に多くの人々が命を失いました。非常に多くの友人や家族が、大切な人を奪われました。今日、わたしたちはしばし立ち止まって、命を奪われた人々、また愛する人を失いながらも勇氣をもって生活を続けてきた人々のことを思い起こし、ともに彼らに敬意を表したいと思います。

わたしたちは、これらの恐ろしい状況から多くの善なるものが生まれてきたことを知っています。ニューヨーク、ワシントンD.C.、ペンシルベニア、および世界のそのほかの地域を覆った噴煙と灰の中から、より大きな一致と共通の目的意識が生まれました。それは、悪を地上から一掃し、あらゆる人に自由と安全をもたらそうとするものです。この大切な目的のために、神を畏れる人々が至る所で行っている、義にかなった働きにわたしたちは賛同します。

天の御父がわたしたち皆にほほえみを投げかけ、今もお悲嘆に暮れている人々に慰めを与え、正義と自由の探究において国々の指導者を導いてくださるよう、心からお祈りいたします。」□

記事の募集

会員の中には、福音の原則に反した生活を送る親を持つ人がいます。彼らがそのような状況にうまく対処できるよう、あなたの意見を紹介してください。

皆様のご意見を、2003年3月1日までにお送りください。あて先は次のとおりです。

Parents, Liahona, Floor 24, 50 East North Temple Street, Salt Lake City, UT 84150-3223, U.S.A.

最初に、あなたの名前、住所、電話番号、所属ステーキ/地方部、ワード/支部名を明記のうえ、「Parents」という見出しで書き始めてください。またEメールで送る場合は、件名に「Parents」と明記し、cur-liahona-imag@ldschurch.orgまでお送りください。ご意見を頂いたすべての方に受領通知をお出しすることはできませんが、記事に採用された方にはご連絡を差し上げます。□

「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分 2003年1月



以下は、初等協会の指導者が『リアホナ』2003年1月号に掲載の「分かち合いの時間」とともに使用できる「分かち合いの時間のためのアイデア」追加分である。これらのアイデアに対応するレッスン、指示、活動は本号「フレンド」4、5ページ「わたしはイエス・キリスト教会のかいいんです」を参照する。

1. 年少の子ども向け活動——『福音の視覚資料セット』から以下の絵を部屋中に、順不同に飾る。「イエスにバプテスマを施すバプテスマのヨハネ」(208)；「バプテスマ」(601)；「盲人^{いんや}を癒^いされるイエス」(213)；「病人^{びいん}の癒^いし」(613)；「最後の晩餐^{ばんさん}」(225)；「聖餐^{せいさん}のパス」(604)；「神殿での少年イエス」(205)；「神殿に向かう若い男女」(609)；「それゆえに、あなたがたは行って」(235)；「イエス・キリストの福音を教える宣教師」(612)。バプテスマに関する歌か賛美歌を歌い、バプテスマに関係のある絵を2枚探すように子どもたちに言う(208, 601)。二人の子どもにその絵を取って来て、黒板に並べて貼るように言う。イエスが地上におられた時代の教会について、新約聖書を読むと学ぶことができることを説明する。イエスにバプテスマを施したバプテスマのヨハネの話をし、マタイ3:17を声に出して読む。末日聖徒イエス・キリスト教会には^{こんにち}今日、同じ儀式があることが分かる。同様のことをほかの歌、絵、聖文からの話についても繰り返す。聖文の話の例——マルコ3:14-15(神権に関する歌か賛美歌を歌う。)；ルカ22:19(聖餐に関する歌か賛美歌を歌う。)；ルカ2:46(神殿に関する歌か賛美歌を歌う。)；マタイ28:19-20(伝道に関する歌か賛美歌を歌う。)

2. 背教がどのように教会を変えてしまったかを子どもたちが理解できるように助ける。小さな箱、カップ、またはブロックを使って建物を作る。子どもが一

人一人ブロックを積み上げるごとに、新約聖書時代の救い主の教会に存在したものを一つ挙げさせる。それからふさわしい歌か賛美歌を歌う。答えの例——バプテスマ、聖餐^{せいさん}、什分^{じゅうぶん}の一、神殿、神権、使徒、預言者。子どもたちにエペソ2:20を声に出して読ませる。背教によって教会が分裂したことを説明しながら、建物を解体する。クラスごとにブロックを数個ずつ分け、そのブロックで小さな建物を作らせる。どの教会にも、救い主の教会と同じ部分があるわけではないことを説明する。信仰箇条第6条を子どもたちが暗唱するのを助ける。

3. 使徒の特別な召しを子どもたちが理解できるようにする。子どもたちにマタイ4:18-22を読ませる。これらの人たちは何をしよう求められたか話し合う。(イエスに従い、「人間をとる漁師」になる。)これらの人たちがどのようにイエスに従ったか、「すぐに網を捨てて、イエスに従った。’)そして「わたしについてきなさい」と「人間をとる漁師」という言葉がわたしたちにとってどのような意味を持つか話し合う。イエスが使徒としてお召しになった人々について、さらに子どもたちが学べるよう、以下の活動をする。12枚のカードを用意し、各カードに十二使徒の名前を一つずつ書く。カードを容器に入れる。各クラスから一人ずつ、カードを1枚容器から引かせる。マタイ10:1-4を読み、使徒の名前が読まれる度に、その名前を持っている子どもを立たせる。それからマタイ10:5-14を読み、使徒が行うように言われたことについて話す。子どもたちにその責任

をいくつか演じさせる。最後に次の事柄について証する。現在の使徒^{あかし}とその神聖な召しについて。子どもたち一人一人がイエス・キリストの弟子、すなわちイエス・キリストに従う者になることの大切さについて。末日聖徒イエス・キリスト教会の会員であることの祝福について。

4. 歌の発表——「イエス・キリストの教会」(『2003年度 分かち合いの時間、ならびに聖餐会での子どもの発表の概要』参照)という歌は、子どもたちが知り、行う事柄に対する決心の歌であると説明する。子ども一人一人に鉛筆と、れんがまたは石の形に切り抜いた小さな紙を配る。子どもたちを9つのグループに分ける。各グループにこの歌の歌詞の一部を説明するような絵を描かせる。子どもたちが絵を描いている間、伴奏者にその歌を静かに弾いてもらう。各グループに、割り当てられた歌詞を歌うときに立ち上がり、絵を見せるように言う。それから子どもたちにれんがまたは石の絵を、教会の建物を簡単に描いた絵の中に貼らせる。全員でこの歌をもう一度最初から歌う。子どもたちがその歌詞を思い出せるように、該当する箇所を、教会の絵の中に貼った各歌詞に対する絵を指していく。各グループを、自分たちの描いた絵の歌詞のところ立ち上がらせる。□





“今、家族について 考えてみませんか……”

～教会のテレビCMを、
一部地方の民放局から実験的に放映～

家族と見ている茶の間のテレビから、突然、教会の広告フィルムが流れたら……。そんな驚きを、鹿児島と沖縄の教会員たちは味わうことになった。昨年11月1日から12月15日まで、鹿児島と沖縄の民放6局(ケーブルTV1局を含む)から、アメリカで教会が制作した広告フィルムの、日本語吹替版と字幕スーパー版あわせて4種類が放映されたのである。

通常、放送局には、公序良俗に反するものは放送しないなど各局に独自の放送基準があり、特に日本にあっては特定の宗教を広告することに難色を示すのが一般的である。事実、福岡伝道部のゴットフレッドソン部長が最初に福岡の放送局を訪ねたときは門前払いの状態だった。

しかしアメリカでは、テレビにキリスト教の伝道師が登場して説教するなど宗教をメディアで扱うことは普通にある。教会も、1970年代から広告フィルムを数多く制作して放映してきた。最近では教会の存在はすでに広く社会に認知されている。

しかし日本においては、宗教に対する一般の偏見や抵抗感が非常に強い。教会の知名度もまだまだ低いため、伝道活動をしやすい土壌を作るためにも教会のテレビ広告は効果的である、とゴットフレッドソン伝道部長は訴えた。その声はソルトレ

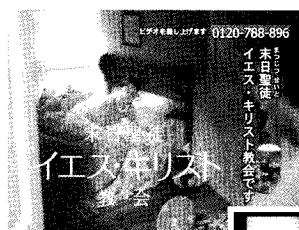
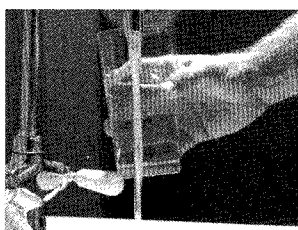
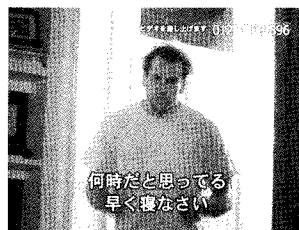
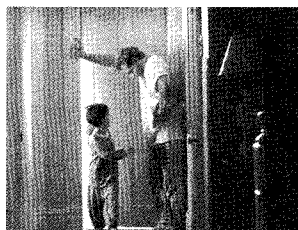
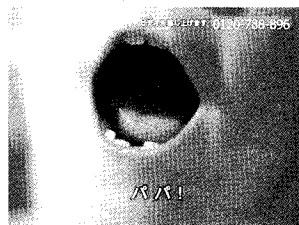
ークで長い時間をかけて検討され、伝道管理部は、福岡伝道部に限っての実験的なプロジェクトとして許可したのである。

一方、教会の許可が下りても放送局側の門戸は固かった。しかし偶然、沖縄に、自ら経営する会社のテレビCMを放送したことのある教会員がいた。この兄弟が地元民放局の幹部を知っていたことから、彼の紹介でゴットフレッドソン伝道部長との会合が持たれることになった。

会合の席上で教会の広告シリーズ「ホーム・フロント」を見せられた民放幹部は、感動し涙ぐんでいたという。その幹部は自らの家族への思いを語り、「広告の質もメッセージも非常に良く、放送するに何の問題もない」と評価した。それをきっかけとして、幾つもの民放局の門戸が開かれ、まさかと思われた教会の広告放映が実現したのである。

放映期間中の放送回数は、早朝・深夜枠からゴールデンタイムまでの様々な時間帯に、平均して1日1局あたり1、2回と、決して多くはなかった。が、それでも多くの教会員は家族や親戚、友人・知人から「見ましたよ」と声をかけられたという。宣教師も手ごたえを感じている。街頭伝道や戸別訪問で、以前は素っ気なく断られていたのが、広告の話題をきっかけに話を聞いてくれる人が増えた。また多くの

「ホーム・フロント」シリーズより、「お水が欲しい」篇、字幕スーパー 60秒



(夜中の家に子ども部屋から呼ぶ声がする)

子ども：ババ!
父親：(寝室で) 呼んでるよ。
母親：うーん。

父親：なに?
子ども：おしっこ。

(再び子どもの呼ぶ声)

子ども：ババ!
父親：なんだい?
子ども：毛布が見つからない。
父親：取ってくる。

(また、子どもの呼ぶ声)

子ども：ババ!
父親：(起きあがってうめく) なんて夜だ。

子ども：お水が欲しい。
(コップに水をくむ父親の手)

子ども：ババ!
(父親を見上げる子ども)

子ども：忘れちゃった。
(ベッドに倒れ込む父親)

子ども：(叫ぶ) ババ!

父親：(怒鳴る) 今何時だと思ってる! 早く寝なさい!
今度はなに?

子ども：……愛してる。

父親：(素っ気なく) ああ、そう。

(出て行く父親、一瞬寂しそうな表情の子ども)

ナレーション：家族のこと、考えてみませんか。

(父親が子ども部屋に戻ってくる)
父親：(優しく) なにかあったらそこにいるからね。ババも愛してるよ。
(子ども、うなずいてスタンドを消す)

ナレーション：末日聖徒イエス・キリスト教会です。

ナレーション：家族のためのビデオ差し上げます。フリーダイヤル788-896。



教会員が教会を誇らしく思い、感激した。長らく教会から足が遠のいていたが、広告を目にし

て教会に戻り、子どもにバプテスマを受けさせた母親もいた。プロジェクトとしての総合的な

評価は放映終了後の総括を待たなければならないが、少なくとも地元教会員にとっては、教

会の存在が広く社会に告知される画期的な出来事となったのである。□

「愛はいつまでも絶えることがない」

～韓国の教会員たちが、台風災害の被災者に救援物資を贈る～

2002年9月17日、地域幹部七十人の高元龍長老は、台風「鹿莎」による洪水被害に遭った人々への救援物資2,000人分を、江陵市の沈起燮市長に届けた。韓国における宗教法人末日聖徒イエスキリスト教会の代表役員であり教会の韓国サービスセンターマネージャーでもある崔斎煥兄弟、ソウル伝道部のレックス・O・カールソン部長、江陵支部の卞太洙支部長も同行した。沈市長は教会の福祉援助に対して謝辞を述べた。援助物資の自身は、毛布、タオル、石けん、歯ブラシその他であった。

2002年9月16日月曜日、午後2時前に、数人の姉妹がソウルステーキ、新堂ワードの文

化ホールにやって来た。わずか1日前に出された人道支援奉仕活動の要請にこたえて、真っ先にやって来た姉妹たちである。毛布の入った130個以上の箱がホールの一方に積まれ、タオル、歯ブラシ、歯磨き、石けんが入った箱が、もう一方に積まれていた。程なく会員たちが続々とホールに集まって来て、責任者の指示の下にカード書きが始まり、次いで援助物資の詰め込み作業が始まった。30台の作業台を囲んで熱心に働く会員たちは、まるで天使のようだった。予想を上回り、100人以上の兄弟姉妹がこの活動に参加した。中には、兵役を解かれて帰郷したばかりの兄弟や、70歳の姉妹もいた。

10日ほど前にバプテスマを受けた崔明淑姉妹は、扶助協会の「家庭・個人を豊かにする集会」の一環としてのこの活動に参加した。崔姉妹は、ワードの姉妹たちと親しくなりたいという思いで参加したという。「この教会が、だれも知らないところで災害に遭われた方々を援助していたなんて、感激です。被害者の方々にじかに会ってお助けできるわけではありませんが、この活動に参加できてとてもうれしいです。」と崔姉妹は話した。

「愛はいつまでも絶えることはない」との横断幕が張られた援助トラック。



午後6時には作業が終了し、参加者たちは来たときより幸せな気持ちで帰って行った。そこには、称賛の拍手も言葉もなかったが、彼らの顔は、キリストのような奉仕から得られる真の幸福と喜びで輝いていた。午後7時ごろ、「愛はいつまでも絶えることがない」と書かれた横断幕が、「愛の箱」を届ける2台の大型トラックの側面に貼られた。□

特集

日本人夫婦宣教師の幸福。

今、日本においても、夫婦で伝道に出る中高年の宣教師たちが増加しつつあります。現在、日本のフィールドで働く夫婦宣教師はアメリカ人夫婦を含めて7カUPLE。中には伝道部長経験者もいます。円熟した人生経験を持つ夫婦宣教師は、彼らにしかできない優れた特質を生かした伝道をしています。夫婦伝道とはどのようなものか、若い専任宣教師たちとどう違うのか。その充実した働きと彼らの幸福を、夫婦伝道の最前線からレポートします。



Q & A : 夫婦伝道の基礎知識

- 年齢制限はありますか——通常は70歳までで、夫婦ともに健康であれば年齢は問われない場合もしばしばです。
 - どのような働きをしますか——地元の指導者を訓練する、神権者の少ない地域では支部長や監督として働く、会員の活発化や改宗者の定着を助ける、地域社会における奉仕活動に従事する、などです。体力のある若い宣教師のように長時間働くことは求められていません。むしろ人生経験や職歴から来る長所、能力、特技を生かして賢明に働くことが求められています。
 - 戸別訪問や街頭伝道をしますか——夫婦宣教師自身が希望する場合にのみ、伝道部で割り当てを受けます。
 - 夫婦宣教師は車で伝道できますか——はい。車を所有している場合は伝道地に持ち込むよう奨励されています。
- (「夫婦宣教師」デビッド・B・ヘイト、「聖徒の道」1997年10月号、26参照)

奄美の海は光とサンゴと海の深さによって、何層にも重なり合った不思議な色を見せてくれる。佐藤姉妹によれば、「悩み事があっても海をみつめていると心が広く穏やかになれる」とのこと。



今まで味わったことのない安らぎと心地よさを感じています

～人の成長を助けて奄美大島に生きる～

佐藤眞太郎長老・啓子姉妹 福岡伝道部専任宣教師
鹿児島地方部名瀬支部で伝道中（岡崎ステーキ・野並支部出身）

小 春日を小夏と開けり 奄美島「一村」——奄美大島は、その自然に魅了されて亜熱帯の植物や魚などを題材に日本画の新境地を開いた画家・田中一村の絵で有名である。95パーセントを山肌が占め、平野のほとんどないここ奄美大島で夫婦宣教師として伝道する佐藤眞太郎長老と啓子姉妹は、12月にあっても日中は半袖、朝晩は薄手の長袖というスタイルで、正に冒頭の一村の句にある「小夏」の中で伝道している。

そもそもは佐藤夫妻の親しい友人夫妻が夫婦宣教師として奄美大島の福岡伝道部名瀬支部へと赴任する予定だった。しかし友人には持病があり、「緊急の医療が必要なときはどうするのだろうか」と佐藤姉妹が心配していたそのとき、その脳裏にある考えが浮かんだ。「わたしたちが彼らの代わりにいきます」と言ったら、そうしてもらうことはできるのだろうか。」その思いはほんの一瞬、頭

をかすめただけで、だれに申し出ることなかった。「しかし、主はちゃんと知っていらしたようです。」ある時、伝道へ行く申請書も出していない二人のもとへ福岡伝道部のゴットフレッドソン部長から電話がかかってきた。「電話をもらった時点で、どのような要件かすぐに理解できました」と佐藤姉妹は言う。福岡に赴いた佐藤夫妻は伝道部長と面接をして、その後申請書を出し、結局は友人夫妻に代わって2001年6月30日に奄美大島へ赴くことになったのである。「ほんとうは定年後はもう少しゆっくりして、ソルトレークへ1か月ほど行く計画もしていたんです」と語る二人に思いがけず夫婦宣教師として働く機会が訪れたのはこんな次第であった。

支部長として支部を整える

名瀬支部に着任した最初の安息日に集っていたのは12人の教会員だった。「主の教えを定着させるためには、初等

協会と青少年の組織を作る必要がありました。幼いころから福音をしっかりと教えなければ将来的な成長はないと感じたからです」と、支部長としても召された佐藤長老は赴任当初の様子を語る。佐藤長老は支部長に加え、神権会の教師と日曜学校の教師も兼任することとなった。佐藤姉妹は若い女性の教師と早朝セミナーの教師としても働く。責任を兼務しながら伝道することには、「若い宣教師とは違った苦勞もある」と漏らす。教会員や副支部長として働く二人の若い宣教師の助けもあり、やがて多いときには40人ほどが集うようになった。「まだまだ出席者は少ないけれど希望はあります。」

地元の人を抱える問題に奔走する

「奄美大島で教会員として生活するのはそう簡単ではありません」と佐藤長老は島の暮らしの実情を説明する。美しい自然に恵まれている一方で、経済的には基盤が弱く、賃金は低く仕事の口も少ない。地元の教会員や求道者にとって佐藤夫妻は生活上の問題の相談役でもある。「雇用問題や失業率の高さからも、求道者が什分の一、安息日、知恵の言葉などの戒めを守るには困難がついて回ります。レッスンで簡単に教えるぐらいでは正しく理解してもらえません。求道者でも教会員でも、個人的にじっくりと話し合っただけで丁寧な証を述べていかなければならないのです。わたしたちは時に福音を伝える以前に、家庭を整え管理する方法について教える必要ありません。」実際に二人は、教会員や求道者を助けるのみならず、島で暮らす一般の人々のトラブルを解決するためにもしばしば真剣に奔走することになる。

あるとき佐藤夫妻は、コインランドリーに寝泊まりしている女性と出会った。その人は夫の虐待に耐えかねて家を出てきていた。途方に暮れていた彼女に対して佐藤夫妻は数週間にわたって相談相手となり、ともに役所に足を運び、法的な手続きについて模索し、行政の

奄美には野生のバナナがけっこうあり、佐藤長老によれば「普通のバナナよりもおいしい」とのこと。

援助を受けて自立した生活が営めるようになるまで奔走した。そうしたときには、「絶対にあきらめることはできないんです。あきらめそうになると主の悲しい顔が浮かびますから」と夫妻は語る。

あきらめないこと

佐藤長老姉妹は3年前に最愛の息子さんを直腸がんで亡くしている。その息子さんの死も、振り返ると伝道の備えになっていたと話す。「息子は息を引き取る直前まで頑張っていました。死期が近づいているのを知りながら、どうしてそんなに頑張ろうとしているのか不思議でなりません。どんなに苦しんでも、息子はどこまで頑張れるか試したかったのだと思います。自分が頑張ったことに満足したかったのだと思います。初等協会のときに聞いていた福音が、息子の支えになり、息子を最期まで頑張らせたのだと思います。」病魔と闘っていた息子さんの壮絶な姿は、佐藤長老姉妹に、あきらめないことの偉大さを教えてくれた。まるですぐそばにいる息子を誉めるかのように話しながら、時折、佐藤長老も佐藤姉妹も目を潤ませて回想する。

「わたしたちが体の弱い息子を教会へ連れて行っていたのではなく、わたしたちが息子に連れられて教会に行っていたのではないかと思います。息子は『お父さんもお母さんも、もうそろそろ自分たちで教会へ行けるから大丈夫だね』と言いながら去って行ったように感じます。葬儀の時には多くの方々が集まってくださり、息子は現世における最後の伝道をしてくれました。そして、わたしたちも人生の目的にさらに思いを向け、少しずつ備えられていきました。わたしたちの知らないところで、主は着々と準備を進められていたように思います。すべてのことには主が用意された道筋があります。」

人が変わってゆくのを助ける召し

「伝道というのは人が心の底から変わ

るのを助けるのが目的であって、自分の成長にばかり関心を向けるべきではありません。伝道へ来る以前、どうしたら成長できるかを知っているつもりでしたが、それは頭の中だけのことで、単なる知識にすぎなかったと思い知らされました。求道者や教会員に対して自分がどれくらい愛情を持っているのか、何度も生活の中で試されることがあります。」

「本当に主の教えを理解した人たちは必ず変わります。」二人が断言するその言葉は、奄美大島での様々な経験に裏打ちされている。「教会員の中には、白紙のような状態で何でも吸収していく人もいます。変わっていく自分に気がついてうれしさを感じる人もいます。求道者も教会員もそのような形で生活を変えていってほしいと願っています。すべての人は、主が自分をどうご覧になっているか、自分の最終目的は何なのか、ほんとうの慰めはどこから来るのかを知る必要があります。」

佐藤長老姉妹は、自分たち家族が改宗した当時を振り返りながら次のように話す。「わたしたちは改宗したときから、什分の一の戒め、安息日の戒めを確実に守ってきました。それは信仰の基礎を作るうえでとても大切なことでした。安息日は求道者のときから教会に通っていました。教会員となつてからは責任を頂き、そして良い友人にも恵まれました。それはわたしたちの信仰生活の祝福となりました。新会員のときに多くの方々から訓練されたのは素晴らしい経験でした。奄美大島の会員にも同じ経験をしてほしいと願っています。」

残りの伝道期間も3か月となった二人は、「伝道が終わりに近づくにつれ『死者の中から叫ぶもののように』(モロナイ10:27)と記したモロナイの気持ちが分かります」と言う。「教会員の中には『まだ証がない』という人もいますが、『あなたにも証はありますよ』と、力を込めて呼び訴えたい気持ちです。『あなたが信仰生活を送るときに、主の喜んでおられる顔が思い浮かんだならば、ほん

とくにわたしはうれしいですよ』と両腕をつかんで、体を揺さぶるようにして伝えたいほどです。」

同時に夫婦宣教師という召しについても語る。「夫婦宣教師は、一つのことを二人で集中して行わなければなりません。この経験はほかではできないものだと思います。定年後に夫婦と一緒にすべきことを見つけられない世の中で、一緒に携わるものがあるというのは素晴らしいことです。」この世界に夫婦宣教師が必要とされているフィールドはたくさんあり、「もっともっと(夫婦)宣教師が必要です」と佐藤夫妻は強調する。

名瀬の人々のことを話すとき、夫妻の口調には愛情がにじむ。「わたしたちはいつも人々と根気強く接しなければなりません。また、地元の人々によって運営できるような教会を目指す必要があります。そのためにも、この島にはもっと神権者が必要です。毎週の^{せいさん}聖餐会は、出席の多い日も少ない日もあり、出席する兄弟姉妹の顔を見て一喜一憂しています。様々な厳しい諸問題を抱える中で、名瀬支部の人々は信仰を育て、貫いていくことの大切さを学んでいます。わたしはこの奄美で、今までの信仰生活の中では味わったことのない安らぎと心地よさを感じています。」

奄美を愛し、^{ついで}終の住処とした放浪の画家・田中一村は、自分の作品について「何と批評されてもわたしは満足なのです。それを見せる為に描いたのではなくわたしの良心を納得させる為にやったのですから」と語っているという。佐藤長老姉妹にとっての作品である奄美での伝道生活についても、二人は「何と批評されても満足」に違いない。田中一村とは別の意味で、佐藤夫妻も、ここで探し求めていたものを見つけたのだから。□

「アダン」という奄美地方に多い植物の葉。

1年前に改宗した家族と副支部長を務める二人の宣教師とともに名瀬支部の前にて。

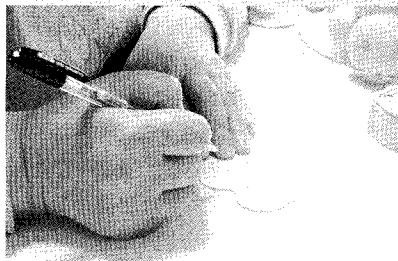


起床。二人のお気に入りのリビングルームで朝の祈りをささげる。



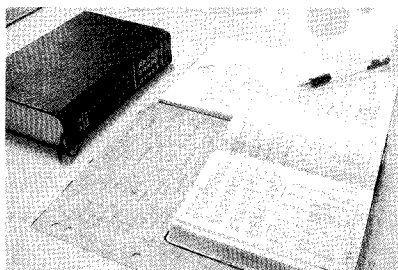
7:00 a.m.

一緒に働く宣教師や教会員、求道者の名前を書き出して伝道の祈りをささげる。



7:30 a.m.

聖典の勉強をしたり証をしたためたりする。



8:00 a.m.

朝食。



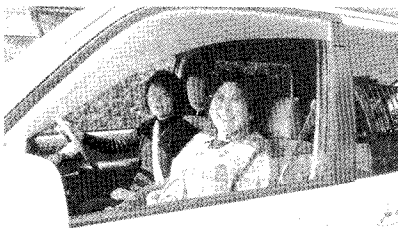
9:00 a.m.

庭の手入れに訪れた教会員に感謝を伝える。



9:30 a.m.

迎えに来た教会員と一緒に田中姉妹は家庭訪問へ出発。



密着取材 夫婦宣教師の 24時間

田中市長老・次子姉妹
東京北伝道部専任宣教師
(京都ステーキ
下鴨ワード出身)

田中市長老と

次子姉妹は東京北伝道部で夫婦で専任教師として働いている。

全国で増えつつある夫婦宣教師の生活とはどんなものなのか、伝道生活も残すところ二週間となったお二人の生活をレポートするとともに、夫婦宣教師ならではの経験^{あかし}を語ってもらった。

「伝道に出ても証のない年寄りには用がありません。」田中長老は伝道へ行く前の自分を振り返りながら自嘲する。「それならば証が得られる所はどこだろうと考えているときに、神殿宣教師として働く機会に恵まれました。しかし、それも簡単ではありませんでした。神殿に思いが強く向いていなかったため、結局、あきらめなければなりません。突然、頭の中に仕事のことを思い浮かんだ時点でだめになってしまいました。2度目に神殿宣教師へなろうと思ったときにも、病弱の姉のことを考えたら神殿から思いが離れてしまいました。3度目に神殿へ行く決心したときには、家を建て替えたときに「せっかく建てたのだから半年でも住んでから神殿へ行ってはどうですか」と周囲からも言われましたが、「もう心をほかに移したら神殿へは行けない」と思い立ち、振り切るようにして神殿へと向かいました。」こうして田中夫妻はまず神殿宣教師として奉仕の業に仕え始める。

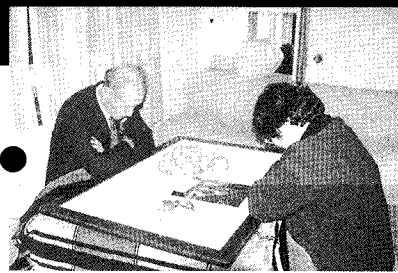
「多くの人は神様の教えに忠実に生活されています。しかし、神殿や伝道など『神の務め』に出で立つように求められたとき、子供、孫、家、車、土地などの、この世のものに目が向いてしまうと、召しは離れてい

10:00 a.m.

家庭訪問先で糸図提出のアドバイスや神殿活動の大切さを伝える。



10:00 p.m. 就寝。一日の感謝を込めて祈りを捧げる。



ってしまいます。土地という偶像、お金という偶像、ときには孫という偶像に縛られてしまって、理由をつけて神様の召しに旅立てなくなります。現在の生活の安寧^{あんねい}ではなく、永遠の観点から神様の業に仕えることは大切です。現世のものばかりに心がとらわれてはいけません。」田中長老は自身の経験をもとにごう話す。

2年2か月の神殿宣教師としての奉仕は、現在の伝道生活には欠かせない通過点であったと田中長老は語る。神殿宣教師のときは、一緒に召されていても奉仕の時間帯が違うことから夫婦が離れていることも多かったが、今はほとんど一緒なので気持ちも落ち着くという。「夫婦伝道は今までの人生の集大成のようなものです。いろんな経験を積んだ人ほど、伝道で活用する機会に恵まれます」と二人はともに言う。

神殿宣教師の務めを終えて、間もなくフィールドで働く宣教師としての申請を出した後も、事は簡単には進まなかった。JMTCに入所する当日に田中姉妹が腰の手術を受けることになったのである。手術後も回復に時間がかかり、杖^{つえ}をつき、田中姉妹は歩くのもやっとの思いでJMTCで学ばなければならなかった。

「犠牲の大きさを考えると専任宣教師になるのは大変かと思いました。しかし、主の助けの中で様々な喜びを経験し、2年間の伝道期間を全うすることができました。そんな時に伝道部長から『夫婦宣教師は2年半まで伝道することができる』と知らされました。」それは、「貯金もなくなって、年金だけで苦しくなってきたね」と田中姉妹が話し始めていたころだった。「どこまでできるか分かりませんし、苦しいかもしれませんが、まずは受けてみようと思いま

11:00 a.m.

教会員からいただいた野菜。いつも助けられていると田中長老は感謝する。



9:30p.m.

帰宅。一日を振り返って夫婦で反省会。



7:30p.m.

姉妹宣教師たちと一緒に教会員宅に夕食に招かれる。



6:00p.m.

訪問先ではさらなる系図提出について丁寧に話をすることが多い。



5:00p.m.

「働くときはできるだけ教会員と」が二人の信条。



4:00p.m.

監督とともにホームティーチングのメッセージを伝える。



3:30p.m.

どこへ行っても子どもたちは絶大の人気がある。



3:00p.m.

疲れもたまり、車の中でちょっと休憩。



2:00p.m.

監督と合流して会員宅の訪問を続ける。



した」と田中長老はそのときの状況を話す。そして、その二人の決心を支えるように主は多くの祝福を与えてくださった。「松本に赴任しているときには、亡くなられた教会員のご家族から、そのお宅をお借りすることができました。富山では夫婦宣教師として伝道に赴かれている方々の家をお借りすることができました。苦しいときには必ず助けがあります。その助けをもらうためには正しい犠牲をささげることが必要です。わたしたちは、言われたことに対してただこたえただけですが、後で振り返ると神様の祝福がついて回っていたことに気がつきました。神様は召すだけではありません。召した人を守ってくれるんです。」これは二人にとって強い証となった。

夫婦宣教師は若い宣教師たちから、いろいろと相談されたり、困ったときに頼りにされることも多い。田中長老姉妹のもとへも困ったときには若い宣教師たちから電話がかかってくる。あるとき、横断歩道を渡っていた宣教師が車にはねられるというひき逃げ事件があった。ワードの監督とともに警察の対応に当たり、午前2時ころまで奔走した。翌日、加害者が特定され、「相手にどのように対処しますか？」と警察署で尋ねられたときに田中長老は、「たとえ相手が法に触れたことをしたとしても、わたしたちは訴えることはしません。被害にあった部分だけに対処していただければけっこうです」と答えた。警察官たちは田中長老に「どういう教会ですか」と再び尋ねた。田中長老は声を大にして「末日聖徒イエス・キリスト教会という、人を赦す教会です」と話したと微笑む。

田中長老姉妹は夫婦宣教師として、教会員への訪問、新会員や求道者へのレッスン、

系図の提出の手助けなどを行っている。神殿で奉仕した経験があるからこそ、その経験は大いに役立っている。また、若い宣教師はアパートの部屋に教会員を入れることはできないが、夫婦宣教師は教会員や求道者を招くことができるので、家庭の夕べやバプテスマ後のレッスンを彼らの部屋で行うこともある。「わたしたちは常に『楽しく伝道しよう』と心がけているんです。そして、楽しみながら神様のもとへ帰りたいと思っています。頭を下げて、隠れたり逃げるようにして神様のもとへ帰るのではなく、胸を張って堂々と帰りたいという希望があります。伝道はそのための道なのです。」

田中長老姉妹にとって最初の任地であり、最後の任地にもなった富山ワードの清水監督は、田中夫妻について感謝を込めてこう語る。「二人がいるだけで、雰囲気も明るくなりました。子どもたちにも人気があり、ワードの中は活気があふれてきました。また、夫婦宣教師の模範は、若い教会員の夫婦に対しても影響を与えてくれたと思います。神殿とフィールドの両方で夫婦宣教師として働きたい気持ちにさせてくれる人たちでした。」田中姉妹は奉仕の日々を振り返って述懐する。「宣教師として人を愛するようにわたしたちは言われていました。しかし、すべての伝道地で、自分たちは愛するよりも、むしろ教会員や出会う人々から愛されていると感じました。」

JMTCへ入所する日に腰の手術を行った田中姉妹の手には、もう杖はない。夫婦で主の業に専念して走り抜けた2年半を、京都の自宅へ戻ってからゆっくりと振り返ったときに、二人はきっと、ささげた犠牲以上に主から与えられた多くの祝福があったことに、さらに気がつくことだろう。□

12:00noon.

昼食。



1:00p.m.

教会員の家庭を訪問するために出発。



2:00p.m.

監督と合流して会員宅の訪問を続ける。





何の不安もありません。主は必要なものを すべて準備してくださいました

～試練を祝福に変えて、大きな働きを成し遂げた夫婦宣教師～

日本札幌ステーキ苫小牧支部 中村^{まさのぶ}雅延兄弟、^{たえこ}妙子姉妹

「中村兄弟、神殿宣教師になってください。」1995年の秋、神殿3階の礼拝堂で菊地良彦神殿長から耳元でささやかれた、思いも寄らないその言葉は、中村夫妻のその後の人生を大きく変えることになった。

当時中村兄弟は定年退職まであと3年、その後も嘱託で2年間の雇用を保証されていた。退職金も含めるとその間の収入は数千万円に上る。定年まで勤め、年金生活に入ってから伝道に出ようと計画していた中村兄弟に、貯金もままならないまま、その収入と引き換えるようにして宣教師の召しが訪れたのである。「菊地神殿長はなぜわたしの名前を知っていたのだろう。」「なぜ今、宣教師にならなければならないのだろう。」様々な思いが中村兄弟の胸をよぎる。一人悩む日々を2か月続けた後、中村兄弟は姉妹に打ち明けた。召しにこたえようと決心した二人にはもう迷いはなかった。

神殿宣教師の経験は、期待通り金銭

とは比較にならないものを二人に与えてくれた。菊地長老の従順さと謙遜さの模範に触れ、死者の救いの業への証を得た1年7か月間の任期中には副神殿長の召しも受けた。

主に養われる日々

神殿宣教師の任期を終え、故郷の苫小牧での生活が1年過ぎた1999年4月、今度は専任宣教師の召しを受けた。蓄えはなかったが、伝道資金の援助を受け、愛車に荷物を積んで深夜の苫小牧港を旅立った。任地は静岡県の沼津市であった。

中村夫妻の伝道は非常に実りあるものであったが、同時に試練も多く、特に資金面では苦労が続いた。沼津に赴任してからは、月7万のアパート家賃の支払いに苦労し、毎月の食費はわずか2万という生活が続いた。1年以上が過ぎたころ、家賃の支払いが困難になり、ついにアパートを出なければならなくなってしまう

った。しかし夫妻が苦況に陥っていたそのとき、沼津支部に集う一人暮らしの姉妹から声をかけられた。「中村兄弟、わたしハワイに伝道の召しを受けたんです。家賃は要りませんので、よろしければわたしの家で留守を預かっていただけませんか。」それから清水支部に転勤するまでの間、彼女の家に住むことになった。

清水支部に転勤したのは2000年の8月、そのころ資金面で別の問題が起っていた。中村兄弟は離職中の2年間、月々の給与の形で会社から伝道資金の援助を受け、その代わりとして、空き家となる夫妻の自宅を社長の別宅用に4万円で提供、家賃を給与の一部として盛り込むという約束で中村兄弟の口座には毎月9万2,000円が振り込まれていた。社長の厚意であった。ところがその社長が突然^{めん}崩壊で他界、会社もその数か月後には倒産してしまったのである。中村夫妻の資金は途絶え、伝道半ばでの帰還もやむなしと思われた。しかし^{ほうぜん}杳然と肩を落としていた中村兄弟の脳裏に、社長が他界した際に社員の一人が語ったある言葉が浮かんだ。「銀行に月々振り込まれていた4万円は打ち切らせていただきます。」中村夫妻は会社が倒産するまでの数か月間、この意味が理解できずにいた。それを確かめるべく、中村兄弟は苫小牧にある別口座の残高を確認した。すると、給与の一部として盛り込まれていたはずの4万円は給与の9万2,000円とは別に毎月振り込まれており、その額は数十万円に上っていた。「神様は確かにおられ、すべてを御存じであられる。」夫妻が改めてそう確信した瞬間だった。

しかし伝道を続けるには、これ以上家賃7万円といったアパートに住むことはできず、半額以下のアパートを探さなければならぬ。物件がなかなか思うようが見つからなかったとき、同じワードに集う岩本兄弟に助けられた。前年に中村夫妻が若い宣教師と一緒にレッスンをし、改宗した兄弟である。彼はアパートの経営者であり、中村夫妻の状況を考慮